

天
翔
る
み
た
ま



講話集

天翔るみたま

第九回 神道講演全国研修大会 愛媛大会
第十回 神道講演全国研修大会 東京大会

題字揮毫

靖國神社宮司

大野俊康

序

靖國神社宮司
全国神道講演研究同志会顧問

大野俊康

聞く人のさらにあらずば道のへの

石に叶ばむ石も動くまでに

とは恩師石井寿夫先生の絶唱であります。

先生逝かれまして、はや五年となりました。

神社本庁教化講師の故石井寿夫・佐古幸嬰両先生の道統を受け継ぐ全国同志連は、互ひの切磋琢磨の場として、絶ゆることなく神道講演研修大会を続行して参りました。

本書は第九回大会の愛媛縣護國神社（平成五年）、第十回大会の靖國神社（平成六年）で開催された両大会の合併講話集であります。

第三回大会以来、講話集を刊行し、『五十鈴川』、『神國の春』、『平成の民の祈り』、『うまし国 日本』、『食國の祈り』に次ぐ第六輯であります。

昨年は終戦五十年といふ節目の年に当り、神社本庁では、「靖國神社・各縣護國神社へ感謝の参拜を」といふ大運動を御提唱いただき、お蔭さまで、神社界を始めとする御参拜が相つぎ、感謝と感激の日々でありました。

他方、この大切な年に、政界では謝罪決議、財界では住專問題、教育界にはいぢめ問題、宗教界にはオウム事件等が続出し、まさに道義地に墜ちた年となりました。

しかし、靖國神社・各縣護國神社に結集するこの“正氣”のある限り、日本の復興は必ず達成できると確信するに到りました。

ことに、われわれ同志連は、この終戦五十年に先立ち、愛媛縣護國神社、靖國神社に於て、憂國熱血の雄叫びを挙げ、この年に備へたのであります。両会場での発表は自ら、天翔り国翔り祖国日本を守り給ふ靖國・護國の英靈と、恩師石井寿夫先生を始めとする先輩諸賢が残された“正氣”を継承し、その実践を誓ふ体の熱弁がその主軸となりました。ここに本書を『天翔るみたま』と名付けた次第であります。

本年は奇しくも、全国神社の本宗と仰ぎまつる、伊勢の神宮（内宮）御鎮座二千年といふ神道恢弘の良き年に当ります。

「日本の神道は必ず世界の宝となる。かたく信じて御健斗あれ。」との石井先生の御遺言を胸に秘めつつ、本年の第十二回大会を広島の地で開催し、併せて先生の五年祭を齎行。本書を御霊前にお供へ申し上げます。

まことに時宜を得た講話集第六輯の『天翔るみたま』の刊行を心からお祝ひ申し上げます、「序文」といたします。

目次

天翔るみたま

序 大野 俊康

第九回神道講演全国研修大会 愛媛大会 ー於 愛媛県護國神社ー

大宮 四郎 2 神主の器量、伊予の敵戈と米山

相原 牧雄 6 御英靈敬謝顯彰祭

河野 誠 12 出会い

村田 和弘 16 一神主の誕生

野村 好史 20 敬する心

村田 和之 29 鮎も人に似て

稻垣 豊久 33 皇太子殿下御成婚を壽ぎ奉りて

中山 嘉洸 37 神宝の意味

西村 純子 41 華麗なる皇太子御成婚

相原 龍	46	浮嶋神社のご祭神について
綾川 憲子	50	神道講演全国研修大会に参加して
白土 秀司	52	愛媛玉串料訴訟第一審判決を考える
大島 守彦	57	慰霊祭について思う
飯田 博信	61	神社と森
古川 雅恵	65	婦人会員のまなざし
吉井 シヅエ	69	金刀比羅神社建立に至るまで
松本 スミ子	73	一杯の水
秋野 義正	77	蘇り
二橋 一彦	80	鎮守の森は環境指標林
藤井 和文	85	学生君との付きあい
加藤 英司	88	留魂
大岡 忠徳	92	文化意識の違い
大竹 久雄	97	平成の御代づくりは“祓い”にあり
飯田 吉正	104	流れの変る恐ろしさ

坂 明夫	107	永遠なり靖國神社
竹中啓悟	111	“心のふるさと” 靖國神社―御神意に叶う神徳の高揚―
高尾一胤	115	お祭りの意味は
大島義成	120	村まつりの本根
田中正也	122	所懐
岩崎 均	125	外国人のみる神道
戸内康雅	130	三つの「しあはせ」
河本忠澄	134	伊勢神宮の思い出
金丸光作	141	温故知新
平川 視佳	146	継ぎゆくこと
波多野 學	151	高見神社裏参道・八幡製鉄所高見社宅地区桜の園開放のこころ
中澤三千夫	155	火を拝む
山本行隆	159	万国宗教会議百周年記念日本大会について

第十回神道講演全国大会 東京大会 — 於 靖國神社 —

坂 明夫	168	英霊の恩
初山かほる	172	教育勅語
村田 和弘	177	広島は今
谷田 吉暢	181	国旗掲揚と国歌斉唱について
飯田 博信	185	神社と森
清水 祥彦	188	東京都神道青年の主張—家の将来—
大竹 久雄	192	甦る日本の心 御遷宮
葛城 周佳	198	明日は我身か
渡辺みどり	203	藤原歌劇団の音楽鑑賞に想う
大島 守彦	207	歴史の変遷と神職の心
山本行隆	211	太陽を拝んで
松本スミ子	218	御社頭に額きて
高尾 一胤	222	エピソード

相原牧雄	224	ああ靖國の神様は
高山定基	228	日はまた昇る
吉永吉治	232	秋祭斎行について
田中正也	237	避けて通れぬ道なれば
古川雅恵	239	御英霊の御前に誓う
二橋一彦	244	自然とのかかわり
黒田明司	249	侵略戦争について
河野ミチコ	252	夫を慕う五十回忌
加藤英司	256	底を叩くとき
初山吉凡	262	つぐない
坪井典男	265	生かすちから
河本忠澄	268	吾が領主・国司信濃公
久野和穂	272	英霊の御心に応え奉る
池田陽一	278	靖國に思う
野村好史	281	敬・愛

綾川 憲子 288 神のみ心のままに

藤田 長政 292 大東亜戦争の真の意義―亡き戦友に捧げる―

金丸 光作 296 藤谷君会いに来たぜ靖國へ

波多野 學 301 大東亜の防人―文弱日本―

古屋 真弘 306 時代に合わせた“まつり”のかたち

徳久 豊彦 310 「神」になった警官―靖國の英霊を偲ぶ―

西村 純子 314 自然いきいき鎮守の森

河野 誠 318 郷土の英霊を偲びて

大宮 四郎 322 日本の祈り

芦原 高穂 326 山崎闇齋・神道への回帰

本澤 みさ 330 戦没者慰霊祭に奉仕して

星野 暢廣 335 命

渡辺 知宣 340 国を愛した人々

秋野 義正 346 靖國の英霊に応え奉らん



愛媛縣護国神社神門より御本殿を拝す



第九回 神道講演全國研修大会 愛媛大会 平成5年7月19日～21日 於愛媛縣護國神社

第九回神道講演全国研修大会 愛媛大会

とき 平成五年七月十九日～二十一日
ところ 愛媛県護國神社・みゆき会館

神主の器量、伊予の厳戈と米山

いかしほこ べいざん

大宮四郎

御承知の様に神社には、氏神信仰の盛んな神社、特殊信仰を持つ神社、観光的内容に生きたる神社、文化財を中心にした神社と色々ある訳であります。今日は神主を代表とする神社についてお話し致したいと存じます。

出雲大社に於ける国造家などが、その例であります。この愛媛県に於ていかに神主が偉大な存在であったかをお話し致したいと思ひます。

愛媛県大洲市の八幡神社に参拝いたしますと、その参道の入口に、常磐井厳戈先生頌徳碑がございます。これは昭和三十八年十二月八日を選んで八幡宮神主、常磐井厳戈の百年祭を期して、県下有職の人々により建立されたものでありますが、この常磐井厳戈こそ、伊予の生んだ偉大なる神主でありました。大洲に生まれ、十六歳で八幡宮神主を継承以来、父祖伝来の橘家神道、国学、儒学を發展させ、さらに蘭学にも造詣を深め、広汎で深遠な

学問を以て古学堂を興し、多くの子弟を教導し、氏子の国学者・矢野玄道を引き連れ、敬神尊皇の大義を実践して、文久三年その生涯を終えた豪傑の神主であります。

今よりは誰にか問はん神さぶる 神路の山の 道のおくがを

矢野玄道をして嘆ぜしめた厳戈は、このようにして惟神の玄の玄を深めて一生を終ったのであります。私の祖父も、この厳戈先生の御教導をいただいたのでありますが、同じその弟子に、三輪田米山が居ります。この米山こそ、松山市久米の日尾八幡神社の神主であります。彼も師厳戈と同じく生涯を神主として専心し、天下の風雲に燃える思いを抱きながら、それを凝氷して祭祀に務めたのであります。豪放で細事に泥まず斗酒猶辭せず、また書に精魂を入れ、悠々、老を養い八十八歳の天壽を神主として全うしたのであります。今日でも大洲の八幡神社を知る人は、「あの常磐井厳戈先生のお社か」と言います、久米の日尾八幡を知る人も、「あの米山さんのお社か」と言います。まさに神主を代表とする神社の典型だと思っております。私共は、神主が神社に於て如何に大きな存在であるかを痛感いたします。

色々な逸話があります。ある日、厳戈は大洲の町を歩いていました。ところがその格好が変っていた。日中炎天下に、高下駄をはいて灯燈を掲げて悠々と歩いていたというので

す。恐る恐るその訳を聞くと、「俺は今、人間を探して歩いている」というのです。封建の世で尊皇の義を知らぬ、ふぬけ武士共の多い世を憂えての誠に敵戈らしい見識であります。豪気磊落、八升の大瓢を常に側において、斗酒なお辞せず、天真爛漫、見事な酒豪で誠に見識高い神主でありました。

千尋繩 かけて引くとも真木柱 たてし心の 動くべしやは

その弟子、米山も亦、豪傑でありました。王政維新の頃、松山藩より戦勝の祈願を命ぜられたのでありますが、当時、佐幕派の藩論に抗して、「朝敵の勝たんことを祈るは臣子の分ではない。お断り申す。」といって悠然として閉門に応じたと言います。又ある時、藩主屋敷の正月祈禱に行った折、烏帽子を忘れて、風呂敷を頭にまきつけて、「ごめん」とばかり平然として祭祀を厳修したという。書を愛し、酒を愛し、悠々として、貧しいながらも誇り高く、その生涯を終った見識高い神主であつたのであります。

神主にとって必要なものは、器量高き見識であります。酒は見識を高める燃える燃料であつたのであります。

「見識は学問より生ず、学問をして人間が上等にならぬぐらいなら、始めから無学である方が良し」とは、松山に子規を尋ねた漱石の言葉でありますが、見識には深い学問が必要

であります。この学問が神主の器量を高めます。

神前結婚が多いから何とか食える、という神主ばかりでは困ります。神主では食えぬという神主ばかりでは神道は亡びます。

酒も飲めねば書も書けず、時勢の洞察も出来ねば氏子に愛せられることも出来ぬとあつては、敵戈、米山等々、先人に顔向けも出来ません。どうか、愛媛の生んだ先人の別品にならつて、食える神主、食えぬ神主、お互いに情熱を盡しあつて器量高き神主として燃えたり、たぎっていききたいと祈りあげます。

・くつな忽那島八幡宮宮司 愛媛県温泉郡中島町大浦

御英靈敬謝顕彰祭

相原牧雄

靖國神社や、全国の、各護國神社の大前に額ぬかづきますと、私は肅然と畏みます。愛媛県護國神社の広前ひろまえでは、涙が流れてやみません。

それは、私が、松山歩兵連隊の一兵卒として親しかった戦友達が、立派な上官が、日支事変に、大東亜戦中に、夥おびただしく、殆ど全員戦死せられ、悠久の大義を貫かれ、尊厳なる、御国守りの神様と成り給い、神殿に神鎮り給う御顔、御顔が浮んで来るからで御座います。

私は二年兵になると図らずも、上官の命令を受けて、厳しい試験を重ね、憲兵科に転じて出征、南京の学校の区隊長勤務中に、終戦の大詔おおみことりを拝受して号泣。日夜、神様に熱く

祈り続けて、遂に、世界維新の大祝詞を天授させて頂き、奇蹟連続。翌年、復員帰国。古里の大三島ふるさとに帰り着きました。当時、国民は混迷、日本魂を失いまして「戦死者は、犬死だよ」と、暴言を吐く者等も輩出する状を、神々様は御照覧せられ、毎晩のように、私

の夢枕に御立ち遊ばされました。御啓導おんみちびきを賜り、大義の為に、英靈御慰問の旅に出立ちました。

全国の野山に寝て起き、毎日随分と沢山の御墓や、御遺族の御宅を、御慰問中の或る朝、不思議な靈動が起り、歌が流れ出しました。

英靈御慰問の旅

ああ英靈の御父上様　ああ英靈の御母上様

ああ英靈の奥様よ　ああ英靈の御子達おこたちよ

ああ英靈の御祖父様　ああ英靈の御祖母様

ああ英靈の兄弟　姉や妹の方々よ

御苦勞様で御座います　御苦勞様で御座います

わたしも若き愛国の　血潮に燃えて入隊し

頼みに頼み　二十四歳にじゅうしの暮には海を乗り越えて

中支の野辺に十年の軍隊おつとめをして

昨年の七月五日に帰還した　復員男で御座います

約十年の間には ああ 沢山の戦友が
次ぎから次へと死にました

歸りて見ればコワソモニ出征時いでゆくときはあれほどに
旗振りながら感激の 見送りしたる人々の
心は秋の空となり 変り果てたる世相よのさまに
じつと眺むる事出来ず

ああ 君の為国の為 七千万の民の為
いのちをかけて戦いし 戦友の靈みたまは今いづこ
せて祝詞のりとの一卷ひとまきや 御経おきよつと一つも捧げむと
山川越えて旅まくらコウシテやつと御訪おたづねし
戦友の英靈みたまに真心まごころを捧ぐる事の出来るのも
奇しき御縁えにしで御座います ああ 私は只々ただただに
真心こめて祈らせて頂き度いので御座います

「我等の生きてゐる限り英霊の清い御心を
受け継ぎながら只管に 天皇陛下を御守りし
明るい日本 再建し 大御心に御答えし
英霊の神魂に応えます何卒御心安くめせ」と
真心こめて祈ります

英霊が死んだと思われず何処かに生きていて呉れて何時かは元気な顔をして帰って来る
かと思ひ升 毎日毎日そればかり思っていますと言われつつ ああ英霊の母上は戦地から
来た御手紙や 軍服姿勇ましい 御写真などを皆出して わたしに見せて呉れました

ああ英霊の御家族よ ほんとにほんとに戦友は
たとえ肉こそ身体こそ碎けて飛びて散り失せて
また海底に朽ちぬとも神霊は常に生きまして
貴方の御家や此の村や皇御国を守護られて

ある!!事だけは確かです

ああ日本にっぽんは不思議なる 御国みくにです故不思議にも

不思議に再建致します そうです案外近いです

今までよりも其れよりも より盛大な御慰霊ごいれいの

御祭させて頂ける 輝く御代みよが参ります

輝く御世が参ります ああ其れ迄は今暫し

ああ其れ迄は今暫し……。

お待ち下さいませ……と、私自身は、書き度いと思いましたが霊動れいどうは止みました。

此の御慰問旅ごいもんたびの間に、思いもかけぬ靈験おかげを沢山拝受たくさんはいじゅ、御神示ごしんじ通り満半年巡拝まんはんしゅんぱい後帰宅。私

達も毎年秋、全国各地より広島護國神社大前に参集、厳肅盛大な御英霊敬謝ごえいれいけいしやけんしやうさい顕彰祭を

齋行いっきぎやうります。

私共の御祭みまつりも天に通じ「目に見えぬ神の喜び給う時、目に見ゆる宝を常に戴く」のであ

ります。

今年春、広島護國神社春季例大祭に、昇殿参拝の感激を胸に、帰宅途中、高崎正風先生の短冊「陸海軍人戦死者の忠魂を靖國神社に祭らせ給ひける日に、戦ひて死ぬべきものと今ぞ知る皇御国の益良武男は」を、更に、野津元帥の「かくばかり御国に尽す人にして、神の守のなど無からめや」の扇までも拝受、感激一入で御座います。私達は益々、御英霊敬謝顕彰に全力を捧げ、敬神尊皇の真道を歩み続けます。神も人も、一層の御守護と御啓導とを、御願い申し上げます。

御英霊の 神徳で御国は 繁栄し

アジア アフリカ 国生れたり。 ああ。

・切幡神社宮司 広島県安芸郡海田町砂走一三―二六

出 会 い

河野の

誠まこと

本日は夜分遅く、しかも朝から降り続く雨にも関わりませず、多数おまいりくださいます、有り難うございます。

毎月こうしてお元氣な皆様にお会い出来る事を大変嬉しく思っています。

私達は健康であればこそ、石段を登ってお参りできるのです。生きている証しです。

ところで、両親の出会いによって、この世に生を受けた私達は、成長するに従って、友達と遊び、親や先生から色々のことを教えられながら青年へと成長してきました。

やがて、人生の中で最も大切な出会いで、おたがいの将来を左右する結婚をします。

こうして、神様の御霊を受け、両親より生まれました一つの生命は、親類縁者隣人と、無数の出会いを作りながら人生の旅を続けます。

人生は出会いの歴史といってよいでしょう。郷土の偉人・久保田権四郎翁は、家が貧し

く秋祭りに鎮守の森から聞こえる太鼓の音を聞きながら、我が子を祭りに行かせられぬと、悲しむ母の涙を見て自立を決意しました。そして、弱冠十五歳で、単身、大阪の町に出かけました。不況下で探せど職は見あたらず、ついに僅かの所持金も底をつき、空腹の為、もうこれ以上歩けないと思った時、鋳物屋・黒尾鋳造を訪ねました。必死に就職を頼む姿に同情した奥さんが「子守と掃除、使い走りなら。」ということで雇われたのが、後の大出鋳造、久保田鉄工、株式会社クボタと発展する基になったと思います。これは翁にとって人生を左右した重大な出会いの一つだったに違いありません。

先日、佐古先生にお出で頂き、ご講話を拝聴いたしました。皆さんが感動されてお帰りになられました。

然し「よい御話だった。」で終わる人もあれば、先生のご講話を毎日テープで聞いている人もおられます。御話を聞かれて、早速、食前には、炊きたての御飯を神様やご先祖さまにお供えし、感謝の心で食事をされている人もおられるでしょう。一杯の水に神のお恵みを味わって飲まれるようになった人もおられる事でしょう。

このように同じご縁を戴いても、受け取り方には人それぞれ色々と異なるものです。

さて、出会いには、人と人との出会いもあれば、人と物との出会いもあります。人と災

害との出会いもあります。

ニュートンは林檎の落ちるのを見て、万有引力の法則を発見しました。立派な芸術品に魅せられて芸術の道に精進するようになった人の話もよく聞きます。

私が四十一歳の時でした。二十年以上途絶えていた大濱の神楽を、厄払いのために秋祭りに奉納しました。先代宮司井川先生、九十八歳のときです。後継者が見あたらず、大変苦慮されていた時でした。神楽の復興に情熱を燃やす姿を見て、お宮にも関心が深いと見られたでしょう。私に、自分のあとを引き継ぐように依頼されました。それが縁でお宮に仕えるようになったのです。

さて、八年前の松山大会で、佐古先生より神訓を社頭に掲げる事をお薦め頂きました。早速総代長の賛意を得、翌月より実行し、その後、欠かすことなく「今月の神訓」の掲示を続けています。

御存知のように、約七年の永きにわたり、神訓を選び、且つそれを揮毫して下さったのは、元総代長の杉本成正様です。そして、その後を現総代長大出行雄様御夫妻に引き継いで頂き、毎月の神訓の選定と揮毫をお願いしています。宮司個人がお願いしても、とても出来るものではありません。それは氏神様の御稜威のしからしむところとしか思えないの

です。

歴代の総代長、副総代長、会計の三役の方々も、誠に時宜に適した立派な人ばかりです。又総代さんも神様に奉仕されるのに相応しい方ばかりです。これは氏神様がなされ給う事と何時も神様に感謝致しております。

浅はかな人の智恵では出来ない事を氏神様はなされます。

石井先生、佐古先生をこの小さい神社にお招きでき、ご講話を拝聴出来るのも、氏神様のご神威の賜物に相違在りません。これらを神と人とのご縁というのだとおもいます。

人と神様との出会いは、まず神棚を拝むこと、氏神様に御参りする事から始まると思います。「神は人の敬によって威をまし、人は神の徳によって運を添ふ。」ともうします。拝む事の大切な所以です。

私達は神と人、人と人、人と物との出会いを繰り返しながら生きています。

このあり難い出会いを大切にして行かねばならないと思います。そして明るく清く正しい家庭づくり、郷土作り、国作り、地球作りにと努力したいものです。

本日のご参拝誠に有り難うございました。

一神主の誕生

村^{むら}田^た和^な弘^{ひろ}

本日、こうして皆様方の前で恐れ多くもお話しをすることは、私自身にとりまして並はずれた事だとは思いますが、一生懸命勇気を出して頑張りますので、よろしく御願ひします。

私は、広島市内に鎮座します、小さな一村社の跡取り息子として昭和四十四年二月二十二日に生まれました。小さい頃は、自分の親の仕事を見て、どうしてこんな着物を着て、皆なの前で祭りをしているのか、不思議でなりませんでした。特に不思議でならなかった事は参拝に来られた人が帰る時に、一人一人全員とっていい程の人達が父に頭を下げて帰って行くではないですか。私は、父はとっても偉い人なんだなと思いこんでしまい、自分の様な人間が近寄ったら怒られてしまう様な気がして、ろくすか話しも出来なかった事を覚えています。

小・中学校と進学して行くにつれて、だんだんと親の職業が、人が生きて行く上で必要な職業であるという事が理解出来、大人になったら自分も立派な神主に成ろうと頑張ったつもりです。

しかし、仲々そうは上手に行かず、今風の子供、目に見えぬ反抗期。高校へ進学、いいかげんな高校三年間を過ごし、めざす大学へ行くにも行かれず、まったく神社界とは関係の無い大学へと進み、遊びふけていました。

これではいけないと自分自身、心を改め、親を安心させようと、広島から近い島根県は出雲大社の大社国学館の門をくぐりました。そこでは、想像を絶する生活が私を待っていました。その反面、なかなか出来ない事もさせて頂き、貴重な体験が出来ました。

その一つは、何といっても、五月十四日の出雲大社例大祭で、天皇陛下からの献幣使のお手伝い、菊の御紋の入った辛櫃を持たせてもらい、一村社では、絶対経験出来ない光栄なご奉仕をさせて頂きました。

又、毎年六月三十日には、夜中の零時からの大祓百卷奏上という、ひたすらに正座をし、目を閉じて六時間近くも、八雲滝の横にある小さな拝殿で、頭に鉢巻を巻き奏上しました。私は中学生の時に、階段から落ちケガをし、今でも右膝に十二針縫った古傷を持っていま

す。神主は座礼が主体、六時間の正座に耐えたことで、大きな自信となりました。

一月の稲佐の浜での大寒禊や、旧暦十月十日に行う神迎祭奉仕など数々の行事も体験させて頂きました。

しかし、私自身一番印象に残っているのは、御神蹟探訪という行事でした。これは、自分の足で神国島根県を歩くもので、遠足の延長の様なものです。しかし、普通の遠足とは違い、百数十キロメートルを三泊四日かけて歩く行事です。自分の着替え、食糧をリュックにつめ、それを背負って雨が降ろうが、夜になろうが、決められたコースを歩きます。日頃歩きなれていない人間が歩くのですから、両足は筋肉痛、足にはマメを作り、それをつぶし、又つぶしては歩きました。三泊目の夜はちょうど二年前日本中に災害をもたらした「台風十九号」が通過した時、夜も眠れない程の強い暴風雨でした。一夜明けると、昨日の雨も上がり、予定通り最終目的地、出雲大社へと向って出発しました。普通の天候状況でしたら気にならない事ですが、台風の影響で電気が使えないのです。歩けば喉が渴き、渴けば飲料水を買いますが、停電の為買う事が出来ず、これほど水の大切さを教えられた事は生まれて始めての事でした。この行事で私は、物の大切さ、自然の偉大さをしみじみと感じさせられ、私自身に「忍耐」という事をも学ぶことが出来ました。

こうした貴重な数々の行事を行い、今年の四月、一神主として、広島市安佐南区長束に鎮座します。長束神社へ奉職させて頂きました。今、思えば、とても短かった二年間の勉強でしたが、少しでも早くこれらの経験を生かし本物の神主になる様頑張って行こうと思います。

“三日坊主”の言葉にある様に、人は何かを期し、心を決め、それを継続して行く事は、なかなか難しいことではありますが、私は、一神主として、“思いやり”を大切にし相手の身になること、人の心を推し量ることを重点に頑張りたいと思います。このことは、神職に限らず大切な事であり、人間としてごく常識的な事かもしれませんが、とりわけ神主は人々と神とのナカトリモチとして、人の心を常に考え行動することが強く求められると思うからです。こうした心を、いかに意識し続けて、最終的に自分のものとしていくかであると思います。勿論、それは一夜にして身に付くものではなく、あれこれと自分なりの方論を考えねばならないと思う今日今頃であります。

私の心の一端を述べて終ります。

有りがとうございました。

敬する心

野の
村ぢ
好む
史ふ

今日は『敬する心』ということでお話するのですが、『敬する心』とはいったいどんな心かということをお話したいと思います。

『敬する心』とは『敬する』ことでありますが、感覚では判っているのですが、言葉にして説明するとなると、なかなか難しい。何故、私がそう思ったかと言いますと、私は神社の保育園をお借りしまして、少林寺拳法というものを、教えているのです。神主が、坊主みたいなことをするなと言う人もおられますが、私が持っているものの中で、少林寺拳法が、青少年育成の最良の手段だと考えて、やっているわけです。現在小学一年生から一般社会人迄、六十名ちょっとの門下生を教えているわけですが、この少林寺拳法も武道という一面を有しておりますので、他の武道と同様に、礼に始まり礼に終わっているわけです。少林寺拳法の場合は、合掌礼という礼を以て行なっているのです。……お願いしま

す！ アッ！……と言うふうにです。ある時、その合掌礼について子供たちに、話しをしていたのです。「えー、我々少林寺拳法の拳士が、行なっている合掌礼とは、お互い拝み合い、尊敬し合い、そしてお互いが譲り合う心、譲り合う気持ちを形に表したものが、合掌礼なんだ。だから拳士同志練習を始める時、また拳士同志がどこかで出合った時は、必ずお互いが合掌礼をしなければいけない。判ったな！」と話したとき、小学校三年の男の子が、「先生！ 尊敬するっちゃーどういうことかね」といったのです。私はすぐに「尊敬するとは、敬うことじゃよ」と言ったのです。子供は本当に純粹なものでして、またすぐにその子が、「敬うっちゃー、どういうことかね」と聞くんですね。私は、またすぐに、「敬うっちゃー、尊敬することや」と言ったんです。またすぐに、その子は「敬うも尊敬もよう判らん」と言うんです。自分も日頃、敬うとか尊敬するとか言う言葉は数え切れないくらい、子供達に言ってきたけど、本当に敬うとか尊敬すると言うことは、どういうことだろうと一瞬思ったのです。ただ感覚で判っているだけだと感じたのです。しかし、子供達には、どうにか説明しなければいけないので、「ウッー！」と、ちょっと考え込んだのです。すると例の子供が、「アッ！ 先生も判らんのじゃー」と言うんですね。子供は正直なものです。しかし、私は日頃から子供達に「判らんことは、判らんとはつきり言え、判った振り

はするな」と言つて来たし、自分もそうして来たのですが、この時ばかりは、なんとしても答えなければいけないと思つたのです。なぜなら、今まで数え切れない程、敬うとか尊敬するとか言う言葉を使つて来ているからです。ここで、「先生も判らん！」と言つたら、今まで話して来たことが、全て無意味になつてしまふからです。そこで「いや！判らんのじゃーない、君達に判り易い言葉を探しちよるんじゃ」といつて、必死で考えたのです。そこで出た言葉が「尊敬する、敬う」ということはのー、偉いあるいはすばらしい相手に対して、礼儀正しく接することじゃよ」と言う言葉でした。例の子供は、「なーんじゃ！そうか」と言つていましたが、たぶん納得はしていなかつたでしょう。なぜなら言つてゐる本人が納得していないのですから。しかし、その時はそれで終わつたのですが、それから家に帰つて『敬うこと尊敬すること』について一生懸命調べたんです。まず国語辞典で『敬う』を牽いたんです。そしたら、

敬う……相手を尊ぶ。尊敬する。

と書いてあつたのです。ですから、今度は『尊敬する』を牽いたんです。そしたら尊敬する……たつとびうやまうこと。

と書いてあつたんです。『敬う』とは『尊敬す』ること。『尊敬する』とは『敬う』こと

『敬う』と『尊敬する』がお互いの意味を仲良く説明し合っているんです。結局、国語辞典を牽いても判らなかつたのです。ただし私の持っている辞典が安物だったからかも知れません。それから次に漢和辞典で『敬』を牽いたんです。

敬……へなりたちもとは、いましめる意を表わした。ひいて「うやまう」意を表わす。〈意味〉いましめる。うやまう。とうとんで礼をつくす。つつしむ。真心をこめてつとめる……。

これを見たとき、道場で切羽詰まって返答したことが、「当たらずとも遠からず」ということで、ちょっと、ホッ！ としたんですが。しかし、結局、漢和辞典でもはっきり判らなかつたのです。それから、先輩やら職種の違う色々な人に聞いたのですが、殆ど「敬うとは、尊敬すること。尊敬するとは、敬うこと」と言う説明と殆ど変わらない。それから今度は本を探し始めたのです。そしたらあつたのです。それは、私が以前から私淑しておつた安岡正篤という方の著書に載っていたんです。安岡先生という方は、終戦の詔書の起草に与かられ、また平成の元号の選定に深く関与されたともいわれ、政財界の指南役などとも言われている方であります。安岡先生の言われますには、

「敬という心は、言い換えれば少しでも高く尊い境地に進もう、偉大なるものに近づこ

うという心であります。したがってそれは同時に自ら反省し、自らの至らざる点を恥ずる心になる。省みて自ら懼れ、自ら慎み、自ら戒めてゆく。偉大なるもの、高きものを仰ぎこれに感じ、憧憬れ、それに近づこうとすると同時に、自ら省みて恥ずる、これが敬の心であります。少しでも高きもの、尊きものに近づき従ってゆこう、仏・菩薩・聖賢を拝まつろう、ということが建前になると、これは宗教になる。省みて恥じ、懼れ慎み戒めるということが建前になると、道德になる。したがって宗教という時には、道德はそのなかにあるし、道德という時には宗教がそのなかにある。決して別々のものではない。一体のもの表現を異にするだけに過ぎない。よく宗教は道德と違うとか、いや、道德では駄目だとか、いうようなことを申しますが、それは不徹底な、あるいは誤解された言葉でありまして、東洋では等しくこれを道と言う。道の現われ方によってあるいは道德となり宗教となる。」というものです。私はこの章を読んだ時、真に水を得た魚の様な心境になりました。本当に嬉しかったのです。私はさっそく、子供達に話して聞かせたのです。今度は自分自身も納得していたので、子供達も本当に納得してくれたと思いましたが、言下に例の子が、「先生！ そしたら、敬老というのは年寄りを敬うことじゃろ。敬うちゅーことが偉大なものに憧れ、それに近づこうとすることなら、年寄りを敬うちゅーのは、年寄りに憧

れ近づこうと思うことじゃろ。ぼかー、年寄りになるのはすかん。はよう年寄りにはなりとうないけえー、ぼかー、年寄りを敬いとうない」と言っただんです。その時私は、またハッ！ としました。しかし、今回は馴れたもので、「よーし！ その敬老については、今日は時間がないので、次回話すことにしよう」といって、その場を終わったのです。そしてまた、家に帰って一生懸命調べたのです。例の如く辞典を牽いたのです。そうしたら、国語辞典には、老人……年齢の多くなった人。としより。

老いる……としをとる。としをとっておとろえる。

漢和辞典には、老 ……としより。おいる。ふける。経験を積む。ものなれる。

年をとり徳の高い人。

そして、安岡先生の著書には、

老……練れる。修養が出来て何があっても声色顔色を変じないこと。

と、書いてあったのです。前者を合わせて言う、「老いる」には、年とって衰えるという意味の他に、修養が出来た立派な、徳の高いという意味があることが判ったのです。私は、またさっそく、子供達にそのことを話してやったのです。「老いるとはなあー、年寄りとか、年とって衰えるという意味もあるけど、本来の意味は、経験を積む、練れるとか修養

が出来たという意味なんだ。だから、老人とは、長い年月修養され、色々な経験を多く
の徳を積まれた、人生の達人なんだよ。だから、老人とはすごく偉い人なんだ、だから、
ぼく達は、老人に近づきたい、老人のように立派になりたいと思うのだ。この心、この気
持ちが敬老ということ、年寄りを敬うということなんだ。みんな！ 判ったかね。」と言
うと、例の子供が、「そーいやー！ うちの爺ちゃん色々なこと、よう知っちゃる、爺ちゃ
んはやっはり偉いんじやのー、爺ちゃんは敬わんにゃーいけんのじゃねえー」といったの
です。今度は本当に判ってくれたと思ったのです。まあ、このような事がありまして自分
自身が常日頃、如何に物事を深く考えていないかということを、反省したわけであります。

中江藤樹先生は人心の最も大事な要素・作用とは愛と敬にあると言われておられます。

「愛は普遍的なもので、人間ほど発達しておらぬが、動物も持っておる。しかし敬は『天
地の為に心を立つ』という造化の高次の働きであって、人間に到ってはじめて発達してき
た心である。これは人間が進歩向上しようとするところに生ずる心であって、人間が理想
に向かって少しでも進歩向上しようと思えば、必ず敬の心が湧く。湧けばまた進歩向上す
ることができる。これあるによって人間は人間たり得るのであります。」と言われていま
す。また安岡先生も先に言いましたように「敬という心が最も大切であり、敬する心が自

己の内面に働けば道徳心として現われ、対して外方向の尊きものに近づき従ってゆこう、神仏を拝みまつろうという方向に働けば、宗教心（信仰心）として現われる。」とされています。

最近の子供達は、道徳心や信仰心が無いとよく言われます。それは『敬する心』を、持っていないからに他なりません。ではどうすれば『敬する心』を生み養うことが出来るのでしょうか。先人が言われているように、形から入ったらいと思います。敬する形即ち神仏を拝み敬う形を教えることだと思います。そういう教え方がいいというのは、孔子に見習うところです。

「昔、孔子に子路という弟子がいた。ある時、子路が孔子に親孝行を尋ねたとき、孔子は親孝行の形を教えた。子路は師の言に従って己を抑え、とにかく形についた。無頼漢の子路が親孝行になったと、親戚中の評判になった。しかし子路は、なにか偽善を行なっている気がしてならない。子路は形式的な偽善が大嫌いな男です。ところがずっと後年になって、ある日突然、親の年老いたことに気がつき、己れの幼かったころの両親の元気な姿を思い出したら、急に涙が出てきた。その時以来、子路の親孝行は無類の献身的なものとなった。」という話です。この話は、弟子の子路が師の教えに従い、心の伴わない形式的

な親孝行を続けているうちに、心の伴った本当の親孝行が出来るようになったということです。この孔子の教え方を適用すれば、『敬する心』を持たない子供達も、その形即ち神仏を拝み敬う形を教え、永く続けさせれば、必ず『敬する心』が生まれ、心から神仏を拝み敬うようになるということです。『敬する心』が生まれれば当然道徳心も生まれてきます。学校で道徳の時間をとって道徳教育をするより、神仏を拝み敬うことを教えたほうが、余程道徳教育が出来ると思うし、『敬する心』が生じ養われ立派な人間になれると思います。さあ！ 皆さん！ 皆さんのお子さん達に、神仏に手を合わせさせ、拝ませ、『敬う心』『敬する心』を養い、次代を担う立派な人間になってもらおうではありませんか。

鮎も人に似て

村^{むら}田^た和^{かず}之^{ゆき}

日本各地六月一日になりますと、清流に鮎を求める太公望等は目を爛々と輝かし、一年間待ち望んだ、はやる心をおさえ、胸算用宜しく川の中へと鮎釣りに一斉に入るのであります。

鮎は自然に生息している天然ものの他に、その大半を琵琶湖の養殖の稚鮎より求められ各地の川に放流され育って行くのであります。

秋には産卵のため川の入口まで下り孵化、プランクトンを喰べて育ち、春になると岩についた苔を求めて上流へと昇って行くのであります。

元来鮎は縄張り意識が非常に強く、自分の好みの苔の生えた石の回りを、自分一人の安住の場と定め、他の鮎を寄せつけず、侵略者に対しては攻撃をも繰り返す習性をもっています。釣り人にとりましては、そうした縄張り意識の強い程大変に都合が良く、色々とその習

性を利用した漁法が編みだされております。

ころがし（シャクリ）、投網、建網、ヤナ、色々漁法がありますが、その中でも、特に友釣りは、その習性を最大限利用したものであります。

縄張り意識が強く上流に向って昇って行く習性を持つ鮎。

稚魚の時には集団で行動をとる鮎も、大きくなるにつれて次第に一匹一匹が独立、一段と縄張り意識を強くして行くのであります。

そうした習性を利用した確実性の強い友釣り。その漁法は、おとりとして友になる鮎の尾びれより二く三センチ位の処に針を付けて、今迄石の回りに住みついていた鮎に対し友鮎を放つのであります。

それ迄その場所に住みついた鮎は侵略者である友鮎の後方より追い出しをこころみるのであります。友鮎の後方よりおそいかかる鮎は尾びれにつけた釣り針にひっかかるというしくみになるのであります。

さて私は今日はあると鮎釣りの講義に参上したのではありません。

それは今太公望等の間で話題となっています気になる鮎の習性の変化について注目したいからであります。

話を聞いてみますと、最近友釣りの成果が一向に上がらなくなったと言うことであります。

稚魚の時ならばともかく成長した鮎に本来の独立性がなく縄張り意識がなくなり、成長しても稚魚の時と同じ集団で行動を取ることに原因があるらしいのです。

人間も同じく皆一緒に仲の良い平和な暮らしは誰しも望むこと、しかし友釣りを求める太公望にとっては川釣りの醍醐味は無いのであります。

現在養殖の鮎が増えたため、成長しても稚魚のまま集団行動を取り鮎の本性が忘れ去られているのであります。

こうした鮎を見る時、私は何かしら今の人間社会を見ている様で気がかりでなりません。共同生活の必要性は判るけれども一人になると何も判断できない今の若者。核家族・放任主義、ブームを呼んだマザコン、これから又暑い夜中を走り回る暴走族、人口は年々減少し、ついに一世帯の家族構成は三人を割ってしまいました。

ますます小さくなる核家族、放任主義で育った子供等、あこがれの高層ビルに住むのも良いのですが、六階以上のマンションに住むと幼児の生活習慣の発達に遅れが生じるともいわれています。三つ子の魂百まで、幼い時の教育がいかに大切かよくよく判っている話。

トマトでさえクラシックの名曲を聴かせながら栽培する現代、何かしら忘れ去られてはいないだろうか。身近で一番大切な人間の教育。

教育は学校教育・家庭教育・社会教育から成り立つ。どれをみてもその基は全て家庭から始まります。その家庭が放任化され勝手気ままな若い人が育って行けば世の中はどうなるであろうか。鮎と同じ運命を辿るに違いない。

すでにその兆候は表われている。その一つ、今春マインドコントロールと云う言葉が飛び出した。オリンピック選手、山崎浩子さんの統一教会脱会時の言葉であります。

マインドコントロールとは、人間から自主性を完全に奪いロボットのように人間の心を操作することあります。優秀な人程強くコントロールされやすいとか。そうした教団にとって都合の良いふらふらした浮き草人間がすでにたくさん増えているのであります。

なぜこうした浮き草人間が増えるのでありましょうか。

私はここで声を大にして言いたいのであります。それは今『日本国中に日本人の魂が忘れ去られている』からなのだと。

日本人が日本の魂を忘れて何になる。

今年は日本を見直す伊勢のご遷宮の年、ゆれ動く心に、より強い日本の魂、自然を愛し

祖先を敬う神道の心を植え付け、又、磨こうではありませんか。

・長東神社宮司 広島県広島市安佐南区長東一―三二―一六

皇太子殿下御成婚を寿ぎ奉りて

稲垣豊久

今年の一月六日、皇太子妃内定のニュースは、爽やかな一陣の風として日本中をかけ巡りました。又皇太子殿下のお相手が小和田雅子さんであられた事も、国際化の時代、皇太子妃として最もふさわしい方と、その喜びの輪も一入大きくひろがりました。お二人の記者会見での一言一言は、私たち国民に大きな感銘を与えました。

歴史的に見て、皇后さまには必ず皇子さま御誕生ということにより、皇統が連綿として継承されねばという重要なお立場が御座います。

然しこの事ばかりは神様の授りものですので丁度に参りません。為に天皇のお側に多くの典侍がお仕えして皇子誕生を図ったことであります。近くは孝明、明治、大正、昭和の歴代の皇后さまは九條家、一條家、久邇宮家から出られた方々でありました。明治天皇の御生母中山慶子さまは権中納言中山忠能公の次女であられました。英昭皇太后様は明治天皇の育ての親として立派に御養育なされました。照憲皇太后様はお子様には遂に恵まれませんでしたが、女子教育の振興、社会事業にと、偉大な御功績を残されています。明治四年、岩倉具視大使一行の欧米巡歴に、五人の若き女性が随行しました。皇后さまは、特にその女性を宮中にお召しになり、励ましのお言葉を賜ったのであります。五人の内、最年少だった津田梅さんは、アメリカ留学十一年。帰朝後華族学校（後の学習院）女子高等師範学校の教鞭を執られ、現在の津田塾大学の創始者であります。更に明治八年、女子師範学校設立に際しては、お手許金五百円を御下賜になり、開校式には親しく御臨席になられています。それが今日のお茶の水女子大学であります。明治十年、華族学校が開設され「学習院」となり、同十八年女子部が分離して女子学習院となりました。皇后様は時々授業を参観されたり、生徒にお菓子など賜ったりしたそうであります。明治二十年三月に「金剛石」「水は器」の二首のお歌を下賜されています。

「金剛石も磨かざれば珠の光はそはざらむ 人も学びて後にこそ まことの徳はあらはるれ」と云うお歌であります。更に社会事業面では、「照憲皇太后基金」のことであります。明治四十五年、万国赤十字社の総会がワシントンで開かれました。その時「平時の救護事業の資金として十万円を寄附されたのが「照憲皇太后基金」であります。その後、政府の拠出金、明治神宮崇敬会の寄附金等で、今日約六億円の基金が蓄積され、世界の災害救護に充てられています。この種の基金は、世界で照憲皇太后の基金唯一つだということです。このような日本赤十字社と皇室の御関係は、今も受けつがれ、名誉総裁に皇后陛下、名誉副総裁には秋篠宮妃殿下がならせられています。貞明皇后様には、四人の皇子さま即ち、昭和天皇、秩父宮、高松宮、三笠宮がお生れになり、皇室に初めて一夫一婦の制が確立されたのであります。そして今上陛下には美智子さま、秋篠宮さまは紀子さま、皇太子さまは雅子さまと、正田家、川島家、小和田家よりと、民間の出の方がお三方お揃いになられたことも、国民の喜び一入深いものがあります。

特に皇太子殿下には六年の長い間「この人を」と心に秘められ思い続けられたその熱き思いを遂げられた歓びを

大空に舞ひたつ鳥の群眺がむ

幼な日よりの我が夢かなふ

とお詠みになられています 国民待望久しかった皇太子殿下の御成婚の儀が、本日午前十時より、宮中賢所の大前で古式豊かに執り行せられました。大前に参進、退下されるお二人の晴れの姿を皆様もテレビで拝観されたことと存じます。唯今氏神様にもその由御奉告申し上げました。御祭神の土御門上皇さまもさぞお歓びのことと拝察いたします。

皇太子殿下と学習院で御一緒であられた賀陽正憲さまは「常に感謝と謙虚さを失わない殿下と、真の国際派日本人の雅子さま、お二人の呼吸はぴったり」と太鼓判をおっしゃいます。雅子さまにドイツ語を教えられたリチャード・ヘタン氏は「国際的なセンスと日本の美德を兼ね備えた素晴らしい女性」と称賛の言葉を惜しみません。又ドイツ語クラスで席を隣り同士であったと云うクリスティーンさんは「聡明だけでなく誰にも隔たりなく親切、然も責任感の強い人でした。プリンセスにはなるべきしてなったんだと思うわ」とまるで自分のことのように喜びを顔一面に表わして語ったと伝えています。このようなお二人の、晴れの今日の御結婚を皆様と共に心からお祝い申し上げます、お二人のお幸福と竹の園生の弥栄をお祈り申し上げたいと存じます。

皇太子殿下御成婚奉祝の記念として、当社の一ノ島居が立派に再建されたことは、この

上ない喜びであります。玆に関係者各位の御勞苦に対し深く感謝申し上げます。

皇太子殿下の御成婚、更には伊勢の神宮の式年御遷宮がこの秋斎行され、国家的慶事が重なります。内外共に多事多難の秋、私達国民一人一人が日本の心をとれどもとし新しい二十一世紀に向つての飛躍を期したいものと存じます

皇太子殿下の本日の御成婚を心から寿ぎ奉つて私の御挨拶いたします

・御所神社宮司 徳島県板野郡土成町吉田字西ノ岡二一三

神宝の意味

中山嘉光

恩師石井先生御逝去から二ヶ年。大野先生からいただきました石井寿夫先生の「訣別の書」は、私どもへの警鐘が鳴り響く思いです。世の道義の頽廃もさる事ながら、自分自身

の心の緩みから、ミソギの心や日常実践力の弱さを思わざるを得ません。

石井先生は、こう書かれています。「私は、この苦難の道に、他人を連れ込むつもりは、さらさらありません。たった一人で湊川に出陣する覚悟です。」と。あの「桜井の別れ」には幼き正行への「命の教訓」がありました。そして忠孝一本の父、母、子と三者一心同体が見られ、道義国家日本の美しかった姿が眼に浮かびます。石井先生が人生の終焉を御自分で予見されたあの訣別の書は、今更ながら、天祖の御神勅のミコトモチとしてのお諭しではなかったかと思うのです。

私は、石井先生が「日本神道は世界の宝」と確信されましたことを考えていますうちに、かの三種の神宝の世界的意義を感じました。そして神道の今日的使命を痛感します。

月刊誌の「正論」の八月号に、作家の松本健一さんは、水戸学に心酔した吉田松陰先生の国体論を上げて「わが国には神聖ありて、然る後に蒼生がある。」と強調し、二十一世紀を迎えた国際世界に水戸学の精神を活かすべきだと書かれています。が、まことに今、米ソの緊張が解かれた国際社会では、各国々が、より広大な視野から自国を再発見しなければならなくなりました。

さて書紀の国生みの神話で二柱神が天浮橋に立たれ、天瓊矛を以て滄溟あおうなばらを探りますと、

矛より雫が滴って凝って島となるのですが、「国」とは「汲み煮る」が語源で、泥水を汲んで煮ると、蒸発して土となるのでクニと呼ばれます。天瓊矛の天は神の御心を意味し、瓊は陰の潤いで閉づる意味で、矛は陽の牙で「ホコロブル」意味とか、神の御徳により「一氣（矛）動いて体（瓊）をなす」。これが天地の象をなすので、人の体もこのように陰陽の活動作用によって生まれるといわれます。

三種神宝の原点も、この「天瓊矛」であり、この三徳を天照大神は実践の方面に顕わされて瓊々杵尊に伝え給うのだと書かれています。御遷宮も真近ですが、皇祖天照大神の御尊名は、光華明彩の御威徳であります玉と、天地四方を照らします鏡と、物事の裏をも通します剣の三徳をお具えになっており、瑞穂国は禾穀豊かな水火陰陽の均等な国を表しますが、天孫ニギノミコトは、正しくは天津彦彦火瓊瓊杵尊と申し、男を意味する彦は「日子」で、二字重ねて日嗣の意味と鏡であり、瓊は二字重ねて仁慈の意味の玉で、杵は矛で、是非善悪を決する志として、ここにも三徳が見られるのであります。

さて神宝であります八咫鏡、八坂瓊曲玉、天叢雲剣は、建国以来、皇統の御璽であり、神道の要をなす神の教であり、人倫の道であり、日月と共に万世不易の則を形に表されたものでありまして、天皇は勾玉のような妙なる心を以て政を治め、鏡の明らかなさを以て見

そなわし、劍のように真直ぐに万民を利するというのが大神の御心で、円く瑕の無い曲つた玉を尊ぶのは曲妙たへなる仁を意味するからでありまして、歴代天皇の御名は、今上天皇様明仁陛下から遡りまして、「仁」を意味しますヒトの字は、百二十五代中、五十四代の御名に用いられ、また天皇称号ざばりのものも御七代に及んでいまして、このように曲玉は、仁の道を自ら楽しみ、人に施す天地の心であり、神の心であり、人の本心として天人合一、神人一体なのであります。次に、八咫鏡は、智明ちめいの源として万象を照らして、是非善悪そのまを映し、その別を明らかにする神の心であるから、お授けの時に「われを見るが如くせよ」と諭され、祖先崇拜の本元を示されています。最後に決断の徳の劍は、私慾こうもつ好佞の心の敵や、外の邪惡暴逆を退ける勇氣決断のそれを表わされたことに違いありません。以上くどくどしく神宝の意味を述べましたが、ここに来て私は、「三つの系譜」を述べられている石井先生の御本のところが、今ひしひしと、この神宝と合流して胸に迫るのです。

天上、地上、地下という空間的秩序。天照大神、月読命、須佐之男命三神の職能的秩序。地球表面の三極。過去、現在、未来や年月日という時間的いのちの秩序。本、中、末。上中、下。親、我、子三代秩序……等々考えますと、天津金木を本打切り末打断つ「中今」こそが神の心。つまり、「仁」の姿であって、現在のこの場を大切に実践することが、近代

化に対応する勤労倫理の実行であり、それが神のミコトモチとしてのコトヨサシの実践でもあろうかと思うのです。東京サミットの「より安全で人間的な世界を求めて」とする政治宣言には、「中今」の実践としての「仁」という日本神道の神宝が輝き始めた感じがいたします。政治改革が内外共に叫ばれますこの時、「神道は世界の宝」と言い遺された石井先生の言葉を、しかと噛みしめたいものです。

・下宮神社宮司 徳島県美馬郡一字村中野八七六

華麗なる皇太子御成婚

西村純子

待ちに待った、去る六月九日、お目出たい大安、吉日の良き日、皇太子徳仁親王殿下と小和田雅子様の「結婚の儀」が国の儀式として、午前十時、宮中三殿の中央にある賢所で

厳かに執り行われました。

賢所前の幄舎から、秋篠宮ご夫妻、紀宮さま始め皇族方や、宮沢首相、桜内衆議院議長、雅子さまのご両親達、それに各界代表八一二人が見守る中、先ず皇太子さまは、宮中三殿の東宮便殿というお部屋で、束帯にお召し替えになられ、皇太子さまだけが着用されるオレンジ色に見える黄丹のご袍のご装束に、黒の垂纓の冠で、雅子さまは、宮中三殿のすぐ北側にある潔斎所で身を清められ、髪を整え、おすべらかしに、五衣、唐衣、裳のいわゆる十二単をお召しになり、先頭に白装束の齋服姿の掌典長、次に黄丹のご袍に笏を持たれた皇太子さま、そのあとに、裾持ちの東宮侍従、また皇太子さまの、お守り刀、壺切御剣を持つ東宮侍従が従い、そのあとに掌典次長が、十二単に檜扇を持たれた雅子さまを先導して、裾持ちの東宮女官長と東宮女官が、賢所の真ん中の内陣のお部屋に参進して、紅白の布のついた玉串を捧げられ拝礼なさり、皇太子さまが、告文を読まれ、結婚の誓をなさり、外陣に戻られ、神酒を召し上り、結婚の儀のメインの儀式が終り、雅子さまは、二五人目の皇室メンバーとなられたそうです。

その後、お二人は「皇靈殿、神殿に結婚奉告の儀」という儀式である、歴代の天皇皇后両陛下ならびに各皇族方の霊を祀ってある皇靈殿と、八百万神を祀ってある神殿の内陣で

玉串を捧げて、拝礼なさり、結婚の儀をすませたことを奉告し、午後三時から、宮殿、松の間で「朝見の儀」に臨まれ、天皇、皇后両陛下に初めて、お会いになる儀式で、皇太子さまは、燕尾服、雅子さまは、白のローブデコルテという洋装で、頭にはダイヤをちりばめたティアラ、また胸には、結婚の儀の直後に賜った、女性に与えられる最高位の勲一等、宝冠章をおつけになり、ローブデコルテは、明暉瑞鳥錦の生地で、瑞鳥とは、古来よりめでたい鳥、鳳凰のこと、中国では鳳凰は、皇后の象徴とされ、生地には鳳凰と龍があしらわれていて、今の皇后さまも、秋篠宮妃殿下の紀子さまも同じ生地をお使いになられたそう、宮中での礼装の洋装は、明治六年からのようです。「朝見の儀」では両陛下に謝恩の言葉をのべられ、これに対して、お祝いのお言葉があり、続いて「御盃の儀」両陛下と盃を交わされる、いわゆる親子固めの盃です。

朝見の儀を終えて、吹上御所の皇太后さまに結婚のご挨拶をなさり、記念の写真撮影をすまされ、午後四時四十五分、国民の祝福を受けられる、皇居から東宮仮御所まで、オーブンカーでのパレード。

雨も上り、薄日もさす沿道で、十九万五千五百人の市民が、お二人の門出を祝福しました。パレードの服装は、朝見の儀の服装と同じで、雅子さまは、ローブデコルテの上に、短

いケープコートを羽織られ、衿元には、バラの花のデザインの華やかな中に、気品あふれ一段と輝いて見え、全国民テレビを通して、きめ細かい中継を、女性は特に、クギ付けで見入ったことでしょう。

午後六時から、仮御所で「供膳の儀」これは一般で言う、夫婦盃のことで、パレードのときと同じ服装で儀式に臨まれたそうです。

また午後九時から「三箇夜餅の儀」が子孫繁栄を願って、餅を供える行事で、平安時代中期から行われているそうで、碁石大の白粉餅を銀製の皿、四枚に、雅子さまの歳の数を盛り、女官が夜の御殿に運び、皇太子さまが四枚の皿から、一つずつ、食べられ、雅子さまも、それに習って一つずつを、食べられるそうです。残りの餅は四日目の朝に、東宮仮御所のお庭の吉方に、埋めて、儀式は終了します。次に「宮中饗宴の儀」が、十五、十六、十七日の三日間、昼夜二回に渡って、豊明殿で行われました。いわゆる一般の披露宴にあたるもので、三千人が招待されたそうです。

また神宮の外宮、内宮と神武天皇御陵そして昭和天皇御陵へご参拝で、一連の儀式を終了なさいました。

この一連の儀式を通じて、伝統の重みを感じました。

石井寿夫先生が、いらっしゃったら、これぞ、まさしく「世界の宝」とおっしゃると思います。

誠に失礼ではございますが、お二人の服装に目がとられ、トーンを統一されて、いずれもグッドデザインで、光り輝き、知的でエレガントで、貴品あふれる良いお手本として、注目されたことでしょう。

誠に荘厳華麗なるご成婚でございました。新しい時代のロイヤルカップルとして、国民にとって、身近に感じ、国際的にも深く敬愛されることでしょう。

お二人のいく久しいご幸福と、皇室の弥栄を祈念いたします。

・ 生名八幡神社宮司 愛媛県越智郡生名村九四六

浮嶋神社のご祭神について

相あい原はら龍

浮嶋神と浮嶋の千鳥石と三つの磐境

浮嶋神社のご祭神は、浮嶋神である可美葦牙彦舅尊と伊弉諾尊・伊弉冉尊との三柱で、その御霊代は「浮嶋の千鳥石」と呼ばれる打製のサヌカイト石斧であって、更に、伊弉諾尊は御矛、伊弉冉尊は御玉が加付されており、別にも同三神の三個の磐境が本殿庭に据えられ、この石斧磐境は共に、約二千数百年前の縄文末期弥生初期以来の祭祀であります。

三柱の太元尊神と漂える国から国生みへ

北方アルタイ系民族が奉じた、造化三神中の天之御中主神は中臣藤原氏が主軸のにならない手の太元尊神で伝入は一番遅い。次、中国江南のジャポニカ米農耕民族が奉じた可美葦牙彦舅尊は、物部氏がない手の太元尊神で、当社では伊予物部の越智氏・越智姓河野氏が護持者である。次、印度洋をも渡航したらしい南方系海洋民族が奉じた、日本書紀筆頭の

国常立尊は、皇室がない手の太元尊神であられます。そして、この三柱の太元尊神は、皆各の民族が信奉した別々の宇宙本質の神格化の神で、まとめて言えば、宇宙天地の根源法則の神に坐したがその後、民族混合時代の変化思想信仰変遷等によって、古事記・日本書紀が成立するまでに、記紀の内容に統括された神観となつて来ているものであります。

南方系海洋民族が対島海峡中心に樹立した海洋での素朴な漁猟採集の上古の倭国は、縄文末期頃までに人口増加食いつめを生じ、生活不安定な漂える国となり、民族の元首伊弉諾伊弉冉二尊によって、ジャポニカ米農耕の新らしい国生みが要求されだしました。

太安萬呂は古事記序文において、「二靈群品の祖と為れり。所以に幽顯^{このゆゑ}に出入して云々」、と述べておられます。「国生み神生み」とは、民族の大御祖諸冉二尊が、顕世の現実界において、諸国をご行為上生み出し作り出しせられ、神祭りによる大教化を行なわれたご行為を、神語りとしては、幽世の神靈界において、諸冉二尊が天神地母と成り切られて、国々と神々とを、生命作用上の性行為によって、生み育てられた意と見なしている。そして、生命作用を重視し、これに則る神話となっております。更に、二尊が淤能碁呂島に天降り給うて後のご行為は、現実界での二尊大祖のご行動として物語っている等、この二尊の件は、上古代の信仰により、幽世のでき事は、必ず顯世に現れると信ずる、二尊の幽顯

出入の神語りとして語られていることを、納得して解すべきでありましょう。要するに、二尊の神話は、伊弉諾大御神は顕世あきつよと神靈界とのご統括神。火の神を生まれ神去られた伊弉冉大神は幽世かくりよと黄泉国よもつくにとのご統括神として、神語られているのであります。

漂える国から国生みへの完成の傍証

南方系海洋民族は倭国に入る前に中国江南の米作り地帯に立寄り、民族混合その文化を入れ米作りを取り込み、北九州の佐賀県菜畑遺跡・大分県大石遺跡・福岡市板付遺跡等の諸地に縄文晩期の米作り遺跡を残しています。

ところで、日本書紀巻頭の一書三に「天地混成る時始めて神人かみ有あす。可美葦牙彦舅尊と号なづす。次に国底立尊。」とある。この海洋民族の太元尊神国常立尊が、米作農耕の太元尊神可美葦牙彦舅尊の後のご出現としたことは、その信奉初期の一般大衆が、漂える国の海洋の素朴な漁獵採集を捨て、米作り農耕の国生みへ移り切った完成を、強力に傍証するものであります。

浮嶋神社は伊予の国生み発端の聖境

愛媛県中予の重信川の古名称は伊予川で、古代は横河原で分流。北に由井流岐川、南に伊予川上流があり、高井で合して西行し、その二河川によって大きな川島を作っていました

た。これが上古より五穀「宇氣」のできる「浮嶋」であります。

南方海洋系の素朴な漁獵民衆が人口増加により食いつめた漂える国を救うため、米作りの太元尊神可美葦牙彦舅尊を祭神とされ、斧始め祭をされた、伊弉諾伊装冉二尊が、伊予の国生を始められ、当地の原野を焼き払い、炭と成った木を石斧で切り倒さしめられた。その一つの石斧が「浮嶋の千鳥石」であります。

そして、浮嶋や伊予川沿いに米を初め粟稗豆芋等の種たぐいを作らしめ、民衆を土着化せしめられた。これが伊予国生みの発端であり、また、民衆が祭るべき神々を示し、或は、生まれて大教化を垂れ給うた。これが、諾冉二尊の国生み神生みの修理固成の大道であります。

要するに、浮嶋神社は右の通り当然伊予国生みの聖境であります。それを立証する当社ご祭神三柱の御霊代の打製型石斧の「浮嶋の千鳥石」と同時に、縄文末期か弥生初期頃かの同三神の磐境が、本殿前に現存しています。

津田左右吉氏並びに同学派は現今も、我が国の神話は六〇七世紀朝廷の官吏の創作だと主張しますが、これを否定するに足る当研究を、この研修会に発表し、我が国成立の根源の重要性を述べて、終りと致します。

神道講演全国研修大会に参加して

綾あや川がわ憲のり子こ

私は、主人の突然の死により何事も、神様のみ心のままにと、神社の裏方奉仕に務めていました。少しでも神様について勉強をしたいと思いましたが、まだ子供も小さく、家も神社もあける事もできず、通信教育の他に手段もなく、直階を、そして一年休み権正階を頂きました。例大祭だけに齋主として奉仕を頂いていた叔父も間もなく亡くなり、突然、官司として神明ご奉仕という事になりました。長男が成長するまでの二年間は、とても言葉で表わす事も出来ない程の日々で、身心共に疲れ、とても勉強をする状態ではありませんでした。しかし息子も母の姿を見てか、正階の資格を頂きまして共にご奉仕が出来る様になり、お宮の行事にも慣れ、やっと私も神職として皆様のお役に立つ為の勉強を始められるようになりました。まず神社本庁の正階研修に、それもお宮の行事に迷惑をかけないでと思い、六月だけの受講で三年間かけまして、今年やっと三十日間の、それも伊勢での貴

重な経験をさせて頂き、ホッとしました。

先日、神社庁の教化委員会で、ある神職の方が、神職には講話の勉強が必要だと、声高く主張されていました。私はご社頭で、参拝団の方々へ神社の由緒をどうにか説明できたり、できなかったりで、いつも困っておりましたので、もっともだと思っておりましたところ、神社庁でこの研修会の事を聞き、聴講させて頂きたく事務局へお問い合わせをしました。すると「どうぞ、ぜひご参加下さい」と、とても親切な対応を頂き、気持良く参加させていただきました。そして、皆様のこの会に対する心構え、そして勉強の成果を堂々と発表される態度を、それも若い人も、老齢の方も楽しそうに、講演の実習にのぞむ姿に、他で味わう事のできない感動を覚えました。私も次の機会にはぜひ、皆様方のお仲間に入らせて頂き、社頭での講話が楽しくなる様に勉強して行きたいと思っています。

・滝宮天満宮宮司 香川県綾歌郡綾南町滝宮 一三二—二

愛媛玉串料訴訟第一審判決を考える

白土秀司

平成元年三月一七日、松山地方裁判所は、愛媛県が靖國神社と愛媛県護國神社に対して、玉串料等の名目で公金を支出したことは、憲法二〇条三項が禁止する宗教的活動に当たるといふ、誠に遺憾な判決を言い渡しました。

そこで、本日は靖國神社に対する違憲判決について私の所見を申し上げます。

まず、本判決の要点は、「愛媛県が靖國神社に対し、玉串料等を支出する主観的意図としては、愛媛県出身の戦没者に対する慰霊と、その遺族に対する慰藉を目的として行われたものと認められるが、戦没者のほとんどが靖國神社の祭神として祭られている同神社にとって、例大祭及び、みたま祭の重要な意義を有する祭祀が行われるのに際して、戦没者の霊を慰めるという面のほかに、一宗教団体である靖國神社の祭神そのものに対して畏敬崇拜の念を表するという一面が、どうしても含まれてこざるを得ないから、本件玉串料等

の支出の目的が宗教的意義をもつことを否定することはできない。」とし、これによつてもたらず効果について、「確かに、愛媛県側が主張するとおり、靖國神社に対して支出した金額は、一回につき五千円ないし八千円、年間にして合計一万七千円ないし一万八千円であり、通常の社会的儀礼の範囲内に属するといつてよい額である。しかし、靖國神社は、終戦前において国家との間に強い結び付きを有しており、戦後においても現在に至るまで、国家との間に結び付きを持つという動きが続いている宗教団体である。しかも、愛媛県は本件玉串料等を二〇数年間にわたり毎年継続して行つてきている。たとえ一回一回の支出額が少額であっても、毎年繰り返されていけば、その継続性ゆゑに、その支出によつて生じる愛媛県と靖國神社との結び付きも無視できなくなり、それが広く知られるときは、一般人に対しても、靖國神社は他の宗教団体とは異なり特別のものであるとの印象を生じさせ、ひいては、同神社の祭神に対しては各人の信仰のいかにかわらず畏敬崇拜の念を持つのが当然である、との考えを生じさせる可能性が大きくなっていくものと考えられる。特に、多くの日本人は自らの信仰を持ちながら靖國神社の祭神を神として認め、これに対して畏敬崇拜の念を持つことに違和感を覚えないため、各人の信仰のいかにかわらず靖國神社の祭神に対して畏敬崇拜の念を持つのは当然であるとの考えが定着してしま

うと、自己の信仰する神以外の神は神と認めない者に対しては、靖國神社の祭神に対する信仰を強要し、信仰の自由を踏みにじる結果を招きかねないのである。

このように考えれば、本件玉串料等の支出は、愛媛県と靖國神社との結び付きに関する象徴としての役割を果たしており、その結果、靖國神社の宗教活動を援助、助長、促進する効果を有することになる。以上検討すれば、本件玉串料等の支出は、その目的が宗教的意義をもち、その効果が靖國神社の宗教活動を援助、助長、促進するものであるから、右支出によって生じる愛媛県と靖國神社との結び付きは、我が国の文化的・社会的諸条件に照らし、相当とされる限度を超えているから、憲法二〇条三項の禁止する宗教活動に当る」として、違憲判決を言い渡したのであります。

これに対して、岩手県盛岡地方裁判所第一審判決は合憲としております。その根拠は、玉串料等の取り扱いについて、文部次官、引揚援護庁次長通達及び文部大臣官房宗務課長代理の通知並びに弁論の全趣旨を合せ考えて「個人または民間団体が慰霊祭、葬儀などを行うに際し」、「知事、市町村長その他の公務員がこれに列席」して、「敬弔の意を表し」、「普通地方公共団体から真榊、神饌、玉串料を含む、香華、花環、香華料などを贈り」、「公務員が遺族を弔問すること」を意味するものと解され、右行政主体の弔問あるいは香

華料等を贈る行為は、死者儀礼としての行為であって、道德律の要求ないしは社交儀礼に従つてなすものというべく、津地鎮祭訴訟における最高裁判所判決が判示するところの「当該行為の目的が宗教的意義をもち、その効果が宗教に対する援助、助長、促進または圧迫、干渉等になるような行為」に該ることはない。と判断しております。

松山地裁の判決は、戦前における神社と国家との結び付きを強調し、現憲法下においては神道指令に基づく政教分離の原則を振りかざしておるのに対し、盛岡地裁は戦没者は国法をもつて公務死とされていることを挙げて、「戦没者の遺族その他の関係者のなかには靖國神社を九段の社として戦没者の霊の存在する場所と考え、その社に参拝することによって故人と対面することができる」との感情を抱いている者が数多く存在する事実を認めることができ、これらの事情を考慮すると、本件各支出は、岩手県がこれら戦没者の出身地の地縁社会を地域とする普通地方公共団体として、戦没者への儀礼としてなした靖國神社に対する寄附というのみならず、右遺族その他の関係者に対する儀礼の意味も含めてなされたものと解する。以上に認定した本件各支出の方法、態様、趣旨目的に照らすと、本件各支出は靖國神社に対する参拝に伴うものとして、又はその参拝に代えられたものではなく、戦没者の慰霊のための社交的儀礼としてなされた贈与であつて宗教的行事に当らな

いから、憲法二〇条三項に抵触するものではない。」として、岩手県が靖國神社に特権を与えたことにはならず、同神社を援助、支援するための支出ではない。と合憲判決を言い渡しております。

この愛媛県の護國神社には、皆さまと同じ郷土に生れ育ち、同じ大自然にはぐくまれた四万七千柱の御英霊がお鎮りでございます。戦に敗れたとは言え、さかしらに政教分離の尺度をもって争うとは、御英霊の心情を推し量るとき、祖国の恒久平和を冀い雄々しくも散華された御英霊に、何の罪科がありましょうか。それゆえに、県知事は愛媛県民を代表して、慰霊追悼のまこと、を捧げ、その遺族に対して心からなる慰藉の念を吐露すること、は、人間愛の自然権であります。その人間愛に対しては、何人といえどもこれを侵すことはできません。

むすびに、昭和天皇さまの御製を奉唱し、愛媛県護國神社の四万七千柱の御英霊と、遙か九段のお社に鎮ります二五〇万柱の御英霊に、慰霊のまこと、を捧げて一分間の黙禱を捧げます。

昭和天皇御製

国のため 命ささげし人人の

ことを思へば 胸せまりくる

黙禱

黙禱を終ります。

ご清聴ありがとうございました。

・ 巖嶋神社宮司 福岡県嘉穂郡穎田町大字鹿毛馬一〇八八

慰霊祭について思う

おお
しま
もり
ひこ
大島守彦

戦後四十八年たち世の中の変りと共に戦没者の慰霊祭も変化をしてまいりました。今私
が出席している慰霊祭と私の奉務しております神社境内にあります招魂社で斎主をしてい
る慰霊祭についてお話し致したいと思います。

私は代々の神職の家を継ぎ、現在六所神社の宮司をしておりますが、父が八十八歳にし

て亡くなる迄元気に宮司の務めをしておりましたので、復員後は会社勤めをし、昭和五十二年より父と祭典をするようになり今日に到っております。戦時中は、昭和十八年に海軍飛行予科練に志願入隊し、特攻隊にも志願致しました。多くの戦友が亡くなっておりますので、県護國神社等で行われます慰霊祭には、つとめて参加致しております。今年は特に予科練入隊五十周年を記念し、四月十一日に神武建国の地、畝傍の森橿原神宮の聖域に建っております吾々甲飛十三期の殉国の碑に集り、慰霊祭を行いました。多くの戦友と会い戦没戦友を偲び、語り合いました。今年は特に記念すべき年でありますので、全国各地より八百名余の同期生と遺族関係者が出席、盛儀に終る事が出来ました。もうこのように多く集る事はなからうと思います。出席されている御遺族も杖をつき、又若い人達に手ばかりで出席されている方も見受けられました。吾々同期生も皆、六十七・八歳頃となり、もうこれだけの人が出席する事は出来ないと感じ、淋しい思いを致しました。だんだん少なくなっていく吾々が、よくぞ橿原神宮の聖域に永遠の世界平和を念じつつ散華せし戦友の氏名を録し、英魂の万古に安らかならん事を祈念し、殉国の碑を建てられた事を心より有難く思い、何時迄も慰霊してゆきたいと存じます。

さて、私の本務神社境内にあります招魂社についてのべたいと思います。この招魂社は

戦時中、私達の母校であります羽犬塚小学校の校庭にありました。その頃は、よく戦死者の慰霊祭が行われ、父が斎主で祭典をしていた事を、今もなつかしく思い出されます。終戦となり、町当局も、このまま校庭におく事は出来なくなり、六所神社境内に遷座することとなりました。戦後、神社は占領軍のきびしい制圧をうけ、急激なる社会状況の変化により参拝者も少なくなり、境内の草とりの手助けする人も少なく、どうなる事かと心配されました。食べていく事が精一杯の時代をのりこえて、次第に心の落着きもとりもどし、再建のみちが開けてまいりました。招魂社の慰霊祭も、ずっと父がつとめてまいりましたが、父も高齢となりましたので、昭和五十二年より、私が斎主をつとめる事になり、今日に到っております。毎年春になりますと、行政区の慰霊祭と、学区の慰霊祭が行われます。遺族会の世話人の人達が、祭典の打合せに来られます。戦死者の方々のお顔も殆ど知っておりますので、皆さんとお会いしているような気持ちになります。

遺族の人達、区の関係者等も早くから服装を整えておまいりに来られます、顔見知りの人達ばかりですから一人一人と挨拶しお話しを致します。私自身が戦争中は二度と吾が家に帰ってくる事はないと心に決めておりましたので、自分の事をやっているような気持ちになり祝詞奏上を致します。毎年の事ながら、こうして慰霊祭が出来る事を大事な行事とし

てやってまいりました。ところが、戦後四十八年過ぎ、遺族会の世話人も年をとり、亡くなられたり、病気で動けなくなったりして、今迄のように慰霊祭をすることが出来なくなり、一応今年限りでとりやめたい旨の申出がありました。色々と事情を聞きました。参加者が少なくなってきた事も原因があります。今までのやり方ではやっていけなくなったので、私としては何とか続けていかねばならぬと思い、境内にある以上、祭をつづけ、後継者に伝えていかねばならぬ責務があります。そこで、祭典が終り、直会の時、世話人の皆さんと話し、もう年輩者の皆さんでは無理があるので、この際、世代交替して、若い層に世話をしてもらい、何時迄もつづけていくよう提案しました。年代の考えの差はありますが、国の為に尽された戦没者の慰霊祭は、当然続けねばならないと賛同をうけ、続けていく事になり、よかったと思っております。しかしながら他の神社境内にある忠魂碑等で行われている慰霊祭にも、こんな問題が起ってくる事と思います。

私が神職の家に生れ、父の後を継いでやっていくのも、戦死せずに帰って来て、祭り事をするのも生れながらの宿命ではないかと思えます。

身体がつづく限り、使命に忠実につとめ、後生に伝えて行く事と致します。

神社と森

飯田博信

当神社は福岡市南区塩原に鎮座しております。昔より塞神、又道祖権現、式は葛権現と称え奉り、一寒村の当時田地の一角に奉斎せられて以来、靈驗殊に顕たかな道祖神として、一般民衆の尊崇篤く、今日に至った次第でございます。

御祭神は、熊野神社は伊邪那岐命、道祖神社は久那年神、八衛比古神、八衛比売神を奉斎されておりましたが、昭和十二年両社が合祀せられ、現在の熊野道祖神社となったのであります。岐神・久那斗神・船戸神とも申し上げます。何れも王朝の昔より、悪疫を塞ります神、並びに旅行の安全を守護し給うとも信仰せられ、総括的にはサイノ神と申し奉ったものであります。

道祖神社の神域は晝尚暗き樹木に覆われ、周囲は水田地帯でありましたが、昭和二年四月七日に、筑紫中学校が道祖神社の境内を含む塩原に開校せられ、同校建設の際、社地の

樹木を漫りに伐り、忽ち病等、其他不慮の災害に罹った者が多く、斯る御神威に鑑み、強いて移転せしむる事は神罰の恐れ尠からずとして、遂に其の儘据置かるる事になったのであります。この靈驗あらたかなる神明照覧加護の下に、各種所願成就の為、県内はもとより、遠隔地からの参拝者も日に増し多くなつて参ります。

過る明治二十一年の頃、大暴風の際に倒れました御神木に対し奉り、村民は総動員で起すべく計られましたが、收拾不能の有様にて已むを得ず一夜を明かした処、一晚にて自ら起き直つたと古老の伝うる所であります。市街地發展に伴い、地形の変更により参詣に不便なために架橋し、其の便を図られた事、一般の周知する所となり、御祈願に丑の刻、又百度詣御願成就に日参するものが増加し、社頭建設、調度品等、自発的に奉納され、漸次社頭の整備が図られたのであります。

神社の森も一層のみどりを加えつつある時、昭和五十三年、福岡市都市計画塩原地区区画整理事業が実施され、境内全域の模様替の止むなきに到つた次第でございます。今日の繁栄をなしとげられた先人先達の偉業を偲び、この機会に社殿改善、並びに参集殿増設を計画し、再建委員会を発足させ、責任役員共々に幾度の協議を重ね、御祭儀の完遂に勉めたのであります。

境内地模様替報告、仮殿遷座祭等の手順を踏み、五十七年十月、本殿遷座祭奉祝祭、五十九年、境内地完了報告祭を以て終りましたわけですが、約五ヶ年の歳月を要しました。本殿遷座祭は夜八時より斎行され、第一太鼓の合図と共に浄暗の中に、ほんのりとわずかに浮ぶ白衣の神官と、絹垣の中、御神体を奉じ、奏楽の調べと、静寂のしじまをつく警蹕ひびきの響ひびき。りょうりょうたる楽がくに、崇敬者の見守る中に新御本殿に鎮座されました事は、偏に御神霊の加護によるものと関係者一同心を新にしたわけです。

この重儀の斎行は、御先輩の方々並びに同職の方々の御指導御鞭撻の賜ものであり、亦大きな経験でありました。

いうまでもなく社叢は神社の尊厳保持に欠くべからざる必要条件であり、たとえ御社殿は狭少であっても緑の樹木によって御神威も一段と増すものと思われます。

境内樹木も二回の仮植によって殆ど枯れましたが、植林計画を立て、楠、檜、イチヨウ、マガタマの木、椿、マキ、松等、また崇敬者の庭先にあった木も家の新築によって植える場所がないので神社に寄進しますからと申出があったので、桜、ギンモクセイ等を境内地に植えました。

今では四季折々の花が咲き、参拝の折には、足を留めて眺めて行かれます。そういう事

は参拝者をお宮に向ける大きな力であると思います。

緑の濃淡で境内に遠近感を持たせる事に依って、参道の入口には淡い緑の木を植え、本殿近くには濃い緑の木を植える事が必要ではないでしょうか。特に道路の周囲等には枝の伸び過ぎ、近隣との関係等には充分気を付けてやっているわけです。市街地の緑が少なくなっている行きますが、神社の森だけは何時迄も保ちつづけたいと思います。

特に境内清掃によって、落葉等是一部を焼却しますが、堆肥化して土地の質を変え、土壌の中に泌みて行き、よき樹木の生成に大きな効果を生み出すわけです。

祭典の振興に力を注ぎ、春秋の大祭には献花祭。夏季大祭には輪越崇敬者の方々に御願を致し、ボンボリの絵を奉納して頂き、暗くなって電灯を付け、夜九時三十分迄点燈しているわけです。

こう言う神事を通して、参拝者も徐々にですが、子供さんを連れて参拝に来られます。祭典終了後は、参集殿にて神社遷宮に関する映写を行い、神道教化に努力しております。

国旗掲揚塔も在位三十年を記念して崇敬者より寄付を頂き、参道の新設、銅板屋根葺替等も趣意書を送附致し、多大なる御浄財によって社頭整備も漸次整ってきました。

都市化中で、参道に覆いかぶさるように樹木がしげり、石段を上がり参道を進むにつれて

気がしまり、神前に立つときに自然に聖なる雰囲気を感じ、外の喧騒とは遮断された境内地でありたいと思います。亦十年もすれば緑が一層増している事を願わずにはおられません。今後、御神徳の宣揚と皇室の御安泰、崇敬者方の幸を願い「神は人の敬によって威を増し、人は神の徳に依って運を添ふ」という教訓を日々新たにしながら、下座の心で神明奉仕をして参りたいと思います。

・熊野道祖神社宮司 福岡県福岡市南区塩原四丁目一一一

婦人会員のまなざし

古ふる川かわ雅まさ恵え

私は神社本庁より佐賀県神社庁駐在教誨師の委嘱状を拝命して六年目に入りました。

どういう道に進みましても、一年生は一年生、年齢など関係ないように私には思われます。大きな目を見ひらいて、指導者の声に耳を傾ける。然し刑務所の中は、どんなに目を見

ひらいても、耳を傾けても、案外教えてもらえない。こんな時、西日本地区神道講演研究会で故石井壽夫先生、佐古幸嬰先生より教わった事の有難さが身に泌みました。

毎年の神社本庁教誨師研究会は貴重なものであります。人生の歩く道をふみはずし、償いの道は酷しく、おぼれかけている收容者の生きざまを目のあたり見て、可愛想になる事もあります。法律の酷しさ、冷たさ、その中に、宗教教誨で心の安らぎを取りもどし、真面目に毎日の務めに励みて、刑期を無事終えて一日も早く出所出来る様頑張っています。

この私は、はからずも地元金立町婦人会総会に講演講師で迎えられる事になりました。私は嬉しかった。私は誠意をもって大事な日本の歴史と伝統を柱として話すことにしました。戦後四十九年婦人会総会で今まで神主の講師は初めてでした。今まで各種の講師の先生方の講演を拝聴して勉強になりましたが、今度は私が婦人会に講演のチャンス頂きました。

壇上より婦人会員二百名の顔がまぶしい程綺麗だと感激しました。女性の花の様に美しい事に驚きました。

「皆様御遺族の方は手をあげて下さい」六人の手が素直に答えてくれました。素直なその反應には、又意外でした。

私は戦時下昭和十七年二月金刀比羅神社宮司古川久雄に縁あって嫁ぎ、神社が家族ぐるみ、皆様御家族の方々に大変御世話になってまいりました。と幾十年分の御礼のことばを壇上よりすみませんがと、御礼の御挨拶が出来てこんな有難いことはありませんでした。

昭和二十年八月十五日、日本は敗戦の憂き目で物心両面でうちひしがれましたが、やっと日本もこれまでになれましたね。戦死なされた御英霊のおかげです。御遺族の御苦労は大変なもので本当に御気の毒でした。私達は、御英霊への感謝を忘れてはなりません。

目を压えて涙をふく姿をみて私は感激しました。現在日本の今日あるのは、み国を守るため万朶の櫻と散って下さった御英霊のお蔭です。

生もなく死もなくすでに我もなし

泣かざらめやもますらをの道

知覧航空基地より十代の少年神風特別攻撃隊はハラハラと櫻の花びらのように散華されました。

丁度、つばみの若櫻ではございませんか。婦人会員の心は、私の心と一つになった様な……、よかった。日本の心は、婦人会員の心にも脈うっている事を実感しました。戦後教育に恐れをなしていた私は、反省させられました。

やっぱり金立町の婦人会員の皆様は、よいお嫁さんばかりでした。クスクス

筑紫山系の美しい山麓に拓がる金立町婦人会の皆様は良いお嫁さんばかりでした。

金立町の人は昔から、やさしい人柄で、皆さまの子供さんもきっと、優しく、たくましく、立派な筈です。

皆さま先ず健康です。神を敬い、祖先を尊ぶ心が私達を健康へとみちびいてくれるのではないのでしょうか。私はそう信じています。六月九日、皇太子殿下の御成婚の儀の当日は国旗日の丸を掲げ祝典に奮って御参加下さい。心からお祝い致しますよう。

十一月の伊勢神宮は六十一回二十年毎の遷宮祭です。皆さまくれぐれも健康に注意されて金立町を益々立派な町に致しましょうね。皆さま有難うございました。

閉会までおることが出来ません。只今より実家へ母の四十年の法供養に詣りますので失礼致します。二〇〇名からの婦人会員が、さようならと、又いつかお話して下さい、ありがとうございましたと、手を振って見送って下さいました。本当に私達神職は一生懸命元氣を出して頑張らなければならないと思いました。

平成五年は神道の出番、そう実感として受けとめた時、大変嬉しく思いました。

金立町婦人会員の人達が後で、よかった。よかったと、又きて頂こう、聞きたらなかつ

たと言っていましたと、人から教えて頂く時、戦後教育で耳にした事のない私の下手な話をこんなにも喜んで下さった若い女性の姿を知らなかった自分が恥しくなりました。年を重ねた私達の責任さえ感じられました。

日本の弥栄、之は、神道の雄叫びからではないでしょうか。同志神職の皆さま、勇気を出そうではありませんか。

・金刀比羅神社禰宜 佐賀県佐賀市金立町大字金立三三四九

金刀比羅神社建立に至るまで

吉^よ井^い シヅエ

金刀比羅神社は私の奉仕している岡山神社の境内神社で四坪位な小さいお社です。岡山神社は小城公園の南側に鎮座坐しますが、金刀比羅神社は公園の山の北側の頂上近くにござ

ございます。私達は普通、金比羅さんと呼んでおります。

記録を見ますと、此の金比羅さんは、大正十四年に隣町の戸数三十戸位の地区の祖母さん達十五人程で思い立たれました。資金集めから始まり、地元は元より隣村まで一里、二里の所を廻っておられます。今は道路も整備されて車で十分余りで行けますが、昔は一時間も二時間もかけて田圃の畦道を資金集めに歩いていられる姿が目には浮びます。

竣工式の写真を見ますと、六十五歳以上の人がばかりです。春季・秋季の大祭には、有名な天中雲月の浪曲大会が催されておりました。雲月は、唐津市出身で金比羅さんを深く信仰しておりました。お祭の時は一里四方より集り沢山人出だったそうです。

此の金比羅さんも、戦後、浮浪者の失火にて、敷石だけが残っております。御神体は、山の斜面にブロックで囲って雨露を凌ぐだけの有様です。

大阪在住の友人が、お父さんの五十回忌を迎えて供養の為に、又祖母さんの意志をついで金比羅さんを建立したので、お世話願えないだろうか、昨年の十一月に電話がありました。氏子の皆様に相談したら大変な喜びようで、小さい時に祖母さんに連れられてお参りした事を思い出されて話に花が咲きました。

お社も注文して、四月十日の春祭には、竣工式を兼ねて盛大にお祝をする事に決りまし

た。一月二十八日に起工式の運びと成り、はっきりとした所に小城町役場の人が別の用事で見えたので、金比羅さんの事を話して「公園も名所が一つ殖えますよ」と言いますと、「一寸待って下さい。あの土地は国有地で小城町が公園として委託されております。公園法が出来て建造物は駄目です」と言われてびっくりしました。私達一般人がそんな事知る筈がありません。まして元建っていた所に建てるのですから、公園法と言うのが分りません。頂上には烏森稻荷神社を始め諸々の神様が百体位ずらりと並んでおられます。又忠魂碑や他に沢山な碑が建っております。今まで建っているのは良いが、新しく建てる事は駄目だと言う事です。金比羅さんの境内地が三十七坪、神社庁に登録して有ります。役場に言っても駄目ですので財務局まで行きました。「書類を見て財務局でも台帳を調べて一致すれば何とか成るでしょう。然し時間がかかりますよ」と言う事でした。岡山神社の春祭も終り一段落したので財務局に電話しましたら、境内地の三十七坪は判りましたが、今度は、一般の道路から繋がっていないので駄目な様な口振りでした。下から石段は有りますが、図面には公園の遊歩道路から上に巾広く三十七坪が記載されております。大阪の友人は身体が弱く入院を繰返しております。早く出来ないだろうか、海外派遣のPKOやボランティアの中田さん、又文民警察官の殺害された事件を泣き乍ら電話してきます。注文先からも、

銅板の美しい時に建てたい。一日も早く何とか成りませんかと言ってきました。中々話が進みませんので、佐賀新聞の世論に訴えようと言う事になり手紙を書きました。私も強く出なくてはと思い、半年にもなりますので財務局にお願ひしている事を新聞社に申しました。又「二百万円もかけて、お社は出来上って倉庫に眠っております。金比羅さんを始め寄進者、氏子も皆泣いておりますよ。私も中に立って死にたくありません。一人暮しの老人の自殺が何となく分ります」と、強くオーバーに言いましたら、「そんな事言わないで下さい。早速小城町役場と話合いますから」との返事でした。四・五日したら役場から金比羅さんの話が良い方に向っておりますので、歴史的価値の有る事を書いて出す様にと言ってきました。又「土地が神社庁に登録もある事だし、建てさせねばならないでしょう」との財務局の一言で役場も立ち上りました。私も岡山神社の事は勉強しておりますが、金比羅さんの事は余り詳しく知りません。大先輩の古川雅恵先生の所が金刀比羅神社ですので、資料を頂きいろいろと教えて貰いまして大変助かりました。

此の事で一番勉強になった事は、選挙でよくやる根廻し運動でした。氏子さんと共に会う人ごとに此の話をします。狭い町です。又顔見知りばかりです。半年にもなれば何人かは関心を持って気にかけて下さいます。いざという時には力になりますよ。神様の事です

から粗末にしたら罰が当たります。又「寄贈者の人の為にも絶対に建つ様にしなくては」と言っして下さい人も出てきました。役場にもこんな声は聞えていたと思います。

機が熟したのでしょうか、とんとんと話が運び、友人にも報告して喜び合いました。予算額は四百万円、これからの祭典費も前納するからと言ってくれます。大変有難い事です。沢山な人々の御力に依って十月十日の秋の大祭には、竣工式を兼ねてお祭りを盛大にしたいと思っております。

・岡山神社禰宜 佐賀県小城郡小城町一八一

一杯の水

松^{まつ}
本^{もと}
スミ子

カルシウム、マグネシウム、ナトリウム、カリウム、これらの成分が10PPM以下

で塩素殺菌されたものが水道水としてミネラルウォーターとして各家庭に配水されるという行政水道局の説明でした。それらの成分が20PPMになると硬水と言う飲用水には適さないとの事でした。但し、これは私が住んでいます長崎市の場合で御座います。

清らかな水と十分豊富な水量がたくさんある所は多いと思います。人間は四十日間位は水だけで生きられるが、四日間、水分の補給が一切ないと生命が危ぶまれると言われています。私達の身体は二五％〜三〇％の水によって生かさ成り立っていると言う事です。考えて見ますと出生の時、神様より生命を戴いた時、母親の胎内に水の中で泳いでいるのですから、女性に取りましても、大変大変大切なもので御座います。人類や動物に取りましても、と言っていると思います。

今日も又、水道の蛇口をひねりますと勢よくほとぼしります。満ち足りた充実感、大自然の恵をうける喜び、それに幸福感。最近は、とみにその感謝が少なくなり、当然だ、当たり前だと思ふ様になったのではないでしょうか。

さびしい事と思います。

日本以外の国に旅した折、十分に注意しなくてはならない事を十分知りました。

色々な成分が高く含まれている硬水が多い事でした。

平成二年の十月二日、東西のドイツが併合された時、デンマークのコペンハーゲン市で大会が開催され参加致しました。その折、ドイツのミュンヘンにいましたが、その日はドイツに取りましては記念日で、私達も忘れられない日になったと話していました。その時は各官庁を始めとして、商店に至るまで休業して居りました。私達旅行者のため、特に日本料理店「みふね」が昼食を用意してくれました。

オーナーは、俳優の三船敏郎さんと聞きました。久し振りの日本料理で大喜び、辨当料理に熱い日本茶にと、何か日本に帰り着いた様でしたが、もう一杯お代りをと、お願い致しました。「ハイ。すぐ持って参ります」の返事を期待していました。急須かな、それ共、おヤカンかと言っていました。一人のウェ이터が来て、「追加でしたら料金を戴きます」との返事です。先程のみほしましたお茶がグット胸にひびいて来ます。料金は問題ではありません。如何に水が大切なものであるかが大切だったのです。

ガスが入らない水、ワインと同じ位だったのです。私達日本人は飲める水が沢山あり、その尊さが分らなくなっているのではないでしょうか。瑞穂の国と言われ、地下資源である水が少なくなっていると言われますが、大自然の恵を得ている日本人としての喜びを、これ程に深く味わった事はありません。一杯の水の尊さを大切にして行きたいと思います。

本日皆様方は、少彦名神すくなひこなのかみの月例祭に御参拝戴きました事をお礼申し上げると共に、皆

様の幸福をお祈り申し上げます。

清らかな水を持ちまして作られた御神酒を、おうけ下さいます様お願い申し上げます。

酒楽の歌と言われます。日本書紀の中より

この御酒みきは わが御酒みきならず

酒くしの司かみ 常世とこよにいます

いはたたす 少名御神すくなみかみの

豊寿とよほぎ 寿ほぎ廻もとほし

神寿かみほぎ 寿ほぎ狂くるほし

献まつり来こし御酒みきぞ

あさず 飲をせ ささ

よみがえ
蘇り

秋^{あき}
野^の
義^{よじ}
正^{まさ}

「政治改革」のスローガンで戦われました総選挙も終り、若・貴兄弟が横綱、大関をかけての熱い斗いが繰広げられました夏場所も千秋楽となり、今日は八月一日の月次祭に皆さんよくお詣り下さいました。

今日は八朔といって稲が秋の台風により風水害を受けないよう、豊かな秋の稔りを神々に祈る尊い日でありまして「田の実の節」また「たのむの祝」とも申します。

このめでたい日に徳川家康公も天正十八年八月一日、関八州の大名として江戸城に入っております。七月の事を文月^{フヅキ}、またフヅキと申します。賀茂真淵先生は、稲が穂を含む月であるからと申し、八月になると、その穂が張ってくるのでハズキと申します。又この日は、平成の人気者、百歳・百歳と大変お元気な、きんさん、ぎんさんの誕生日だそうです。今では人生僅か五十年といわれました頃と比べますと、二十年は若いそうです。私も四十

八歳ということになります。皆さんもお元気で大いに若返って頑張っていただきたいと思います。

これより秋が訪れ、やがて冬となりますが、十二月二十二日は冬至です。この日に柚の湯に入ると風邪を引かないとか、静岡地方では、夏の太陽を一杯吸った南瓜を食べると中風にならないと申します。昼が最も短く夜が長い日で「冬極まって頂点」「陰極まって陽に復す」と言われ、太陽の最も劣える日で、これを蘇らせようと火祭などの行事が行なわれて一陽来復をお祈りします。そしてお正月、変な言い方かも知れませんが十二月三十二日であり、何万年と続いてきた人間の歴史の一日に变りないわけですが、あの元旦の初日の出を拝みますと神代にいる実感が湧いてくるのが不思議です。ものみな新らしく、空気も清く澄んで、今年もやるぞと誰しもが心を新に発する爽やかな日であり、初詣の人々は夥しい数に上ります。これこそ人間の智慧と申しましょうか、一年の始の心の蘇りであると思います。

大分前の話になりますが、私が浅間神社で宿直をしておりますと、東京から青年の方が見えまして「私は数年前人生に絶望して死を決意しました。そして死ぬ前に日光にお詣りしたいと思ひまして電車に乗りますと、隣におられたお年寄りが私の話を聞いて、「君は若いんだ、死ぬ気でやり直してみてはどうか」と励まして下さいました。私はその一言で

ハッと我に返り、死ぬのを止めて、日光より帰りまして、運送業を始め、今は小さいトラックの会社の社長をしておりますが、これもあの青木さんのお陰であり、一言お礼を申し上げたくてまいりました。しかし、静岡の駅北に住む青木さんとだけ聞いており、ぜひ探してほしいとのことでした。早速電話帳で調べましてあちこち電話をしたり、日光にも問合せましたが結局判らず実に残念でしたが、社長は感謝して帰京されました。今でもあの日のことが忘れられません。青木さんの一言が青年の心を打ち、死より見事に蘇らせたのです。これこそ言霊コトダマの幸サキといえると思います。

昔より伊勢に七度たたび、熊野に三度、お多賀さんには月詣りと申し、氏神様には一日十五日つぎまいりに月詣なつまいりをする慣習なわわしがあります。これも心の蘇りであります。この月もわざわざいなくお仕事もうまくゆきますようお祈りすると共に、自らの努力を誓うことであります。

本年秋には第六十一回の神宮式年遷宮がとり行なわれます。これは日本の蘇りであります。二十年毎に行なわれます本年の遷宮の年に、日本の将来に大切な総選挙が行なわれました。政治を刷新して国民の信頼に応えたと共に、世界一の経済大国日本が栄えて滅びほろることのないよう精神の建直しを希ねがって止みません。

私たちの体には何億という細胞が刻々と死滅し、同時に新しいのちが蘇って生命を支え

ております。朝毎に心を蘇らせ、神棚かみだなと、ご先祖さまを拝おがみましよう。そして氏神様を中心として、郷土の発展と、氏子の皆さんの繁栄のために、力を協きょうせて二十一世紀に向って頑張ろうではありませんか。本日は皆さん有難うございました。

・神明社宮司 静岡県静岡市上足洗二―三―九

鎮守の森は環境指標林

二に 橋はし
一かず 彦ひこ

「かくばかり、木かげ涼しき宮立ちを 誰があつたと名づけそめけん」

この歌は、鎌倉時代の僧侶 西行法師が熱田神宮に詣でた時読まれたと伝えられています。

暑い暑い夏の日、カンカン照りの鎌倉街道をトコトコやってきた西行さん、やっとのこ

とで熱田の宮にたどりつきました。きっと黒染の衣は、汗でグッショリ濡れていたことでしょう。

伊勢の海から吹き寄せる涼しい潮風を衣の懷に入れた西行さん、参道を下馬橋の二十五丁橋までやってきてホッとしました。

当時の熱田神宮もたくさん木が生い茂り、それがおとす木影の涼しさ、それに樹間を吹き抜ける潮風は、いよいよ涼風を含んで、えもいわれぬ心地でしたでしょう。

白い町名古屋は夙に有名です。戦後、戦災の跡地を思いきって区画整理をして、百米道路と名付けるほどの道路を市の中心部に十の字に走らせ、主要道路も拡張した町づくりをしました。そのため道路の広さだけが目立ち、緑がけずられてコンクリートの建物が並び、まさに白い町と呼ばれるような無味乾燥な町であったわけです。

真夏の太陽に熱せられたコンクリートの道路、建物、その反射熱でむせかえる町中を通して、一步熱田の森へ足を踏み入れるとホッとします。それもそのはず、町中の気温と熱田の森の中の気温とは、四〇五度の違いがあるからです。誇張していえば、クーラーをかけた部屋に入った時の心地なのです。

二十五丁橋の袂に腰を下し、涼風をうけながら一息入れた西行さんの、フッと口からで

た心境をくみとることができるような気がします。

今から十八年ほど前、地元中日新聞にショックキングな記事が、航空写真とともに掲載されました。「熱田の森は余命三十年」誇大タイトルでしたが、公害によって木々は痛められ、三十年後には、森はみるかげもない姿となるであろうというものでした。

航空写真は、熱赤外線フィルムを使用したもので、森の周囲の道路ぞいには赤黒く、中心部は赤く写し出されていました。このフィルムは、熱反射によって色の濃度が出る特性をもつもので、木の成育の良いところは反射が強いからきれいな赤に、木の弱っているところは反射が弱いから黒ずんで写るといふものです。

この写真を分析すると、森の外周の道路ぞいは、車の排気ガス等の公害によって、木は弱り活力を失っているということです。

その頃、熱田神宮では、林苑保護委員会が組織され、森の調査をすすめている最中で、その実態調査の中に、名古屋市南部工業地帯と、商業、住居地との境目に位置する熱田の森に及ぼす大気汚染の影響についての調査も含まれておりました。

三ヶ年の調査結果、大気汚染による被害はさほどなく、自動車の排気ガスによる被害が道路近くの部分でみられるものの、中心部にゆくに従ってほとんどなくなり、木の成育は

順調であることがわかりました。

熱田の森は、鎮座以来、幾度かの盛衰、変化はまぬがれなかったと思います。しかし、常に大神様の坐します聖地として、その育成整備に力をいたして今日に至っていることは、現前たる事実であります。ただ、ここでいえることは、森の保護も人為的な整備保護ではなく、この土地本来の潜在自然植生、即ち、ふるさとの木による、ふるさとの森づくりが行われて来たことではなかったかということです。

これを証明づけるのは、本殿を中心とする区域の現在の林相です。常緑広葉樹が主体となつて、その中にケヤキ、ムクノキ、イチヨウ等の落葉樹が混生して、シイ、カシ、クスノキ、クロガネモチが高木層をなし、亜高木層としてヤブツバキ、モチノキ、サカキ、低木層にはアオキ、ヤツデ、ヒサカキ、更に下草としてヤブラン、ヤブミヨウガ、シダ類等が自生するといった、ほぼ理想的な植生で形成されていることであります。中でも生育の良い木は、クスノキで樹齡千年といわれる老大木が数本あります。

何百年という年月の中で、人為を加えない森は、自然淘汰がされ、その土地の特色を示す林相を形成するといわれます。この姿を保ち続けてきたのは、鎮守の森しかありません。そのため土地にあった植生は、人為を加えてこなかった鎮守の森の木々に学ぶことができます。

名古屋市では、神社寺院に風雪、公害に耐えて育つクスノキの樹勢に、青年都市のイメージを重ね、市の木に選定し、都市の緑化の一翼を担ってもらっています。

名古屋の巾広い道路の分離帯に植えられたクスノキは、車の公害にも負けず立派に育っています。また、市の中心部の公園には、公園の主といわぬばかりの顔をして、生い茂っています。二十年ほど前からすれば、白い町も随分緑の町に変わりつつあります。

このことは、鎮守の森の木々が、ふるさとの木の指標となっていることを、教えてくれる一例ではないでしょうか。

過去においては、鎮守の森もスギ、ヒノキ、マツといった木で仕立てるのがモダンな姿であるような誤解もあったようです。しかし、その単純林には、野鳥や小動物、虫類による自然の生態系は形成されません。潤いの欠けた鎮守の森からは、心を洗われ、祈りを捧げようとする気持はおこりませんし、また、憩いの場ともなり得ぬはずです。

鎮守の森が、その土地に住む人たちのオアシスたりうるためにも、また、土地にあった環境保全・緑化推進のためにも、その土地本来の植生を教えてくれることを認識して、鎮守の森をしっかり守り、後世に伝えてゆくのが私たちの使命と存じます。

学生君との付きあい

藤^{ふじ}井^い和^{かず}文^{ふみ}

今日は松山までの船中から瀬戸内の島々を眺めるにつけ、故里の海を思い出してしまいました。皆様の故里はどちらでしょうか。皆様の子供様たちにとっては松山が故里と言うことですね。今日は、懸命に子育てをなさっておられる皆様方に、私の体験談というか、神道観を聞いて頂ければと思います。

私は「熱田神宮学院」と言う、二年間全寮生活の神職養成所の教務主任をやっております。

毎年四月、全国より十数名の、主に神職子弟が入学してまいります。入学後一週間も経ちますと、「先生、ちょっと話が……」、始まりました。何が始まったか解りますか。そうです、「学院やめます」と私に申し出て来たのです。実はこの言葉を聞いたが最後、本人に翻意させることは極めて困難であります。辞めたい原因は、学院の環境にあることはまず

まちがいないのです。すなわち、一・二年、大広間での共同生活、及びそれから生ずる諸問題なのです。解決策はただ一つ、個室を作ればよいのです。でもそれでは修行になりません。私は、この頃一年生を集め次のような話を致します。

みんな目を閉じてみる！ 学院は辛いなあ自分の部屋はなく、時間に追われ、先輩の目を気にし、敬語は使え、大きな声を出すな、もちろん、テレビは見られない。その点、家はよかったなあ。今頃、お母さん、お父さんは何しているかな。御両親の有難さが解ったかな。今の気持ちを一生忘れてはいかん。この気持が神職の一つの基本だと私は思うんだ。もう早く寝ろよ。おやすみ。

この感謝の気持ち、学院での大きな成果であります。また、二三日経ってから。

ところで、君たち自分の誕生日というのはどういう意味か知っているか。それは、お母さんが命を懸けて君を生んでくれた日だよ。同じように父母の誕生日は、祖母が命を懸けて両親を生んでくれた日、そのように考えた時、無限に御先祖を遡ればどうなる。私を、また君を、文字通り命を懸けて育んでくれた、その御祖先の誕生日こそ、私は建国記念の日に求めたいのです。日本の国が命を懸けて我々を生んでくれた日、有難い日ではないですか。君は御祖先から生を受けた大切な人、君がいなければあなたの子孫はないんですよ。

どうか体を大切にしがんばってほしい。

しかし残念ながら、病氣になったり、諸事情で、退学していく人も多いんです。断腸の思いであります。

私の家族は七人、子供五人です。個室はありません。その代り、毎日喧嘩が絶えません。将来共同生活をするような時には、ある程度役立つと思われませんが、子育ては難しいものです。

私は、りっぱな子育てこそが、立派な孝行の一つと考えております。どうか子育てに、私の話がいかばかりでも参考になれば幸甚です。

・ 熱田神宮権禰宜 愛知県名古屋市長熱田區神宮一——一

留魂

加藤英司

民族の総氏神様と尊崇する神宮様には、皆さん御存知のように、天照大御神様がお鎮りになっておられます。

大神様は、「天壤無窮の神勅」で、神の道が国体のみなもとであることを示され、建国の原理を授けておみえになるのであります。

今年は第六十一回神宮式年遷宮が、御齋行とのことであり、三月には、本務神社の雅楽の皆さんと神宮様にお参りしてまいりました。

来月は、お白石持ち行事、十月の奉祝祭には兼務社の神事芸能の奉納と、今年は神職冥利につきる年であるとともに、一昨年より昨年、昨年より今年と神宮様にお参りすればするほど、恩師石井先生が私に託された留魂の道が強くよみがえって来るのであります。

六月九日には、テレビで放映されたとおり、皇太子殿下の「結婚の儀」が行なわれ、慶

祝万歳の声は、皇統の永遠性をこい願う国民一人一人の声となって、日本列島、津々浦々にどよめきわたったのであります。

続いて両殿下が、天皇・皇后両陛下に拝謁する「朝見の儀」で、皇太子殿下が天皇陛下に「本日は結婚の儀を挙げていただき、誠にありがとうございました。これからは二人して、皇族としての責務を果たすよう努力してまいる所存でございます。ここに謹んでお礼を申し挙げます」と、謝恩の辞を申し上げられたのであります。

天皇陛下は「めでたく結婚の儀をすませ喜ばしく思います。今後は睦まじく、互いに心を合せて家庭を築き、国や社会のために、また人々のために、皇太子・皇太子妃としての務めを立派に果たしてゆくよう希望します」と、お言葉を述べておみえになります。

この天皇陛下のお言葉は、昭和二十一年の元旦に、先帝陛下が明治天皇が下された、「五箇条ノ御誓文」を掲げ「家ヲ愛スル心ト国ヲ愛スル心トハ我国ニ於テ特ニ熱烈ナルヲ見ル。今ヤ実ニ此ノ心ヲ拡充シ、人類愛ノ完成ニ向ヒ、献身的努力ヲ效スベキノ秋ナリ」と新日本建設に関する詔書の中で、努力の方向をさとされておみえになるのであります。

今上陛下のお言葉は異なっていますが、明治天皇、昭和天皇の御心を御心として、皇太子・皇太子妃殿下にお伝えしようとされる留魂と拝することが出来るのであります。

その留魂とは、私流の解釈で誠に畏れ多いことではありますが、皇族は何時の世にあって
も、神の祭りを通して国家統合の中心となり、常に国民の幸せと国家の安寧を祈り、日本
文化の精神的な源となれと仰せられているように拝することが出来るのであります。

私たち国民は、皇室を崇敬することによって、天皇陛下の無私と、国民の滅私が一つに
なつてこそ、始めて世界に例のない皇室をいただく日本人に生れた慶びと、感謝の念に浸
ることが出来るのであります。

私たちは天皇陛下の御心を乱すことなく、常に身を慎んで生きることが大切なのであり
ます。

神々は産土の森に鎮まつてみえます。私たちは神々が安じて産土の森に鎮まつていただ
けるよう、皇室の弥栄を祈り、清く、正しく行動しなければならぬのであります。

当然、神主である私は、氏子の方々の息災と繁栄を日夜祈念をしているわけであります。
話は変わりますが、私の奉務神社は岐阜県の国府町であります。山深い飛驒の国の五月

の午前五時はまだ暗く、母親と思える人と、その姉妹らしき人に、中学生の女の子に小学
校低学年の男の子の四人が、裸足になり、雨の日も風の日も、一日として休むことなく、
お百度参りが今なお続いています。

小さい山村ですので、氏子の家のことなら大体分かつているつもりですが、全然知らない方であり、事情を聞くことも出来ず、ただひたすらに祈念する、お百度参りの人々には、私などを寄せつけない、厳しさと、こうごうしさがあったことも事実であります。

ご家庭の方に病人がいるのか、何か大きな願いごとがあるのか私には分かりませんが、真剣に神に祈るその姿に接し、私に出来ることは、大祓を奏上して「どうかこの方々の願いごとを叶えさせてやって下さい」と神に祈ることのみでありました。

今月一日、月次のお祭りをすました時と、お百度参りがすんだ時が一緒でしたので、我が氏神の息吹のかかったお饌米と、お塩についての説明をしてお渡しした時の、あの嬉しそうな姿が、今なお目に焼きついて離れません。

そして、お母さんらしき人が私に言いました。以前にお参りした時「神主さんの必死にお祈りする姿を拝んで、あー、このお社には神様がいらっしやることが分った」と言う一言でした。

お参りする方々の中には、真剣に神職の祈りの姿を見ているのです。

私は、この方々の一言と、真心こめた祈りを通して、日夜精進し、天地神明に恥じない心で御奉仕すれば、必ずや神様はお喜びになって、産土の森に神鎮まり、氏子の皆様たち

を、とこしえに見守って下さることを信じる事が出来たのであります。

神様は、産土の森に実在しておみえになるのであります。

私は、産土の神のみたまの尊さをおして、大御心と産土の神の恵を氏子の皆様に留める祈りの生活こそ、私の留魂の道であると確信して感謝の日々を過ごさせていただいています。

・阿多由太神社宮司 岐阜県吉城郡国府町木曾垣内一〇一八—二

文化意識の違い

大 おお
岡 おか
忠 ただ
徳 のり

私は、こちらの愛媛県の出身であります。今現在は三重県鈴鹿市に鎮座致します椿大神社へ奉務し、また生活を営んでおります。学生時代から含めると、三重県に渡って

早六年が経ちました。この間、色々な人と出会い接することによって、その地の言語（方言）や食、または生活など様々な点で文化の違いを感じてまいりました。日本の国内でさえ生まれ育った環境や土地柄によって文化意識の違いが生じるのであります。まして日本と外国ということになれば、かなりの違いがおこるのも無理はありません。

昨年十月、訪問先を間違えたばかりに射殺された高校留学生、服部剛丈君よしひらの裁判で殺人罪に問われていたロドニー・ピアーズ被告に対し陪審員全員一致で無罪判決が下されたのは五月二十三日のこと、皆様の記憶にもまだ新しいことと思います。ここでも日本と米国の文化意識の違いを目の当たりに見せつけられたような気がしました。

警察もなく自分の身は自分で守るしかなかった西部開拓時代の名残として、銃の所持を認める制度が現代に生きている米国、この自衛の文化、銃社会がこのような悲劇をもたらしたのです。米国には現在、二億丁の銃が出回っているといわれています。人口が二億五千万人だから平均すると国民の五人に四人が銃を所有する勘定になり、90年の銃による犠牲者は、三万七千五十五人と一日平均百人の割合に達し、銃は交通事故に次ぐ死因とさえなっています。このような状況は、治安のよい日本では全く考えられないことですが、米国では、銃の所有は伝統であり、文化であり、生活様式そのものなのです。服部君が射殺

された事件でも、被告が自衛の為の正当防衛を主張し無罪とはなったが、銃が身を守る以上に罪のない人々を犠牲にしている事実を米国は認識してもらい、何にも替え難い人命、それを守るためにも銃の規制に前向に取り組んでいただきたいと思います。仕事や留学、旅行へと多くの日本人が海外へと出掛けて行きます。日本人も安易に考えず、行先の文化意識の違いを認識し、日本を出ると何が起こり得るかわからないという自覚が必要ではないかと思う次第です。

また外国との文化意識の違いといえば、食文化にも見られます。今年五月に京都市で開催された国際捕鯨委員会（IWC）年次総会において商業捕鯨を求める日本やノルウェー。一方絶対阻止を狙う米国、フランスなどの反捕鯨国との対立であります。捕鯨禁止運動をしている人達は「鯨は減少している」「鯨は頭のよい動物である」「鯨を食べるなんて野蛮である」などと非難の声を上げています。確かに日本がここで鯨を捕らなければ生きていけないというわけではありません。しかし鯨は日本の食文化の中でも歴史もあり、重要な地位を占め、先祖から受け継いで来た文化であります。米国やフランスの食文化の中に鯨が入っていないから、また他国の食文化と自分達の食文化と異なるからといって野蛮と決めつけ非難を受けることは、不愉快なことであります。

この捕鯨問題の他にも、コメの輸入自由化の問題があります。我が日本の食料自給率は四九パーセント、なかでも穀物自給率は三〇パーセント。実に七割が輸入、内四割が米国からのものです。また米国の農産物輸出の約二割は対日本です。その米国が、日本で唯一自給率一〇〇パーセントを保っているコメを自由化せよと迫っています。日本の自動車、電気製品といった工業製品の黒字輸出のツケを、農業に転化して、果たしてよいものでしょうか。我々は様々な祭りを行います。そのほとんどが農産物、主にコメに対する豊作を祝って行われるものであります。悠久二千年の我々の祖先が血と汗と涙の結晶が刷り込められたコメ、日本人の魂ともいえるコメを他国より輸入することは、我々大和民族の魂を失うことにもなりかねません。

ドイツはジャガイモをフランスはブドウをスイスは乳製品を、アメリカでさえピーナッツを全く輸入していません。その国の食風景を形づくる食べ物は、どの国もみな輸入制限をしている。それは当たり前のことであって、文化に関して絶対押し付けをするものではないと思います。コメは日本人の大切な主食であり、食文化の核であります。すでに他の食糧は輸入しすぎるほど輸入しています。コメは断固として自由化すべきではないと思います。

こう話しておりますと、日米問題だけを話しているようですが、外圧に滅法弱い日本人が、米国との従属関係を断ち切らなければ、お互いに自由の立場に立って交渉を出来ず、真の友好関係も持てないと思うのです。

奉務神社の椿大神社は、各国から多くの人がやって来ます。（米国やヨーロッパのキリスト教徒がほとんどです。）日本語を話せる人や通訳の出来る方のいる人もいれば、英語しか話せない人もいます。私も学生の頃から英語の方は得意でございましたので中学程度の英語しか話せません。お互いの意志もうまく伝わっていないかもしれません。しかし短い期間でも、神道の神髄であります「禊」を体験していただき、異った宗教や文化を持った人々が対話をし、お互いに理解を深め互いに祈り合うことが大切なことであると思います。そうすることによって真の世界平和が訪れるのではないのでしょうか。

今、正に文化意識の違いを認識し、理解することが必要な時代になって来たのではないのでしょうか。私はそう思います。

平成の御代づくりは“祓い”にあり

大竹久雄

平成の御代かわりて、既に五年。時の経つのは、誠にもって早いものでございます。さて、今日の演題に、「平成の御代づくりは“祓い”にあり」と、掲げさせていただいておりますが、この事をお話し申し上げる前に、先ずもって、平成の元号について、ご説明させていただきます。

昭和六十四年一月七日。昭和天皇様のご崩御あらせられ、深い哀しみの中でありましたが、政府は直ちに、新元号の制定に取りかからなければなりませんでした。

既に、新元号の考案を事前に依頼していた学者等に、正式に考案を委嘱し、考案者から、それぞれ候補名の提出を受けました。これを受け、協議が重ねられ、元号原案、「平成」「修文」「正化」と、此の三つが選ばれました。更にこの中から、協議に協議を重ね、全閣僚会議で新元号の政令が内定され、新帝陛下のご親裁を経て、正式に「平成」との新元号

が定められたのでございます。

そして、皆様今でもご記憶に新しい事と存じますが、私達国民にはテレビを通し、当時の小渕官房長官が「平成」との元号を私達国民に公表されたのでした。しかし此の時、小渕官房長官の説明では、出典の紹介と、元号制定の簡単な説明だけでございました。

皆さん!! 此の平成は、何を願い何を祈り平成と定められたのか、その真意をご存知でいらつしやいましょうか。

当時の小渕官房長官の説明では、その意を体することは出来なかった事と思います。

私が、平成の御代かわりて五年経った今、この平成の元号の真意を、何故に今、改めてご説明させていただくかと申しますと、去る六月九日。私達国民が久しくお待ち申し上げておりました皇太子殿下・雅子妃殿下のご結婚の御儀が恙なくとりおこなわれ、この結婚の御儀の後、天皇陛下は両殿下に、次のようなお言葉を述べさせられました。

「めでたく結婚の儀をすませ、喜ばしく思います。今後は、睦まじく、互いに心を合わせて家庭を築き、国や社会のために、また、人々のために、皇太子・皇太子妃としての務めを、立派に果たしていくよう希望します。」

皇統連綿として日継ひつぎの御子みこのご結婚、そして遡ること四十四年前。今上陛下ご結婚の折

り、当時、皇太子殿下であらせられた陛下は、私達国民に次のようなお言葉を述べられました。

「この度、わたしども結婚について寄せられた祝福と好意は、誠に嬉しく思います。殊に、今日、皇居から常磐松までの沿道に集まった国民の皆さんの盛大な歓迎は、私ども生涯忘れられない良い思い出となるでしょう。今後私どもは一層努力し、皆さんの期待に添いたいと思います。」

何とも、恐れ多いことではまいしょうか。陛下御自ら私ども国民のために、「一層ご努力なされておられる。」この、陛下のお言葉、陛下の大御心を拝する時、正に皇室と国民は不二一体。私は国民の一人として、国民としての務めを、尚一層その自覚を新たに深めたのでございます。

更に、国民挙げて奉賛の誠を尽くした第六十一回神宮式年遷宮が、この秋に斎行されます。国家の安泰、国民の平安を祈る、この神宮式年遷宮が斎行される、この時だからこそ、何を願い何を祈り平成となされたのか、今一度、皆様と共に考えてみたいと思うのであります。

さて、話を戻しますが、平成の出典はご承知の通り、「史記・五帝本紀」より、「内、平

らかに外成る」。「書經・大兎謨」より、「地、平らかに天成る」からありますが、この出典とされた箇所の前文と後文の説明が、小渕官房長官の説明ではなされていませんでした。まず、この「内、平らかに外成るの前文には、「父親は、義を以て家庭を守り。母は、慈愛豊かに子を養い育て。兄は、弟・妹を慈（いつく）しみ。弟は、兄や姉を敬ひ慕い。子は、親に孝養を尽す事によってこそ、「内、平らかに外成る」と示されております。

今の世の中、如何でございましょうか？

また、「地、平らぎ天成るの前文後文には、天地自然を尅すことなく。天地自然の恵みに感謝し、そして天地の恵みを戴いた五穀、いわゆる、人々が生きていくための元となるものをよく整え、政治家に在っては、政治家としての徳を以て正しく身を律し、国の経済の繁栄に務め、国民の生活の豊かになることを計っていくことによってこそ、「地、平らぎ天成る」と示されています。

今の政治家、如何でございましょうか？

「内、平らかに外成る。地、平らぎ天成る。」これを平明に言えば、私達国民も政治家も、人が人としての道を踏み行い、また、人としての道に徹していけば、内は平和となり、外へも行き渡っていくとの意味であります。

この出典からも明らかなように、突き詰めるところ、内とは、申すまでもなく、私達、国民一人一人の心の内を言うのであり、私達の心の内が平らかに成れば、家庭はもとより、延いては、国も世界も平和になるという教えであります。

これと同じ意味をもつ、皆様もよくご存知の諺で、「修身齊家治國平天下」という教えがございます。この意味は、「自分の身を修め行いを正せば、家庭も^{ととの}齊い、延いては国も治まり、更に天下も平らかに成る」という意味であります。

何れも、先ずは自分の心の内を平らかに成し、神から分け持つ己が使命を、誠を以て務め、そして、修めて行くことが、平成の時代を担い築き上げていく、私達国民一人一人の使命であります。

しかしながら、心の内を平らかに成すということは同時に、人として永遠の課題でもあり、大変難しきことでもあります。

或る学者は、「修身成せれば、齊家治國平天下は自ずと成せる」とまで言い切っております。

さて、それでは、心の内を平らかにし成して行くには、どのようにすればよいのでしょうか。

「平成の御代づくりは“祓い”にあり」

“神道は祓いに始まり、祓いで終わる”といわれる如く、禊祓いが、もっとも大切な事であると言うことを教え説いています。

それは、神さまは大変ご寛容であられ、同時に、私達人間が生身であるということを告知されておられるからです。

ただ、「元つ身と立ち帰れ!!」。罪穢れを祓い清めて、神の子として立ち帰れ!!」と、教諭して戴いております。故に、祓いが大切であり、祓いの厳修こそが、「内、平らかに」また、「地、平らかに」成せる御業なのです。

話しはそれですが、十八日は、衆議院議員総選挙の投票日でございました。

最近、政治家が「禊選挙、禊選挙」ということを口々に致します。汚職議員が、「再び国民の審判を仰ぎ、選挙で当選したら禊を済ませました。」と、いとも簡単に、さも自分が清まったが如く“禊”を口に致します。

「大間違いです。」

私の友人に、自民党本部の選挙対策委員に「Kさん」という方がおりまして、「Kさん。最近、禊選挙、禊選挙と連呼致しますが、禊は一回限りで禊をされたと思っていたら大間

違いですよ。日々禊であり、日々祓いなんですよ。」と訴えた事がございます。

その祓いは、一体どうしたら成せるのでしょうか。

それは、家庭における神棚を通し、朝夕の拝礼の厳修に務めることに尽きるのです。

朝夕の神棚拝礼を通し、神の御心と照らし鑑み、日々、真澄鏡（ますかがみ）を研ぎ澄し、分け持つ己が使命を全うして行く。日々、心の内を祓い清め、平らかになしていくところこそ平成の御代を担い、造り固め成して行くことであると、信じています。

どうか皆様、日々の神棚拝礼にお勤めをいただき、祓いの実践を成し、平成の御代を、皇室国家国民一体となりて、「内、平らかな。地、平らかな」平成の大御代を担い、築き上げて行くではありませんか。

御祭神・猿田彦大神の御導きあらんことを一重に御祈念申し上げます。

・ 椿大神社東京講本部 権禰宣 東京都港区赤坂八―十三―二十三〓三〇二

流れの変る恐ろしさ

飯田吉正

今は昔と申しますが昭和四十四年頃創価学会が破竹の勢いをもって進行していた頃です。拙宅へも宮司と分つていながら釈伏に来る事しばしば、それでも聞いて呉れない為か、今度は松本市の幹部等が数名でやって来ました。私としては余り氣にしていた訳ではないが、あまりにうっとうしいので、それでは一案を申し上げようと言う事で、今日は私の言う事も聞いてほしいと申し出た。第一に会長の池田大作氏を拙宅へつれて来る事、問答でも何でもいたしましょうと。先方では意表をつかれ非常に困った様子、返答し兼ねるときた。第二にみそぎをやりましょうや、と申し出た。みそぎとは何だと聞く、みそぎとは水をかぶる事だ、我が家にもお粗末ながら場所もあるし、水もある。どうか、と言うと、なにせ二月寒中の最中でもあり、寒中に水をかぶる事は御免だと、驚きし事いまだに目に浮ぶ。これが出来ればあなた方の言う事を聞きましょうと、負い打ちを掛けた処、一行は又来る

と申し帰って行ったが、再び釈伏に来る事はありませんでした。後で聞いてみますと、宮司一人釈伏すると懸賞金が出る事になっていたとか、真疑のほどは分りません。

当時のなりゆきに憂いを感じていた人は多数であったかと思われませんが、私もその一人でした。当時学会員の言では、信者七百〇八万所帯と言ひ、全国を学会員にすると思ひ込んでいたのであります。その矢先、昭和四十二年新年に至り、藤原弘達先生の「創価学会を斬る」と言う著書が、一気に全国に普及するに及び情勢は一転した。問題は国会にも及び、公明党は政教分離を言わざるを得なくなり、流れは全くと言ってよい程に変わってしまった。

水の流れの本流がわき道に流れ出すと、その水は何れ元の本流に還るのでありますが、洪水を受けた場所の復旧と言うものは非常に難解であり、手間取るものであります。本来水は源みなもとがあり、山に降った雪が解け、野に降った雨が次第に集り、又尾根尾根から集った水が平地に流れ、又四方に散って、大雨が降れば集落に洪水を起していたものを、数千年或は数百年をかけて河川として水を飲み、稲を作り、現代の文明の基礎となったものです。決して自然に川が出来、堰が出来上ったものではありません。

我々の祖先が営々としてきづいてまいった遺産でありまして、水には水の神様が在り、

山には山の、木には木の、神がお在すと考え、敬けんな気持ちで開拓された尊い国土であります。時には濁流となる事もあり、又折角きずいた堤防がくずれる事もありますが、わざわざ堤防を破り、しかもこれを本流としようとしても、これは無理であり、到底許される事ではありません。

マスコミをはじめ政治家をも含めて、鳴りをひそめ現実を語る事が出来なくなるようになれば、も早我が国の危機と思って居りました処、漸く勇気ある人が現れ、替えようとした企てもストップして、次第に水の流れが元の本流にもどりつつあります。

しかしこれは一例を申し上げたものであります。

東洋の文明と西欧の文明とは、自ら違ふとたかをくくっていることは出来ない事は、大方の皆様が感じていることではないでしょうか。ふとした事で流れが変わると早合点して、本末を誤らない心根を、今から把握して置かなければならないと思うのであります。以上

・ 住吉神社宮司 長野県南安曇郡三郷村大字温字楡大原五七九七―五

永遠なり靖國神社

坂

明

夫

御遺族の皆様方本日は靖國神社にようこそお参り下さいました。このように大勢様お揃いで本殿奥深くまで御参拝戴き、御祭神に於かれましてはさぞかしお喜びでお迎えのことと拝察致します。どうぞ皆様方今後とも御祭神の御遺徳をお偲び戴きつつ、同時にその御加護を受けられまして、益々お元気に御活躍なされますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、本日は皆様方にお願いがございます。それは英霊のなされたことを、英霊の御心を戦後世代に、これからの日本を背負う若者たちにしっかりと伝えて戴きたいということです。

皆様方御遺族は英霊とともに生活をし、大東亜戦争という時代を生きてこられました。ですから、最愛の妻子、お父さん、お母さんを残して国に殉ぜられた英霊の御心を御存じの筈です。あの時代英霊方が起たなければ日本は勿論、東南アジアの国々が白人帝国主義

に支配されてしまったことを御存じの筈です。それを我々戦後世代に堂々と伝えて戴きたいのです。まだまだこのことに皆様方は遠慮されていらっしゃるのではないのでしょうか。

その遠慮されていらっしゃる理由を私なりに推測しますと、戦後の東京裁判史観によりあの大東亜戦争は侵略戦争であると思わされてしまっていること。そして、今の若者は祖国のことは勿論、他人のことなど何も考えないだらしない連中ばかりだと思っていること、この二つが大きな理由ではないでしょうか。

でもこれは誤りであると私は断言致します。先ず戦後の思想的混沌の諸悪の根源は東京裁判です。これが一体裁判に値するものだったのでしょいか。本日は詳しく述べる時間はございませんが、戦争即ち喧嘩に勝ったもの、喧嘩は力の強い者が勝つのであり、正しい者が勝つではありません。その喧嘩に勝った者が自分が裁判官になって、俺と御前とどちらが悪かったのかを決める。これが正しい裁判でしょいか。

案の定、あったかどうかも分らない南京での事件は三十万虐殺とされ、多数の女性、子供を含む非戦闘員が確実に大勢虐殺された広島、長崎の原爆投下に関しては、まともに取上げていません。こんな裁判が信じられますか。大東亜戦争がどのようなものであったのか、皆様方御遺族の方がよく御存じの筈です。東南アジアの国々を侵略する為に最愛の

夫や兄弟、子供を送り出したのですか。勿論そうではない筈です。

大東亜戦争は断じて侵略戦争などではありません。大東亜戦争は白人も有色人種もない平等な世界を作る為には歴史的に避け得なかった戦であり、英霊はその崇高な戦に大切な命を捧げたのです。これを今一度しっかりと確認しようではありませんか。

英霊の御心を伝えることを遠慮されているもう一つの理由である、今の若者はだらしないということについては如何でしょうか。おっしゃる通り今の若者は英霊方の青年時代に比べれば、はるかに劣るのは確かです。大東亜戦争は侵略戦争だと教えられ、義務を果すことよりも権利を主張することを教えられ、他人のことよりも自分を大切にしろと教えられ、他の国が攻めて来たら逃げろと教えられ、それは滅茶苦茶な教育を受けております。皆様方が若者を頼りないと思うのはよく分ります。

でも考えてみて下さい。今の若者は英霊の子であり、孫であります。どんな変な教育を受けていても、英霊の御心をきちんと受継いでおる者も沢山おります。

その最近の例がカンボジアに於ける国連ボランティア活動中に射殺された中田青年であります。中田青年は非常に危険なカンボジアに行くことを志願したのです。自分の為ではなく、「世界平和に役立ちたい」との一念です。中田青年の靖國神社に対する思いは分りま

せん。しかし、その志は英霊の御心を継承したものであることは確かです。

又、神社では遊就館という遺品館を拝観された方々にアンケートをしているのですが、その中に、

死んでいった若者の遺書を拝見し、改めて自らの生き方の甘さを感じました。

大学四年生

現在の日本の繁栄が多く英霊たちによるものだと思感した。国際平和のため、自衛隊による海外派兵に賛成する。

高校三年生

等々、英霊の御遺品、御遺書に直に接し、英霊の御心を理解し、それを継承していこうという感想も沢山あります。今の若者も捨てたものではありません。

どうか遺族の皆様方、自信をもって英霊の心を、英霊のなされたことを若者に語り継いで下さい。英霊の心は、靖國神社は永遠です。靖國神社を過去の遺跡としてはなりません。

これまでに我国は幾多の困難に遭遇し、その度に男女の別なく、文字通り必死でこの天皇います国日本を、最愛の肉親を遺し、大切な大切な命を捧げて護り続けてきたのです。この殉国の英霊の心を、そしてその英霊を祀る靖國神社をいついまでも護り続けようで

はありませんか。永遠たらしめようではありませんか。

以上

・靖國神社権禰宣 東京都千代田区九段北三一―一

“心のふるさと”靖國神社―御神意に叶う神徳の高揚―

竹中啓悟

只今御紹介を戴きました竹中でございます。私は、昭和五十七年四月靖國神社奉職以来、十一年間、恒例祭の執行、参拝者御遺族・戦友・崇敬者皆様方の接遇・更に、社報「靖國」の編集・各報道機関との応対等の業務に携わり、二百四十六萬余柱の御祭神奉慰の為、微力ながら奉仕申し上げているところでございます。甚だ浅学非才、皆様方を前にお話をさせて戴くことは初めてのことではありますが、日常の奉仕体験から“心のふるさと靖國神社”という題で申し述べさせて戴き度いと存じます。

靖國神社は戊辰の役以降、明治維新の大業実現の為に生命を捧げて国事に尽された幾多の英霊を永久にお祀り申し上げる目的を以て、明治天皇の深い思召に基き明治二年六月二十九日東京九段坂上に「東京招魂社」として創建せられたのが其の起源であります。

越えて明治十二年には御社号を「靖國神社」と改められ別格官幣社とせられました。

明治天皇は「全殉難者のみたままつりこそ国みずから永久につづけるべき祭である。」と仰せられ、また数多い御製によってもうかがわれるように、靖國の英霊の上に深い御心をとおよせになりました。

わが国のためをつくせる人々の

名もむさしのにとむる玉垣

靖國のやしろにいつく鏡こそ

やまと心のひかりなりけれ

その後も靖國神社に対する御待遇は厚く例大祭・合祀祭のたびに勅使を御差遣になられ明治時代一五回、大正時代七回、昭和時代五十回の行幸啓をはじめとして皇族方の御参拝など殉国の英霊をお慰め遊ばされることは、他にくらべられないものがあり、遺家族はもとより国民の追慕崇敬のまとなつているところであります。

しかしながら、「靖國神社国家護持」問題をはじめとする「政教関係訴訟」「首相の公式参拝」「所謂A級戦犯合祀」の問題等々、戦後の靖國神社を廻る諸問題は、大東亜戦争中、伝統国家護持の為に一命を鴻毛の軽きに置き敵中に突入散華された純忠比類なき戦士達の御心を蹂躪して憚らない、誠に憂慮すべき状態にあることは皆様も御承知のことでしょう。特に、昨今の国際的な平和維持の為に我国のお粗末な対応ぶりは目に余るものがあります。

平和の世も、太平の世の中も、萬人誰しもが乞い願う所ではありますが、平和の世は、只単に平和を叫び、平和論を活字にして訴え、或はプラカードに大書して天下の大道をねり歩いたからとて得られるような、そんな生易しいものではなく、国民一人一人が営々と築き上げなければ決して得られるものではありません。

今日の如く政・財・官界の指導者達が公人としての姿勢を忘れ去って墮落し、一般国民の多くも、暖衣飽食して物欲と金銭欲に溺れて、損得勘定を以て処世の指針として居る限り、平和の世など得られる術もなく、国家は滅亡の一端を辿る外無いであります。今こそ我々は伝統国家を再興し道義大国を目指すべく奮起致さねばならないと信じて疑いません。

道義大国になってこそ、初めて国際社会に敬意を以て迎え容れられ、あらぬ国際摩擦も減少し、平和な国家になり得ることでありましょう。

我々が常に心してお慰めし続けて居る殉国の神霊達は、古来の我が良風美俗も伝統精神をも捨て去って顧みない、今日の如き国籍不明の祖国にする為に、貴い一命を国家同胞の為に捧げられた筈ではありませんまい。

従って、今日私達が神霊を真に慰め奉る途は唯一つ、本来の伝統国家を再建し、道義大国となすべく各々が努力する事、そして萬々一の場合には、殉国の神霊達にならって、一命を国家、同胞に捧げる決意の程を誓い奉る事以外には無いと考えます。

神前に祈りを捧げ、真に殉国の神霊を御慰めすると言う事は「太平の世なれかし」と祈願する事ではなく、一朝有事の際に対する自らの決意を誓う事ではないとするのが、私の殉国の神霊に御仕えする信條であります。

現在、神社では「シリーズ・ふるさと靖國」と題し「昭和っ子は謳う」「画集／童子のみたま祭」を相次いで刊行。戦後五十年もの平和を享受して来た今、改めて先人達の培い残して下さった良き美風に全国民が思いをいたし、日本の道義の心、かぐわしき伝統と国風、そして日本人の“心のふるさと”を思い起し、胸に刻んで戴きたいと考え、大野宮司を中

心に全職員一丸となり、全国崇敬者に御一読をおすすめ致しているところでございます。

本日は、拙い講演でしたが、靖國神社の二百四十六萬余の神靈に御奉仕させて戴いて居ります神職としての信條を申し上げますと共に、皆々様の御参拝を心よりお待ち申し上げます。私の発表とさせて戴きます。

御清聴ありがとうございました。

以上

・靖國神社権禰宜 東京都千代田区九段北三一―一

お祭りの意味は

高尾一胤

日本にはすぐれた先人を神としてまつる伝統があります。外国で神という場合、概して、超自然的といいますが、人間の力をこえた、絶対的な存在と考えられています。全知全能

にして天地万物を創造し、それを支配するものが神であるというように、人間とは別のものとして神を考えている場合が多いと思います。

それに対して日本の神は、そうした超自然的なものではなく人間自身だと思うのです。人間が死んで神になるといいますが、死んだ人間を神としてまつということではないでしょうか。もっともだれもかれもみなまつとなると、これは大変ですから、その中でも特にすぐれた人、立派な業績を残した人を神としてまつていてのではないかと思います。

日本の各地を旅行しますと、いたるところに神社があります。その多くはいわゆる神話伝説の中にでてくる神様を祭神としていますが、また、その土地土地のすぐれた先人を祭神としている場合も少くありません。

たとえば、水戸の常磐神社は水戸黄門でも有名な徳川光圀をまつたものですし、仙台の青葉神社には伊達政宗を祭神としており、そのように、各地にその土地のすぐれた領主をまつた神社があります。もちろん領主、名君だけでなく、万葉の歌人・柿本人麿をまつた柿本神社や人丸神社、治水などに功績のあった岐阜の治水神社や、福岡の大堰神社であるとか、明治維新の先覚者・高山彦九郎の高山神社、さらには二宮尊徳とか佐倉宗五

郎のような、農民庶民の中で人々のために尽した人をまつたところもあるわけです。

そのように、すぐれた人、世のために尽した人を神々としてまつているのです。日本においてはすぐれた先人を神としてまつる、いいかえれば、神は人間であるということです。に大きな特色があると考えられます。もちろんそれは日本における神の考え方が正しくて、外国の場合はまちがっているということではありませんし、どちらがいいとか、悪いとかいうものではありません。

それぞれの国家民族によって神について考え方が異なっているいいと思うのです。

たとえば全知全能の絶対的な神というものを考え、その神の心をわが心とし、その教えにしたがって、みずからを律し高めつつ、共同生活を向上させていくというようなことは、それはそれで大いに好ましいことだと思えます。

ですから、それぞれの国において、どのような神についての考え方を持っても、それはその国民の自由であって、いずれかを是として非とするというようなことはしてはならないし、またする必要もないと思います。そのことがその国の人びとを不幸にし外国に対しても、悪い影響を及ぼすということでは困りますが、そういうことのないかぎり、すべて認められ、自由に考えられていいと思うのです。

ただ日本においてそのようにすぐれた先人を神としてまつているということは、そういった先人の知恵なり業績、いいかえれば代々の衆知に学び、それを現世に生かすという意味を持っているのではないかと思われまします。

その時代において師表とあおがれた人、国家に対して功勞のあつた人、あるいは世の多くの人びとの幸せに貢献した人などを、それぞれ神としてまつたり、あるいは、さまざまの仏や、いわゆる祖師といわれる人びとを仏寺にまつて、そうした神社仏閣に折々に参詣したり、あるいは年中行事として季節季節にお祭りをして、みながそれに参加するとうようなことを日本人は昔からやってきました。このような姿は見方によっては、そこにまつられたすぐれた人びとの業績を、あらためて考え直し、それにあやかるといいますか、それを自分の人生なり共同生活運営の教え導きとしている姿だともいえましよう。

つまり、すぐれた人を神にまつることによって、そこに一つの理想を描き、その手本ともし、目標ともして、自分を、ひいては共同生活を高めていこうとしたのだと思います。ですから神社仏閣なり、お祭りといったものの本来の意義は、そのように、すぐれた先人を敬い、その魂をなぐさめるとともに、その人びとの知恵をわがものとしてとり入れ、それを共同生活に生かしていくところにあるのではないかと考えられるわけです。それだけ

にお祭りというものは、古来日本人にとってきわめて重要な行事になっていたのでしょうか。そのような好ましい姿が長い歴史の中において、知らず知らずのうちに一つの習慣となり、いたるところで行われ、うけつがれてきたということにも、衆知を集めるという日本のよき伝統があらわれていると思うのです。

へだてなく親しむ世こそ嬉しけれ

となりの国も事あらずして

御清聴 有りがとう存じます

・惣社白山神社宮司 富山県高岡市二塚町一三四三

村まつりの本根^{ほんね}

大^{おお}畠^{はたけ}義^{よし}成^{なり}

神社のおまつりは単なる娯楽の一貫と考えるのはかるはずみである。

いやしくも、古来、其の始まり知る程もさだかでない祖宗の鎮護、継承して怠らず今日のおめぐみをちようだいして居ります。

本講の一年に一度の春の二柱の神霊のみたま代^{しろ}のいでましの願いを、例年にたがわず一戸もあますことなく、また順列順序正しく道路・横大路^{よこおぢ}を神具御旗あますことなく、肅々として、神輿にお遷し奉仕まつり、第一宅に庭家敷も狭らに、獅子舞、笛、鐘、太鼓合わせ、囃子も加わり、神主を先頭に、糺藏、別山東、各役職方が神職に続き居並び、その屋宅の神輿に対向の「床の間」と、神居の上の神棚のお供え、お神枝をかざる業を、組または祭人^{まつりひと}せわしげに、もてなしやらで賑わしげに立ちふるまいをする。これこそ、むらまつりの本根の一つである。

そろそろ、祭人の旅人、遠路親戚達も祭衣を背に集まり、獅子舞の子役たちや世話役が賑わう。本根の第二がそれである。

本根の第三は、榊の神かざりであるが、小枝をごちやごちや花びんにさし込んでお供へする方があるが、神は一柱ひとはしらであり、榊はその形代であるはずです。一柱に一切糸紙をたれそえて祀る。

その第四は、別山崎の神社々地、まつりの太屋という広場となっており、村の中心地で、大吞熊郷全体の集会所でもある。公民館が建設され、集会の設置場として最適な地として、大吞熊郷の中心でもある。

時刻的にも日暮れとなり、つかれも極限、まつり太鼓の音色も解さいの音色と変った。神輿振りも離れやうに広場をふり回って、太鼓の音と共に神輿の足なみも早まり、遠路からのまつり人、ここで止まり、河向い神社への登り坂と同時に、鈴・しめ太鼓のしびい音も調子も、疲れの本根と代わり、神輿の併方ともかたのいさみ言調に変わる神輿を坂上に、かけ声一色に変んじ、神職の途行きの音色と、坂路万葉の治布夫路じぶみちの囃子、誰れ言うとなく、大島居前に達し、厄振火をけちらし、鳥居を突破、おくり太鼓も激しく、七十三段の参宮段も急音に変んじ、待ち神楽がけたたましく、むかえ神楽と、奥院の開扉せいのきしみ音、静寂

に代わり、閉扉の警蹕^{けいひつ}の音、闇をこだまし、庭前の忌火が消えうせ、宮司の役人への挨拶、御神酒の頂戴、宮司への感謝の詞で、万葉弥栄の慶び庭外のどよめき、神輿庫の神輿の御納めの儀を終え、町会長の錠印の確認を祢宜がして、明日の確認をしあって下坂、解齋。

「宮司一統の^{ひとで}人夫にねぎらい会合礼をする。」

・阿良加志比古神社宮司 石川県七尾市山崎町力部三五

所 懐

田^た
中^{なかつ}
正^{まさ}
也^や

本日のお祭りのお手伝いをさせていただきました田中でございます。厳肅のうちに賑々しく御祭儀を終えられまして先ずもっておよろこび申しあげます。私、今朝お宮に到着させていただき御挨拶を終えるや否や、こちらの宮司様から「祭が終わったら十分程度でよい

からお参りの方々へ何か話をせよ」という命令を受けたのでございます。寝耳に水、晴天の霹靂とは全くこれのことか、お断りする暇もなくおこがましくもこの場に立たせていただくことになりました。何の用意もして参っておりませんので本末転倒、支離滅裂の話になることを恐れつつも気のついたこと、不断思っていることどもの一端をお話させていただきます。

私、このお宮にお参りいたしましたして先ず目に入ったものの一つに、御社殿の前に建つ狛犬の台座に刻まれている文字でありました。右には真の字が、又左には実の字が大きくしかも深く立派に彫りあげてあります。御承知のように狛犬は対のものでありますので、真実と読んでいいのでありますが、対とはいってもかなりの間隔をおいて建っています。従って私は、真も実も一字づつ「まこと」と読むのだと気が付いたのであります。

狛犬と申しますのは犬の姿を基調にして朝鮮の高麗こまから伝来したといわれる獅子の形を加えた像を石や木または鉄などで作り、これ御神座近くの幌の壁代が風でめくれるのを压えるために置いた、いわゆる風鎮でありました。それに魔除けの意義を持たせるために阿吽あうんの形相を加えるに至りました。阿吽の相と申します阿吽の吽を云と書くこともありませんが、これは密教の仏語でありまして、阿は開口音、口を開くの音、吽は閉口音、口を閉

じる音といい、阿は一切が発生する理^{ことわり}、咩は一切が終る智^{さと}であると説いております。仁王の像にもこの相があります。いかにもいかめしい相であります。麗しい宗教心が生ずるのであります。売り言葉に買い言葉なんていう、ぎくしゃくした境地では全くないのであります。

神社界におきましては事あるごとに奉唱するものに敬神生活の綱領というのがありまして、その第一章に「神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと」とあります。明き清きことがすでにまことではありますが、ここではまつろう者の側から申しておりますので、こう表現している訳であります。

お見受した狛犬の題字にヒントを得た話を申しあげましたが、危懼しておりましたとおりにとりとめのない話になってしまいました。しかしこの狛犬の題字のまことを以て神様にお仕えし、又人々と接し睦ぎ和らげる社会を作りあげることこそ、神様の御意に叶うことであることを、もう一度強く申しあげて終らせていただきます。

外国人のみる神道

岩崎

均ひとし

御存知の方もありますが、私が奉職しております椿大神社には米国に分社があります。カリフォルニア州のスタックトンという所にあり、昭和六十二年に御鎮座、本年の六月に六周年を迎えました。私は御鎮座の年から一昨年の暮まで、五年間に亘って現地駐在員として奉仕をさせていただき、その間、大変貴重な体験をさせていただきました。

本日はその体験を踏まえて、「外国人のみる神道」と題してお話をさせていただきます。とは言いましても、一口に外国人といっても、いろんな方がいます。本居宣長の神道観、平田篤胤の神道観、各々に違いがありますように、外国人一人ひとりが見る神道にも違いがあると思うのです。滞米五年の間に、実に多くの人たちとお会いしました。いろんな人がいます。その人たちから学んだことは、アメリカ人だからこうだ、日本人はどうだという定義付けは良くないということです。ですから「外国人のみる神道」はこうだという定

義付けはむつかしいのです。

実はつい最近、先月十八日から二十七日までの十日間、米国へ出張させていただきまして。まだ記憶に新しいですので、その時のことについてお話し申し上げます。

この時は椿大神社の分社には立ち寄らなかったのですが、その代わり、三つの場所を訪れました。一つはコロラド州のロッキーマウンテン・ダルマ・センター。ここはチベット密教の修業センターで、標高三千メートルの山の中。数十名のスタッフが年間を通して暮らしており、夏には修業に訪れる人で人口が数百人に脹れあがります。このセンターの創始者がチョギム・トルンパというチベットの僧で、米国では非常に有名な人物です。この人が大変、進歩的な人で、アメリカにこのようなセンターを創った。ここでは仏教の瞑想に加えて、日本の茶道、華道、弓道等を教えています。その弓道の先生が京都の御弓師二十代柴田勘十郎さん、神宮の御神宝御弓六十九張を奉製された方です。この人が十年程前にトルンパを神宮にお連れした。トルンパは神宮でいたく感激され、自分のセンターにも是非、天照大神をお祀りしたいと願われた、そして実際に神社を建て始めたところで、トルンパ本人が亡くなってしまったんですが、後を継いだ御子息と柴田先生のお骨折りで昨年無事完成。御縁をいただきまして椿大神社から山本行恭祐宜が、神宮の大大麻を拝受

して渡米し、鎮座祭を斎行。そして本年一周年の大祭をご奉仕してきたわけです。大変立派な神社です。写真を見て、見よう見まねで建てた神社ですから少し足りない所もありますが皆の手作りなので真心が込もっています。日本人は柴田先生ですが、皆が毎日お米と水、塩を供えてお参りしています。

二番めに訪れましたのが、ノースカロライナ州のハイランドという土地。この辺りは水と緑に恵まれて古くからキャンプ等をする保養地として有名な所です。ここのマウンテンという施設でユニタリアンの牧師が二十人近く集って神道の研修を行いました。ビデオを見せたり、事前に本を配っておいたりしたのですが、その研修の中心となったのが滝での禊です。道彦^{みちひこ}をさせていただきました。大きな滝での禊ですから、総てを投げ捨て、滝・大自然に身を委ねて、一体とならなければ投げ出されてしまいます。これは説明がいりませんでした。よく西洋人の考えでは、自然と人とは対立するものだと言われますが、この時、禊をした人たちは皆、人も自然の一部であるということを実際に体験して知り得たと思うのです。皆、大変感激されまして有難いことに、来年も是非来てくれとおっしゃっていただきました。

最後に訪れたのが、同じノースカロライナ州のシャーロットという街。ここでは全米・

カナダのユニタリアン教会の年次総会に出席いたしました。このユニタリアンというのはキリスト教の一派で、少数派ではありますが非常に自由主義的であり、知識層が多いので有名です。そもそも、一九六八年に日本自由宗教連盟・正則学園の故岡信一良博士のご紹介で山本行隆宮司がこのユニタリアンの大会に出席したのが、椿大神社の国際活動の始まりです。以後、ユニタリアンとはいろいろな交流が出来て、最近では毎年この年次大会に呼んでいただき、世界平和祈願祭を斎行したり、ビデオを見せたりして神道の紹介に努めております。本年は、八月に伊勢で万国宗教会議百周年記念日本大会が催されますので、それへの誘致も兼ねて、神宮の式年遷宮のビデオをお見せしてきました。アメリカは歴史が浅いうえに、ユニタリアンにはインテリが多いものですから、理解していただけるかどうか心配だったのですが、見終わった後で一人の男の人が寄ってきました。「私は古いものの、伝統的なものは信じていなかった。ただの権威主義か過去のもの、遺産と馬鹿にしていた。しかし、このビデオを見て考えが変わった。ここには千何百年もの間、人々の祈りが生き続けている。」—嬉しかったです。伊勢神宮の式年遷宮は世界の宝ということが、この人には判ってもらえたと思いました。この夏、伊勢に国内外から多くの宗教者が集まります。世界の宝。神宮の式年遷宮を通して日本の心を知っていただく絶好の機会です。

話がそれましたが、以上三つの所へ行ってきました。「外国人のみる神道」としてまとめないといけないのですが、結論として今回の渡米、そして滞米五年を振り返って、私が会った殆どどのアメリカ人は、神道を日本の民族宗教、日本人だけのものとは思っていないということです。それは今まで日本人が、神道は日本人のもの、日本文化は外人には判らないと言ってきたためなのであり、実際には外国人の神道に寄せる期待は大きいのです。今、特に環境問題が騒がれています。神道を始めネイティブ・アメリカンの信仰等、自然と共存する宗教が注目を集めています。その面だけでなく、アメリカ人は神道の前向きな面、人生を肯定し、今を懸命に生きるということに共感を得ているのです。神道は世界宗教にはならなくとも、世界の人々に多くを与えることができると思うのです。又、日本の若い人たちにも受け継いでもらわなければならないのです。

一 神道人として、この期待に応え、使命を果たすべく神明奉仕をさせて頂いております。

・ 椿大神社権禰宜 三重県鈴鹿市山本町一八七一

三つの「しあはせ」

戸^と内^{うち}康^{やす}雅^{まさ}

大變わたくし事で恐縮ですが、むかしは万年青年とも言はれた事もあります。その私も、近頃は頭に白いものが見えるやうになりました。そのためか、最近では、「しあはせ」って、一体なんなのだ!! と、時々考へるやうになりました。齡のせいでせうか!?

||ほんとうの「しあはせ」とは!?!||

昔から、いろんな学者や偉い人が、いろんな事を言つて居ります。でも、なるほど!!と言ふ説明には、わたくしはまだ巡り合つた事がありません。欲が深いからでせうか!?

その時は、さうだと思つても、後になると、^{あた}当り前^{まへ}にもなります。だから、正直に申せば、「しあはせ」であるか、のやうな顔だけは致して居ります。

さて、わたくしにとって、本当の「しあはせ」を、どのやうに考へて居るか、今日は正直に申しませう。

人間だれでも、努力して上手く行きますと、案外に「しあはせ」だと、感激して居ります。結婚だとか、子供が無事に育つ事とか、うまく進んだ時など／＼です。だが、わたくしと言ふ天邪鬼は、少々首を傾げます。

この世の中に「しあはせ」は一ぱいあるのです。だが、その中でも、自分では出来ない「しあはせ」が、本当の「しあはせ」なんだ、と思ってるからです。しかも、自分では出来ない、本当の「しあはせ」とは、三つある。その三つ、どれも同様に、大切だと思うのです。

Ⅱ一、青畳の上で、死ねることⅡ

変なことを言ふな、とは思わないで下さい。最近、医療や看護のこともありまして、病院で息を引き取る人が多くなりました。だが、病院では、自分の家の青畳の上とは違って、静かに安らかに、お別れを言って死ねないのです。

総理大臣だって、青畳の上で死ねるとは、だれも保証しない。自分の最後の思ひを、子供に伝えても死ねない。伝えて死にたい、と思っても、自分では出来ません。

だから、青畳の上で静かに死ねるのは、「しあはせ」の一つだ、と思ひます。

Ⅱ二、親の墓の懷で、静かに眠ることⅡ

次に、「しあはせ」の二番目は、何か!? それは、死んだ後も、故郷の自分の親の墓で、親と共に静かに眠むること、だと思ひます。

二、三男で、一家を構へ、少し余裕ができますと、墓を建てる方も多くなりました。最近では、夫婦でも墓に一緒に入らないなどと言ふ、変な話も耳にします。そのため、都会の近くの墓地は、全部超満員。

墓の一坪は、六尺四方もない。それが、銀座や新宿の目抜き通りの地価と同じ!! 小さな墓に、住宅の坪当り単価より割高な墓石など。バブルの極地も、ここにあり!! しかも、所有権はなく、利用権だけ、とか!!

折角、買い求めたのに、子供たちの転勤で何時か遠くへ、転居することもある。永年、墓参りもできず、忘れられて無縁にならないとも限らない。だから、墓が買へたから、「しあはせ」だとは言へない。

それよりは、故郷の親と共に、兄弟仲よく共に、静かに眠った方が、どんなに「しあはせ」か!! まして、人は生まれて親の懷に、静かに眠って育ったものを!!

だが、親の墓に帰れるか、は日頃の兄弟・親子の交際つきあひにある。死んで、自分で帰れるわけでもない。これも自分では出来ない。だから、それが出来れば嬉しい安心があり、「しあ

はせ」なのだ、と思ひます。

Ⅱ三、子孫に末長く、祭ってもらふことⅡ

たとへ偉くなつても、死んだらオシマヒでは、あなたも所謂「無縁ボトケ」でせう!!
先祖の一人として、わたくしが祭られるには、自分で祭るわけには行きません。できることは、子供や孫に先祖を祭ることを教へて置くこと以外にないのです。

しかも、自分の家庭や家族が、末長く続かないと、それも出来ません。もし、末長く祭つて戴きましたら、わたくしは第三の「しあはせ」と申せませう。

末長く繁栄があり、仲良く続いて始めて、受けることが出来る「しあはせ」なのです。
この「しあはせ」も、自分で自分にすることは出来ません。

Ⅱそのために、出来ることⅡ

こうして子孫の喜びが、祖先の慶びであり、遠い将来の繁栄が祖先にとつても、どんなに嬉しいことであるか!!

そのためには、自分で出来ることは、しなければなりません。お互ひに、この三つの「しあはせ」が戴けるやう、努力が必要です!!

先づ第一に、親子・兄弟・親類みんな仲良く!!

第二に、子や孫に先祖を大切にし、先祖をまつることを教へること!!

第三に、親は親として勤め、子は子として努めること!!

以上、わたくしが申上げた、三つの「しあはせ」は、祖と孫とが一つに繋がって行くことにあります。これは「祖孫一体」とも申しまして、わたくし達日本人の祖先からの願ひでもあります。そして、この三つの「しあはせ」は、子や孫にとっても、繁栄のしるしだと思ふものであります。

・心清水八幡神社宮司 福島県河沼郡会津坂下町塔寺字松原二八五九

伊勢神宮の思い出

河^{かわ}本^{もと}忠^{ただ}澄^{すみ}

今年の秋、伊勢神宮におかれましては、第六十一回の御遷宮が斎行されます事、誠にお

めでたい事でございます。戦後三回目の御遷宮ですがその度に思い起す事がございます。

私は昭和十二年小学校卒業しますと、すぐ伊勢の神宮皇学館普通科に入学いたしました。まだ東も西も判らぬ年頃ですが、伊勢神宮ではいまだ忘れ得ない思い出があるのです。それは一つは神宮の御遷宮のこと、今一つは神宮大麻のことであります。

御遷宮と申しますのは、二十年に一度お宮を新しくお造りかえして、大神さまをお遷し申すお祭です。千三百年昔、天武天皇さまがお始めになったのです。その頃の建物の法隆寺は現在も世界最古の木造物として残っていますので、建築技術は立派なものがあつたのですが、天武天皇さまは、日本の神さまは、清くすがすがしいのが好きだから、それには古くならない内に新しくお造り替え申上げるといふ遷宮の法をお定めになったのであります。お造り替えるお宮の数は、内宮外宮をはじめ別宮十四、摂末社一〇九社あるのです。御用材は樹齡三百年以上もの桧材で一万三千本、御装束御神宝二五〇種類一、六〇〇点であります。唯一神明造りと申しまして日本古代を偲ばせる直線を用いた百木に金の金具、そのお宮が何千年の樹齡をもつ杉桧の中に建ちいます光影、これぞ日本の大神さまにふさわしいお住居でございます。

しかしお屋根は萱葺カヤヅクですので八年経ちますと縦に溝が出来いたむのであります。このた

め八年目毎に假殿御遷宮が行われるのであります。旧宮地に黒木と申しまして皮をとらな
い木で假殿が作られます。お屋根修復の間、その方に御神体をお遷し申すのであります。
私は昭和十六年奉拝の栄に浴したのであります。戦前での事であります。

当日参拝を許されました神宮皇学館の教職員学生等は、皆制服着用して宇治橋前に整列
いたします。衛士^{ゲイン}さんの先導のもと先ず宇治橋を渡ります。五十鈴川の清流で手を洗い口
を漱ぎ心身共に清めます。

第一鳥居をくぐり神楽殿、五丈殿^{ゴシヤウ}、忌火屋殿^{イミビヤ}を左に見乍ら進みますと、参道は右に曲り
御正殿の真正面石段の近くに参りました。こんなに近い所で奉拝出来るかと胸を躍らせて
いま、今私達が渡って来ました宇治橋辺りで、嚟^{ライ}たるラッパの音が聞えて来ました。
此の儀式には御皇室におかせられましては、天皇陛下の御名代として勅使を御派遣になり
ますので、その警護の為め儀杖兵^{ギシヤウヘイ}が付けられるのであります。玉砂利の音を勇ましく一ヶ
小隊というのでしょうか。七十名許りの兵隊^{ヘイタクマ}さんが銃を肩に歩調正しく進んで参りました。
そして私達の前で参道をはさんで向い合いに二列横隊に整列いたしました。その威儀正し
い兵隊さんの姿を見ていると私達の緊張心は益々高まって参ります。

そのころになりますと、もうあたりは薄闇く、参道の所々に立っている燈籠の火がボン

ヤリとあたりを照らしはじめました。一般の参拝は全く止み、動く者としては白い白丁を付けた諸役の人々が準備に忙しそうに立働いて居るのみです。

カチ、カチ、と拍子木の合図に、御境内の燈籠は一斉に消され、全くの暗闇になったと思うと今度は右、左二ヶ所に篝火がたかれ、パチパチの音と共に苔むした杉の幹や木立の芽が神々しいまで照らし出されます。

空を仰げばいていと聳立つ鉾杉の間から星が美しく煌めいているのが見えます。小鳥たちはもう寢座に落付いたのでしょう。時が進むにつけ、しんかんとした此の閑さ、耳をすませば今迄気付かなかった五十鈴川のせせらぎの音が聞えて来るではありませんか。あの美しい小石の上をさらさらと流れる光影を思い浮べますと、私の体も心も今此の大自然の川の流れの中に溶け込んで、心の汚れが一つ一つ洗い流される思いであります。

二回目の拍子木の合図に篝火も消されますと、全くの浄闇になりました。

幾重にも板垣に囲まれた御殿の中の祭典の様子は窺うことは出来ませんが、幽に雅楽の調べが流れてきます。キイキイとひびく響る音は今御神殿の御扉が開かれたのでございましょう。雅楽の調がイタリキ箏の音に替ったと思うといよいよお立ちであります。しばらくすると板垣南御門のあたりが急に明るくなって、人の動きが感じられはじめました。

儀仗兵は隊長の「捧け銃」の号令一下、一系乱れず兵隊さんは捧銃をいたしました。

行列は炬^{タカウ}を先頭に一段一段と石の階を下りて私達の前まで進んで来られました。雅楽を奏する伶人の方、御神宝を奉持する人々、黒い袍を召された勅使に続いて、絹垣、絹垣とは絹の白布で巾二米長さ四米位、四隅と中程に夫々棒の柱があつて数名の神官に依つて支えられ、此の中に御神体の八咫御鏡が大宮司・少宮司様によつて奉持されているのです。その後黒の袍を召された勅使さま、そして神官七十余名、皆揃いの白の斎服に威儀を正して絹垣を守り乍ら進んで来られました。

箏の音は或時は高く又低く実^ミに哀調を帯びた響です。ああ何んと言う神々しいお儀式でありましょう。何千年何百年と聳^{そび}立つ老杉老松の元、古式床しき假殿遷宮の御儀式が今執り行われているのであります。

儀仗兵の銃に付けられた著剣は、炬の明に輝いて、捧銃をしている兵隊さんは微動一つだにいたしません。

伊勢の大神さまを咫尺の間に拝み得ました此の光栄、此身此まま悠久三千年の日本^{ニッポン}聖國の昔に、大和民族の魂の古里に立帰り、大神さまの広大無辺の大稜威の中に、しっかりといただきしめられている感激に只々あつい涙が湧き出るのみでありました。

今一つの忘れ得ぬ思い出は、神宮大麻についてであります。私等が年の始めに大神さまのみしるしとして各家庭の神棚にお祀りするのでありますが、此の大麻は神宮の宇治の調製工場で奉製されるのであります。

神宮におかれましては、一月四日神宮大麻、神宮暦の調製始めの神事をなさいまして、お仕事にかかられるのであります。学生時代その作業場を見学する機会を得たのであります。

二〇人許りの作業員が居られましたでしょうか。水をかぶって体をきよめ、白衣の作業衣、夕べ日没を待って作業を了えられる。電灯の光はなかったようであります。

御神札作りの印判押しの作業を見学いたしましたが全部手仕事です。一枚一枚左手でめくって右手で天照皇大神宮の印を押されるのですが、その早いこと、全く人業とは思えません、神技です。若し間違がありましたら、又元に戻して押される。機械以上ですよ。感銘しましたのはその作業される人なのです。もう何年と御奉仕なされているのでしょうか。

お年を召されたお爺いさんで、背は曲り目は大きく突出し、これが人と思わるお姿に、朝から晩まで、打通しの突貫作業。又神宮暦の和とじの作業も一つ千枚通しで穴をあけ、あ

の緑の紐を通されるのであります。二つ共今日機械を使えば何の造作も無い事だと思いますが、そこは神宮さまのまごころで以て、頭が下がるのであります。

此の二つの事は私が戦前に受けました感激でございますが、今年秋、第六十一回の御遷宮が執り行なわれ、八月の白石持ちの御奉仕も全国より一日神領民となつて大勢の人々が、御奉仕なさいますこと誠に喜ばしい事でございます。当初予算四百二十拾億円と聞き、それに御寄付申したのでありますが、今、慶光院大宮司さまの書かれたものを見ますと、四百五拾億円とありまして、果して御寄付が充分集っているだろうかと心配になります。又此度の御遷宮を機に、神宮大麻奉戴運動が始められます。氏子さんと共に神宮団体参拝と全戸大麻奉戴に努力いたす覚悟でございます。

明治天皇御製

いにしへの　すがたのままに　あらためぬ

神のやしろぞ　たふとかりける

・宮尾八幡宮宮司　山口県厚狭郡楠町宮尾

温故知新

金^{かな}丸^{まる}光^{こう}作^{さく}

七月に入って梅雨はあがらず、しとしとと降る雨のはざまに、老鶯の鈴やかな声が聴えて来る、さはやかな気持になる。去る六月九日は、我が国にとって、こよなきお芽出度き日で御座いました。申す迄も無く皇太子殿下・雅子妃殿下との御婚儀が執り行はれた日。然も朝から降りしきる大雨もパレードの寸刻前にひたと止み、萬木清々雨露に濡れて、滴る程の静やかな清気、路面も空も樹木も自然全てが静り、実に絵に書いたやうな状、此の一天万上の、日の御子の御慶事を神もみそなはし給ひしか。日本国中はもとより、全世界にこだました彼の平安朝の再現。大内山の瑞気漲る大慶事は、パレードを奉迎する沿道の人々、実に十九万一千人。又テレビに釘づけされた国民五十五万六千人とか、反対のデモ行進をした五十人には何をか言はんや、然も顔をタオルでかくしてのデモ行進の姿には、一抹のあはれが感じられた。日本人として生れ、日本人として活かされてゐる事に感謝を

し、素直な感激こそ必要ではないでせうか。

アメリカの第三十五代大統領になられたケネディ氏は、日本の記者に、私の最も尊敬する人、それは日本の上杉鷹山公であると申されたさうです。山形米沢藩の財政を立て直した偉大な業績を讃へて、其れ故に昭和三十六年一月二十日、大統領就任演説は他力本願の風潮に鉄槌を下したもので「アメリカの同胞よ。諸君は国が自分の為に何をしてくれるだらうかといふ事を考へないで、諸君が国の為に何を盡し得るかといふことを考へて戴きたい。全世界の市民諸君は、アメリカが何をして呉れるだらうかといふことを考へてゐるのではなく、諸君が我々と共に人類の自由の為に何をなし得るかを考へてもらいたい。」と、ローマの末路を見る如く、国家は国民の福祉の為にあると思つてゐる乞食根性の民衆をして、国家を食ひ物にして民衆に迎合し、当選するめめしい事無く、如何に国の為にするかの政策が行はれたら、眞の平和や民生安定が生れて来る。

信仰にしても御利益信仰で無く、今日々々の生活に対して感謝を忘れず、奉仕の心に皆さんが徹したら、人と人との拌み合ひ慰め合ひの、豊かな心が生れて来るのではないでせうか!!

先祖が築き守つて来た自然の風物や形体、お正月にお志米をはり、門松を建てて一年の

計を考へ、神様や親先祖に、また森羅万象に悉く、お餅や御酒を供へ、四方へ向つて奉拝し、近所、知人、親類に対し、旧年中の交誼を謝し、本年も宜敷くと、謙虚に頭を垂れ合ふ此の心から一年が始ります。

小学校では元旦の拝賀式が全員登校して行はれてゐましたが、現在は何故か何処の学校でも行はれてゐないやうです。一学級四十五人が三十五人に、先生方の徹底教育論も其の精華があるのでせうか。昔の教育論を古い、自由を与へよと人間味豊かにの現実教育論法は、自由は勝手ほうだいとはきちがいのが感が伺へます。集団暴力、いぢめ生徒をマツトの中に埋め、死に致らしめたことや、北海道で暴力いぢめの状態を、生でビデオ収録撮影をして興じてゐた事等、学校側の処理、これが人格尊重でせうか。責任のがれの答弁、警察を呼ばなくては校則が守られない。日の丸を国旗と認めず、君が代を歌はない教育があつて好いものでせうか。素直な心を育て感謝と奉仕の道德の根元は、祈りと存じます。自己陶冶は神に祈り、仏に合掌して、何事のおはしますかは知らねども……相手の幸福を歎び、不幸をねぎらふ神人合一の祈りから、感謝が生れ、不平が消え、報恩が生れてこそ、眞の平和の再建です。

温故知新とは、文字の通り、古きをたずねて新らしきを知る事です、お年寄りが申し

れる事は古くさい、時代が異ると申す人がありますが、長い人生体験から来る言葉は尊いものです。いましめになり、励みにもなり、感謝と反省と誓ひの祝詞言葉に通じると存じます。私は愛媛国学館へ入校の前一年間、徳島県が輩出した神道の大家、元国大の講師であられた宮崎鉄風先生に師事し、神主としての心意気を培って戴きました。徳島県下には鉄風塾出の神職は沢山ゐましたが、現在は老齢化や、故人となられし人もあり、十数名程度になりました。其の生存者が寄って先生の遺影を掲げ、毎年慰霊祭を挙行してゐます。

本年五月、私が当番として奉仕を致しました。其の来賓篠原政義元小学校長の、徳島新聞読者欄に投稿した記事を紹介します。「鉄風先生の仁徳に敬意」との見出しで。「宮崎鉄風先生の五十一回顕彰慰霊祭が、去る五月四日、三好町足代八幡神社で取り行はれました。出席者は鳴門市から駆けつけた遺族を始め、鉄風会員並に郡内外の来賓多数、其の上八幡神社関係者も加はって、二十五人となりました。斎主金丸宮司による祭典終了後、遺族謝辞や金丸宮司の御挨拶で、鉄風先生の在りし日の風ぼうの一端を承り、偉大なご功績のお膝元近くへ寄せていただく事が出来ました。直会は、県立自然公園美濃田渕。遠来の客のテントがチラホラする青葉の下で、吉野川の清流を眼下にする風景は、朝夕見慣れた者にとっても一驚を喫するものでありました。中でも、敬神婦人会の心のこもったそば米の一

味は、大好評。画竜点睛の思ひの中で全行事を終ることが出来ました。死後其の弟子たちによって銅像が作られ、五十回に余る慰霊祭が、止むこともなく引続いて行はれて来たといふ事例は、他にさうざらにあることだとは思へません。宮崎先生の御仁徳に改めて敬意を表し乍ら、足取りも軽く帰宅致しました。」

神ごころ身にうながして魂うけし

報謝忘れず教へ子集ひて

金丸光作

当番奉仕と無造作に片付けてゐる教へ子の言葉の蔭に、ボランティア精神を見た思ひであるとの記事をのせて下さいました。此れが温故知新の実践と存じ、御紹介申し上げます。御清聴有難度うございました。

・足代八幡神社宮司 徳島県三好郡三好町大字足代二一九

継ぎゆへい入

平^{ひら}川^{かわ}視^み佳^か

わが国は神のすゑなり

神まつる昔のてぶり忘るなよゆめ

梅雨の長雨が続きますと、二十年程前までの「お風呂焚き」を思い出します。

昨今は、スイッチ一つで熱湯が出て、十分もすれば適温の湯舟の出来上りですが、当時はまず枯木を入れ火をおこし、次に石炭を入れ待っていなくてはなりません。運悪く枯木や石炭が雨に打たれたり湿気をおびていれば、どんなに強く団扇でバタバタあおいでも白い煙が目にしみて……母がお風呂場の向う側から「どうしよう困った困った」と嘆く声が今でも耳に残っております。今思いますと、昔のお母さん方は大変な家事労働だったと思います。さて、この梅雨の真直中六月三十日に大祓を執行します。今年も例年通り雨の中、宮司禰宜に続き、総代様が氏子を代表して、大祓人形を三宝に納め、それを捧持って茅の輪を

くぐり拝殿に参列し、神前にて罪穢を祓い無病息災をお祈りいたしました。

続いて直会へと移り、今年は少しお時間を頂き「日本の伝統」という題でお話を聞いていただいたのです。

内容は、『世界の国々は今、驚きをもって日本の繁栄を受け止めている。敗戦によってすべてが焼けこげたのに、どこにエネルギーがあったのか。もしかしたら「日本に古くからあるもの」つまり伝統文化に糸口があるのではと考え、神社のまつりに注目しているのです。本日の大祓に用いました人形は、昔は木製でしたが（紙は当時貴重品だった）その起源ははるか千三百年程前、聖徳太子の時代に、中国の渡来人によってもたらされ、朝廷をはじめ天下諸国に広められたそうで、発掘された遺跡が去年の冬の新聞報道で大きくとり上げられていました。

人形を用いて罪穢を祓うという神事がこんな昔からあるのです。

当社でも、毎年欠かさず執行っております。

小さなお宮の「おまつり」であります、日本中津々浦々の神社で執行われています。

神社では大小のおまつりがありますが、天皇さまを初めとし祖先から受け継いだ祭事を忘れず怠らず続けてきたお蔭で、大神様のお力を戴き、これは今や世界の大国と肩を並べる

事が出来た理由の一つでもありません。

総代様には大変お世話をかけますが、今後ともお力添を戴きたいと思っております」と御礼申し上げ、にぎやかな直会が始まりました。ぐいぐいとお神酒を頂かれた総代様は自然に表情もほころんで本音の話を聞かして下さいます。ある新任の総代様（六十歳過）が「この大祓の人形をもって、隣組長さんにお願いに上ったら、私は創価学会だからと断わられ大変苦労しました。最近はや時代が変わりましたね。しかし、それよりも何よりも私が驚いた事は、女性の神職さんがいた事です。女性でも神主さんになれるのですか？」と質問を受け、説明し納得して頂くのにひと苦労しました。女子神職については、戦後より宮司になることが許され、現在二万人の神職数の内一八二五名と報告されています（平成五年六月）

平成元年には、女子神職の親睦をはかり、資質向上のため、全国女子神職協議会が設立され、祭式の講習会、鎮魂禊研修会等を開催いたしております。私も参加した事がありますが、皆さん真剣に受講されています。この会の良さは女性ならではの教化活動のお智恵を拝借することができるという事です。また都会の新興宗教のすごさ、神饌調理方法、税務署対策等。

そして今年二月五周年記念大会が明治記念館でおこなわれ、特に印象的でしたのが、ご来賓祝辞での白井永二総長様のおことばでした。

それは神社界における女子神職のはたらきに期待を寄せているという内容でして、皇太子妃雅子様のお母様についての例でした。

小和田家は、外交官のお父様のお仕事の関係上、海外生活が長くおありであったにもかかわらず、毎年欠かさず「日本の伝統文化」である家庭でのまつり、お正月のおせち、歳神様を迎えること、子供の成長を祝ってひなまつり、七夕などをおこなっておられたということでした。「日本の伝統文化は、女性の奉仕によって守られてきている。皆さんも女子神職として男ではできない奉仕を続けていただきたい」と神社界における女子神職を歓迎されたのでございました。はじめに申し上げましたように、今は大変便利な時代になり女性は昔に比べ随分と時間が余ります。そして神様や氏子のお世話をするお時間ができたのであります。

これからの神道教化活動のカギは女性にあると思います。新興宗教の布教者信者さんたちを、思い浮かべて下さい。なぜか女性が多いでしょう。女性には「これぞ」と言う時パワーがあるのです。

このパワーは今に始まった事ではないのです。第六十一回神宮式年遷宮が十月にござい
ますが、室町時代の戦乱の中、二十年に一度の正遷宮が途絶えました（一三〇年間）。神宮
は荒廃し、「なんとかしなくてはこんなことでは大神様に申し訳ない」と立ち上ったのが、
かよわき尼僧 守悦・清順・周養という女性でございまして、諸国勧進し募金し、式年遷
宮が見事復興されたのであります。

古式そのままの神宮の新宮、先祖の人々が味わった同じ感動を現在の私たちも味わうこ
とができる。何と素晴らしいことでしょうか。

このかよわき尼僧、朝廷より慶光院という院号を賜わり、慶光院上人・伊勢上人と仰が
れております。そして、そのご子孫が、先の神宮大宮司の慶光院俊大宮司様でございま
すことは、皆様もご周知のとおりと存じます。

恐れ多いことではございますが、ふと本年皇太子様のご成婚、神宮式年遷宮の年に、私
は「継ぎゆく」という事に女性の御力を感じたのでございます。

今後益々女子神職数は増えるでしょう。

そして、その使命は何か。

神様を拝む心を永遠につなげてゆくことだと思います。

大いにつとめて、先祖から受けついで神まつりを忘れず大切にし、誇りある日本の女になりたいと思います。

・熊野神社禰宜 福岡県大牟田市鳥塚町八七

高見神社裏参道・八幡製鉄所高見社宅地区桜の園開放のころ

波多野 はたの

學 まなぶ

終戦にあたり、誘いざなわれるように神宮に額き、祖国の復興を熱禱誓願されました、今は亡き警世の神道人、恩師石井壽夫先生の初著は、昭和十九年の『佐久良東雄先生のころ』であると聞いております。石井先生は、ひそかに東雄翁歿後の門人と自称しておられたと承っています。

私の御奉仕する高見神社は、八幡製鉄所の守護神として、昭和九年より八幡製鉄所及び

全従業員の熱願により、内務省神社局の設計監理によって、みずからの浄財奉賛と労力奉仕で、約十年の歳月を要し、千載に悔を残さない規模で御造営されました。周囲三万坪の鬱蒼と繁る鎮守の杜は、八幡製鉄所に働らく人達手植えの、魂のこもった、万葉集にうたう「こもりくの杜」であります。

官営八幡製鉄所の建設は明治三十一年に遡ります。当時亞細亞の国々は西欧諸国、白人の植民地となり、日本は開国以来、極めて憂慮される事態でありました。この八幡の地に近代重工業・基幹産業の製鉄所が建設されたことは国体を護る意味で、ことに重大であります。日本の運命を双肩に擔^{にな}う八幡製鉄所に働く人達は、一^{いっ}に西洋に伍して日本民族・御国のために如何に貢献できるか、生命を賭していたと言っても過言ではありません。

工場の拡張相つぎ、この高見地区に製鉄所の高等官舎が、明治終りより大正始めにかけてできあがります。高見神社の眼下に拡がる高見社宅地区は、天皇様の御座所・京都に倣い、条理制が敷かれ、日本人のやまと心に最もふさわしい、命をかけて国を守る氣概をもつて、いさぎよい桜が多く植えられました。八幡製鉄所は、「御国の御為に命をかけている」と言う精神のあらわれであります。

爾來八十年、守り育てられ、補植相つぎ、神社裏參道一帯及び高見製鉄社宅地区、約十

万坪の自然環境に恵まれた緑蔭の中に、千本になんなんとする桜の開花は見事と言う他ありません。^{ひとよ}一重の染井吉野桜を中心に、山桜、白桜、ふじ桜、たきにおい等、又裏参道には八重桜の楊貴妃、ふげんぞう、きく桜、いちよう桜等が咲きほこっております。

北九州の発展は八幡製鉄所の存在なくしてあり得ませんが、北九州市制三十周年にあたり、本年、市民と共にある、開かれた製鉄所として、桜開放元年と銘うって一般開放を行いました。

本居宣長翁は「敷島のやまところを人とはば 朝日に匂ふ山桜花」とうたわれましたが、一般開放して桜狩りをたのしむ人達に、このやまところを知っていただき、八幡製鉄所の人達が、御国のため命をかけて働いた尊い歴史を懐^{おも}い、この魂を末永く子々孫々にうけついでいただきたいのであります。

「事しあらば わが大君の大^{おほ}みため 人もかくこそちるべかりけれ」の御歌は、幕末の勤王歌人佐久良東雄翁の歌であります。

神宮に額き「何ごとのおはしますかは知らねども 忝^{いせり}なさに涙こぼるる」と伊勢に庵を結ばれました西行の最もいつくしまれたのも桜であります。「願はくは 花のもとにて春死なむ その如^{ごと}月の望^{もちづき}月のころ」の歌の通り、旧暦二月十六日亡くなられた西行のころ

は、東雄翁に引きつがれました。

佐久良東雄翁は筑波東麓、土浦藩郷士飯島平蔵長子、幼名吉兵衛、通称靱負（やぎえ）（天皇様のおそば近くにお仕えする意味、雪の消えるが如く、皇ら御国、天皇様の御為に命をささげる意味）、大楠公の「七生報国」の人であります。

十五歳。善応寺仏門入り。住職康哉（こうさい）は国学者契沖の弟子。康哉遺言「我幼少より仏門に入るといへども精神の存するところ、皇道を闡明（せんめい）し、御国に尽さんと欲するのみ。汝（なんじ）古典を研精し、王事に尽し、列聖の洪恩（こうおん）に報ずべし」。水戸藩藤田東湖等と交友。自分の仕えるのは天皇様のみと、水戸藩仕官の道を断る。「かりそめに墨のころもはきつれども 心はあかきやまとだましひ」。墨染の衣を脱ぎ捨て、三七・二十一日間鹿島神宮神池にて身禊（みそぎ）。神恩を得て桜樹千株奉獻。佐久良靱負と命名。佐久良の姓は一事あらば、桜花のように天皇様のため潔く命を捨てて忠誠を尽す意。三十五歳。念願の上京。「一歩み 歩めば歩むたびごとに 京に近くなるがうれしき」。泉州信太森明神祠官。三十九歳。坐摩神社祝部（いはなり）。孝明天皇中山権典侍慶子妃御懷妊、皇子降誕祈願。明治天皇御降誕。ペリー来航、安政の大獄、桜田門外の変。五十歳。徳川の粟を喰まず、獄中餓死。七年後、王政復古、明治維新。

佐久良東雄遺書（子息石雄宛）

「我等先祖ヨリ受シ皇恩神恩何万年、今日迄受候ヤ数ヘガタシ、此処ヲヨクヨク勘ヒ明ムレバ此一身幾度ステテ御恩報ジ候トモ報ジ難シ……無禄ノ身何モユヅルモノナシ、タダ此一言也……」(副島廣之先生―勤皇歌人佐久良東雄先生について―参照)

八幡製鉄所に命を捧げて、国運の隆昌を祈誓された大先達の「桜」に託する尊いところを偲び、この靈統をうけつぎ、桜狩りを楽しんでくれることを望むや一入ひとしほであります。「天地あめつちのいかなる神のこころより さくらの花はさかせそめけむ」東雄翁御歌。

・高見神社宮司 福岡県北九州市八幡東区高見一―一

火を拝む

中なかつ澤さわ三千夫みちお

老人が火を拜んでいる姿を見ると、最近の子供や若者の中には迷信だと思ふ人があるよ

うです。ボタンを押せば火がつく、蛇口をひねれば湯が出る。便利で快適な生活をしているから、火は人が利用するものであって神ではないと思うからでしょう。

消したつもりの残り火から火事になった等、火事は人の不注意から発生することが多く、風にあおられて類焼する等、火事は人に大きな被害を与えます。火事はこわいから火事が起らないよう火の神様を拜むのだとも若い人は考えるようです。

科学技術の進歩によって、現在の私達はあまりにも便利で快適な生活を営めるようになったので、若い人達のような考え方が生まれてきたのかと思います。しかし、個人の生活では便利になった反面、排出した煙によって大気が汚染されて人間の健康が蝕まれたり、二酸化炭素によって地球の温度が上がって水面があがってくる等の弊害も起きてきております。西洋で発達した科学技術の考え方は、私達の生活を便利で快適なものにした反面、公害や地球環境の破壊という形で行き詰りをみせております。若い人達が迷信だと思う祖先の遺してくれた信仰の中に、現代文明の行き詰りを解決する道が含まれているのです。

昔、西洋のギリシヤやローマで文明が栄えた時がありましたが、いつのまにか衰亡しております。贅沢な生活をするために、森の木を乱伐し薪を作ったので山肌があれ、禿山ばかりになって土地の生産力がなくなったことが原因の一つとしてあげられております。

薪にするため切った木が再び使えるように大きく成長するためには十年から二十年という年月がかかるのであります。薪が欲しいからといって、若木のうちにまた切ることを繰り返せば地味がやせて草木が生えなくなります。

私達の祖先は、人間の都合ばかり考えて、木を乱伐すれば山が荒れることを知っていて、自然が木を育ててくれる範囲内で木を伐って焚くようにして森を維持してきました。自然が森を育ててくれる範囲内で火を大切に使うて暮らしてきたのです。

昔は山から木を切り出し、細かく割って薪として燃しました。薪が燃えつきると新しい薪を足す等、木を燃やして熱や光を得るため人が働かねばなりませんでした。「後先チョロチョロ中パッパ、赤ん坊泣くとも蓋取るな」御飯を焚くにも人がつききりで火を加減しました。今では、ボタンを押して時間を指定しておけば、朝起きた時には御飯が出来ています。外出して家へ帰ってくると部屋が暖房されたり冷房されているようにもなりました。電燈を一時間使ったから何円かかった。ストーブを二時間使ったから何円かかったと計算せずに、年寄り、夫婦、子供等が自分達の部屋でああ寒いからストーブをつけよう、ああ暑いからクーラーをかけようという気軽に使っているのが実情ではないでしょうか。

昔は、薪を燃して火の力を得ていました。今は、石炭、石油、天然ガス等を使って、電

気等様々な形で利用しています。昔は火と表現しましたが、現在ではエネルギーと表現したほうが実情にあっていると思います。私達が生活の中で使うエネルギーを薪に換算したもののすごい量になるでしょう。それが可能になったのは地下資源を利用しているからです。しかし、石炭、石油、天然ガスは何千万年、何億年も前に自然が育ててくれた木で出来ているのです。現在、私達が贅沢にエネルギーを使って豊かな生活が出来るのも、大昔に自然が木を育て貯めておいてくれたものを使っているからだといえます。自然が過去に貯金しておいてくれたものを食いつぶしているのだとも言えます。

木を燃やせば煙が出る。煙の中に含まれている二酸化炭素は木の葉が日光を受けて吸収し栄養分としていることは理科で習ったと思います。木を燃した煙は木の葉によって木にもどるといふ自然の循環が行なわれているのです。しかし、今のように人間の都合ばかり考えて過度に燃せば自然の循環の摂理を越しますから、公害や自然破壊、資源の枯渇という形で使った人間側にしっぺ返しがくるのであります。

火が持つ力、現代で言えばエネルギーは、人々が生きてゆくうえで欠くことの出来ない様々な恩恵を与える反面、火災とか公害等の形で人々に害を与える両面を持っているものです。この両面は科学技術が進んでもなくならないと思います。

私達の祖先は火の恩恵に感謝して火を大切に扱いました。火の恩恵を感謝して火の神様と敬い謙虚な心で火に対処してきました。火を拝むことは便利で快適な生活をするためという人間中心の考え方から、火やエネルギーを浪費しやすい現代人に対する祖先の残してくれた教えではないでしょうか。

・日長神社宮司 愛知県知多市日長字森下三一

万国宗教会議百周年記念日本大会について

山^{やま}本^{もと}行^{ゆき}隆^{たか}

本年より百年前の明治二十六年（一八九三）、九月十一日より二十八日までの十七日間という長い期間、アメリカ・シカゴに於て万国宗教会議が開かれました。参加教団はカトリック、ギリシャ正教、プロテスタント各派、ユダヤ教、ヒンズー教、儒教、仏教、神道、

ジャイナ教、ゾロアスター教、イスラム教の各国各派指導者一〇〇名余が連日に亘り、各教派の教義を高らかに宣するもの、ユダヤ教徒に対する世間の偏見に反論するもの、女性宣教師による男女差別撤廃を訴えるもの、黒人女性によるキリスト教内における人種差別を糾弾するものに至るまで、実に多岐に亘っての講演の連続でありました。而もこの大会に参加した人は、延べ十五万人、開会式・閉会式のみで、実に七千人を超えたといえますから、空前の大会で画期的なものでありました。この大会は十九世紀末の唯物論的諸傾向や、進化論をはじめとする自然科学の脅威を感じた、当時の人々の地球規模での心の要求が反映されていると推察することが出来ます。そしてこの会議の目的は、世界の各宗教代表者が一同に会し、各宗教が如何なる真理をもって人々に説き教えているか、そして各宗教が友好的な話し合いをなし、人類の同胞精神を促進し、各派の指導者や学者等から、文学、芸術、産業、政治、家庭及び社会生活に与えている精神的影響を正確に陳述してもらうこと、各派宗教の現状と展望を世界に公表し、永久に記録すること、永遠の国際平和を確保せんとの希望のもとに、地上諸国家を一層友好的な関係に導き入れる等の目的で開催されたのであります。この大会は全世界の宗教の代表者が平等の立場で参加し、自由に夫々の信仰と教義を発表したことから、会議の内容は大変豊富でありました。日本からの

参加者は釈宗演師（臨濟宗・円覚寺）、真言宗、浄土真宗西本願寺、天台宗、神道実行教で、特に釈宗演師の講演原稿は鈴木大拙が英訳し、当時、帝国大学学生であった夏目漱石が添削（てんきう）して、「佛陀の福音」として刊行し、これが縁で鈴木大拙が渡米し、全米に禅を拡めたのです。幸いこの時期は、コロンブスがアメリカ大陸発見四〇〇年を記念して、シカゴで開催されたコロンビア万国博覧会の時期を選び、十九世紀の物質文明の粋（すい）を、当時の新興都市であったシカゴで、古今未曾有の規模で開いたもので、この好期に精神界の万国博を開こうと言う声が各界から起って、ここに第一回の万国宗教会議が開かれたのです。この様に百年前において、斯くも大きな大会は世界宗教史上始めてのことで、全く想像することも出来ないくらい空前のものであり、世界に与えた影響は大きく、且つ画期的なことであつたと思う次第です。今日の地球的諸問題をかかえるなか、宗教者の使命は益々大きく重く、地球上に住む五十三億の人間が、本当に安心立命して生きて行くことが出来るか、民族、宗教、文化の違いを超えて、共通の願いである平和、共存共栄の実践の道を如何に進めるかであると思うのです。この時第二回万国宗教会議を日本で開くよう叫ばれた方が、今は亡き今岡信一良先生であります。

少し時間を借りて先生のお話をすすめます。

今岡先生は日本の宗教指導者に国際自由宗教連盟（IARF）（樺大神社加盟）を紹介し、神社本庁、樺大神社も加盟している世界宗教者平和会議（WCRP）の基礎を作られ、その創立の担い手として大きな指導的役割をなされた先生で、日本の自由宗教の先駆者として、東京の芝・正則学園の理事長、兼正則高校の校長を歴任されたのです。明治十四年、島根県に生れ、松江高校、東京帝国大学で宗教学を、更に米国ハーバード大学で神学を学び帰国され、正則学園を創立されました。昭和七年アメリカのジャーナリスト・J・W・Tメーソン氏が来日して、日本の神道を研究したい、又神社を巡拝し、日本人の信仰生活を学びたいので、通訳を今岡先生に依頼されたのが最初の出合いであったと聞いています。今岡先生は、メーソン博士が何故、神道に興味があり、民族宗教である神道、又多神教である神道を学ぶのかと、メーソン博士に質問しました。メーソン博士は「私が二四歳のとき日露戦争が起り、日本が勝った。世界地図を見ても探さなければ分らないくらい小さな国・日本が、世界一大きなロシアと戦って勝ったことに興味があり、日本人の精神構造と、その信仰している神社神道を研究したい。」と言われた。そしてメーソン博士と共に神道の勉強をされ、全国の神社の巡拝を重ねているなかで、神道には偉大なる真理があり、教えがあると信じ、今岡先生は、クリスチャンでありましたが、遂にクリスチャンを脱退し、

神道人となり、メーソン博士と共に講演に歩き、その通訳をされたのでした。メーソン博士は昭和七年には既に、古事記・日本書紀の英訳書を読破し、「神ながらの道」なる本を出版し、(翻訳は今岡先生)日本人の生活自体が神道であり、しかも日本固有の民族宗教であるが実に普遍性があり、且つ世界何れの国の他の宗教も認め、特に仏教もすべて受入れる寛容性がある神道、これこそ自分が永年理想として来た自由宗教であると確信されるに至り、みづから神道人と名乗り、昭和二十三年に自由宗教・帰一教会を創設し国際自由宗教連盟(IARF)に加盟されたのであります。メーソン博士は昭和十五年にも「神道神話の精神」と言う本を再度出版されました。その中にメーソン博士は「日本神道は外面は甚だ単純であるけれど、深遠なる内面的意義をもつもので、永久に神道は国の宝である」として「世界に誇るべき人類の宝である」と書かれている点、誠に注目すべき言葉であります。彼は日中戦争末期、大東亜戦争直前にアメリカに帰国されましたが、アメリカに於ても神道の研究を続けられ、昭和十六年五月十三日、ニューヨークで六十三歳にて病没。死後、遺言書が見つかり「私は日本人として帰化したい。私が死んだら遺骨は日本に埋めてほしい」とあり、今岡先生はアメリカに渡り、米政府の許可を経て、戦後アメリカから日本に来る最初の船で、メーソン博士の遺骨を引取り日本に持ち帰り、東京の多摩の今岡家

の墓地の隣りに立派なメーソン博士の墓を建てお祀りし、メーソン博士の遺言を実行されたことを、直接、今岡先生から聞きました。本当にすばらしいことであります。今岡先生は、一〇六歳をもって昭和六十三年四月十一日、天寿を全うされましたが、丁度亡くなられる一ヶ月程前に御見舞に参上いたしました。その時、先生は、「山本さん、よう来て呉れました。あなたは米国に神社を建てられたそうですね。メーソン博士は生前、米国にワシントン神社、リンカーン神社を建てたいと申されていましたよ。もしメーソン博士が今生きていたら大変お嬉ろこびになり、恐らくアメリカ椿神社の神主を申し出られたでしょう。」と言われ、更に、「第二回万国宗教会議は必ず日本で開いて下さい。お願いします。」

世界が今、日本での開催を要求しているのです。」私は即座に「必ず日本で開催出来ますようグループの皆様と相談し、実行出来る様努力することをお誓いします。」と答えたのでした。このことは今岡先生の遺言と受け止めて居ます。既に昭和五十九年（一九八四）、第二十五回国際自由宗教連盟日本大会の閉会式には、名誉会長として流暢な英語で、万国宗教会議百周年記念日本大会は日本で開くよう呼びかけられたのであります。これらのことも昨日のように思い出される次第です。本年平成五年、その開催の年が来ました。もうすぐです。八月二十九日、三十日です。僅か二日間であります。日本の精神の中心であり、

心のふるさとである神宮御鎮座の地、お膝元の伊勢市において本大会が開かれるのです。五ヶ年間に亘る私達の準備を経て、今、開催の時が来ました。幸い本年は、一三〇〇年間続いて来た二十年に一度の第六十一回神宮式年遷宮の年、「いのちのよみがえり」の年。すべてが新しく世替りする、而も二十一世紀に向っての出発の年。まさに平和の女神・天照大神の御神示、奇しき御謀りではなからうか、ただただ頭が下る思いであります。

私達は無量の神の御加護をうけていることに目をさまし、現代のすさまじい科学の進歩によって人間の生活は、より便利に、より快適なものにして来ましたが、反面、いつの間にか神の意に反して、経済優先、物中心的な考え方になり、取り返しのつかない道を歩いているのが現代の姿であります。今人類は、さまざまな問題をかかえ、苦悩の中で、「いち」に対する畏敬と、尊敬を回復するための産みの苦しみを味っているように思えます。この多様な価値観の共存する中で、世界各国から集った東と西、北と南とが出会い、人間中心の平和から、人間同志の、人間と自然の共生と調和への道を探らねばならないときが、今なのです。私達はお互いに困難と歓喜を分かち合い乍ら、二十一世紀を希望の世紀として、次の世代に引き渡すことを約束せねばなりません。幸い世界各国より八十数名の代表者を始め、開会式には、神社界、又宗教界代表が参加され、千二百余名の方々が参集いたしま

す。先般、名古屋出身の留学生・服部君が射殺されたとき、葬儀をしてくれたルイジアナ州のクラブ牧師も、この大会に出席されます。その他、椿大神社アメリカ分社の役員も来られます。開会式に続き、皇学館大学・谷学長の基調講演をいただき、午後は全員神宮参拝、大々神楽を奉納し、世界平和を祈り、また、遷宮についての講話を聞き、夜は観世流家元始め一門、三十五名の方々によって薪能「絵馬」が五十鈴公園にて上演され、翌三十日は、午前中、外宮さまへの御白石持ち神事に外国の代表者も参加、午後、『二十一世紀に向う宗教の役割と責任』をテーマに、世界各国の代表、日本の代表によるシンポジウムを開き、諸宗教の対話と協働の実践を共にする会議を行う予定となつて居るのであります。このように神宮に於て本大会が開催されることに大きな意義があることを痛感するものであります。私は今岡先生の御導きにより、約三十年間に亘り平和運動を実践させて頂きました。今回は国際自由宗教連盟日本連絡会議において本大会会長に推薦され、その責任の重大さを思うとき、本大会に対しては命をかけて成功する様に努力をいたしますので、皆様の厚き御支援を頂き、併せて御参加をお願いする次第であります。

御清聴有難う御座いました。



第十回 神道講演全國研修大会・東京大会 平成6年7月21日～23日 於 靖國神社

第十回神道講演全国研修大会 東京大会

とき 平成六年七月二十一日～二十三日
ところ 靖國神社・遊就館講堂

英靈の恩

坂さか

明あき

夫お

本日は御遺族戦友の皆様方ようこそ靖國神社に御参拝下さいました。このように大勢様お揃いで御本殿奥深くまで御参拝を戴き、御縁深き御祭神にはさぞかしお喜びでお迎えのことと拝察申し上げます。今後とも御英靈の尊い御遺徳をお偲び戴きつつ、また、その御加護を受けられまして、益々お元気で御活躍なされますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、今日は御英靈を前にした皆様方に「御英靈の恩」について話をさせて戴きたく存じます。古来日本人は全てのものに恩を感じ、全てのものに感謝をして生きて来りました。仏教でさえ、日本に入ってくると森羅万象悉皆仏性ありと、本来の仏教教理とは異った姿になり、全てのものが尊く、感謝すべしとなります。

このようにあらゆるものに恩を感じる日本人ですが、その恩の中でも日本人が決して忘れてはならない恩が三つあると私は思います。

一つには天皇陛下に対する大恩、二つには祖先に対する恩、親に対する恩もこれに含まれます。そして三つには祖国の為に尊い生命を捧げられた英霊に対する恩です。

どうでしょうか皆様、こうして御参拝されていらっしゃる皆様は違いますが、今の日本は英霊に対する恩を忘れてはいないでしょうか。天皇陛下に対する恩、祖先に対する恩は忘れていないように思いますが、こと英霊の恩となると、何か感謝するのが特別のことのように見られる風潮があるようです。

天皇陛下に対する恩は、昭和天皇の御不例の折に如実に示されました。あの頃は雨の日が多く、皇居前広場は傘をさした国民で溢れました。文字通り老若男女が、髪の毛を染めた若者が、小さな子供が、御見舞の御記帳を申し上げたく、陸統と集りました。天皇います国日本の有難さを皆感じているのです。

祖先に対する恩はどうでしょうか。「敬神生活の綱領」にも「神の恵みと祖先の恩に感謝し」とありますが、先日、七月三日付の読売新聞に、ほっとするような特集記事が載りました。「宗教に関する国民意識」の世論調査です。大見出しには「世代問わず薄らぐ信仰心」とありますので、最初は心配して読み出したのですが、よく読むと、さすが日本人と思えました。

「神や仏が存在すると思いますか」の質問には「存在する」が約四四％と過半数に達していないのですが、「天国や極楽、地獄があると思いますか」の質問には「ある」が約七〇％、そして、「死んだ人の霊はわれわれを見守っていると思いますか」の質問に対しては何と八九％の人々が「見守っている」と答えています。即ち十人のうち九人が祖先の恩を感じているということなのです。ああ、やっぱり日本人だなあと安心しました。

天皇陛下に対する恩、祖先に対する恩は現代の若者と言えども忘れていないようです。ところがです。英霊に対する恩については如何でしょうか。

勿論多くの国民は忘れてはいません。その証拠にここ靖國神社には年間何百万人という国民が参拝します。御遺族戦友の方ばかりではありません。つい先日七月十三日から十六日までみたま祭が行われましたが、夜のお祭である為もあり、実は大勢の若者が集まりました。国民は御英霊の恩を忘れているようでも決して忘れてはいないのです。

国民は忘れてはいないのですが、政府やマスコミはかなり悪意を持って国民に、英霊に対する恩を忘れさせようとしているのではないでしょうか。その最たるものが、終戦五十年を機に大東亜戦争を謝罪する国会決議をしようとするものです。

五十年たつと歴史的評価ができると申します。本来ならば来年は「祖国の為に尊い生命

を捧げられた英靈に感謝する」国会決議をすべきなのです。大東亜戦争を戦った日本の国を誇りに思う教育をすべきなのです。謝罪決議などんでもないことです。

謝罪と言いますが、一体日本はどんな罪を犯したのでしょうか。英靈は犯罪人だと言うのでしょうか。羽田前総理は「日本国民一人ひとりが歴史を直視し」と談話を発表したそうですが、一体どのように歴史を直視すれば、日本が罪を犯したと言えるのでしょうか。

戦争とはどの国にとっても、どこの国民にとっても悲しい出来事です。皆様方も最愛の肉親や友を国に捧げられたのです。英靈も平和の世の中で、皆様方と平穏にお暮らしになられたかったことでしょう。

歴史を直視した時に、今のようにアジア、アフリカの国々が独立し、まがりなりにも平等で自由な世界を作る為には、大東亜戦争は歴史的に避け得なかったのではないでしょうか。その世界的意義のある戦争が大東亜戦争であり、その御戦に雄々しくも生命を捧げられたのが英靈なのであります。

どうか御遺族戦友の皆様方、英靈に対する国民の感謝の気持ちを政府に伝えようではありませんか。現在、靖國神社では英靈の名誉を守る為に「謝罪国会決議」に反対する署名活動を活発に行っております。皆様方は勿論、一人でも多くの方に、英靈の名誉を守り、

英靈の恩に感謝しようとお伝え戴きたいと存じます。

本日はようこそ御参拝下さいました。

・靖國神社権禰宜 東京都千代田区九段北三一―一

教育勅語

初^{ハツ}山^{やま}かほる

朕^{チン}惟^{オモウ}フニ、我^ワカ皇祖^{コウソ}皇宗^{コウソウ}、国^{クニ}ヲ肇^{ハジ}ムルコト宏遠^{コウエン}ニ、德^{トク}ヲ樹^タツルコト
深^{シン}厚^{コウ}ナリ。

我^ワカ臣民^{シンミン}、克^コク忠^{チュウ}ニ、克^コク孝^{コウ}ニ、億^{オク}兆^{テウ}心^{シン}ヲ一^{イツ}ニシテ、世^ヨ々^ゾ厥^ソノ
美^ビヲ濟^ナセルハ、此^コレ我^ワカ国体^{コクタイ}ノ精^{セイ}華^カニシテ、教^{キョウ}育^{ウイク}ノ淵^{エン}源^{ゲン}亦^{マタ}実^{ジツ}ニ此^{ココ}
ニ存^{ソン}ス。

爾臣民、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相信シ、恭儉己レヲ持シ、博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ、業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓発シ、徳器ヲ成就シ、進テ公益ヲ広メ、世務ヲ開キ、常ニ国憲ヲ重シ、国法ニ遵ヒ、一旦緩急アレハ、義勇公ニ奉シ、以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ、是ノ如キハ、独リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。

斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖祖宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス、朕爾臣民ト俱ニ、拳々服膺シテ、咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

今度はこの様なすばらしい大会に出席させて頂きました事を大変嬉しく思っています。今日はとてもすばらしく感じました教育勅語と、幸せについてお話しさせて頂きたいと思っています。何年前になりますでしょう。私が福岡県の宮崎八幡宮で巫女を致して居りました頃、毎朝御神前にて入り立ての神職さんと巫女さん全員で、教育勅語と大赦の詞を奏上致して居りました。おかげ様でいつの間にか教育勅語と大赦の詞を覚える事が出来ました事

に、大変感謝致して居ります。その当時は深い意味もあまり分からず、大切なお詞なのだなあと感じる位でした。最近やっとお一つのお詞の意味が分かるようになり、本当にすばらしく感じました。私は以前、母方の祖母で、御健在でありますなら九七歳でございますおばあちゃんと、一緒に生活致して居りました時期がございました。その頃毎日私と病院通いを致して居りました。病院の院長先生から「村上のおばあちゃんは優等生」とお褒めのお詞を頂き、祖母は院長先生にお会い出来ます事を楽しみに致して居りました。院長先生の奥様は祖母とお名前が同じでございました。村上キミコおばあちゃんでございます。私は祖母から日々の生活の中から人間として大切な真心をたくさん教えて頂き、学ぶ事が出来ました事は大変幸せに感じて居ります。ある日私は祖母をお風呂に入れてさし上げ、髪を洗い背中を流してさし上げました。今でも忘れられないあの素敵な笑顔、うれしそうなかわいらしいお顔で「ありがとうええあんばいよ、本当にありがとう」と優しく言って下さいました。祖母に喜んで頂いて私の方がとても嬉しく思いました。とっても幸せに思いました。幸っていろいろと数多くございますが、皆に喜んで頂ける事が私には何よりもの幸せに思えます。私は祖母と一緒に暮らしました事が、今までで一番の幸せでございます。時代が変わりましても忘れる事の出来ない思い出。一生の宝でございます。

います。

今姉は大宮市へ、妹は広島へお嫁さんに行きましたので、私は父と母と跡継ぎの弟と四人家族になりました。毎日四人協力し合って御奉仕させて頂いて居ります。とても楽しく暮らして居ります。幸せでございます。私はなぜお嫁さんに行っていないのでしょうか。決して行けないのではなく、家の居ごちも良いし、まだ少し早いのではと思って居ります。しかし父母弟はどの様に思っているのでしょうか。先日弟に「かほるお姉ちゃん早くお嫁さんに行かないの」と質問されました、「えっどうしてっ」て聞くと、「かほるお姉ちゃんがいなくなると父と母が大変寂しがり、ぼくが早く結婚出来るから」と、とても面白い会話でした。私は両親から今だに大変かわいがられて居りますので、一人だけ余程出来が悪いのかも知れません。姉はしっかりして居て、とても優しく、私はのん気、妹は几帳面で控え目でとても優しく、弟はユニークでお友達がとても多く社交的で、四人共とても仲良しです。弟とペアー組んで一緒に外祭に参りますと、よく夫婦と間違えられます。私は若く見て頂きとても嬉しくて喜んでいるのですが、弟はいやって顔をしている様です。なぜだか父とも気持ちを通じ合い、両親から愛されている私は本当に幸せでございます。

先日七月七日七夕祭を致しました。近所の小学生と幼児五〇名程と、お母様方と共に、

昔を懐かしみ楽しく飾り付けを致しました。子供達は皆素直で純粹で、とてもかわいらしい子ばかりでございます。「かほるお姉ちゃん、お宮のお姉ちゃん、お宮のお兄ちゃん」と呼んでくれます。とても親しみを感じます。私もこれから先、子供達の様な優しい心で明るく人生を歩んで行けたらいいなあと思います。父母にもずっとずっと長生きをして頂き、これから私なりに出きる限りの努力をして行きたいと思います。

東京大会に出席する何日か前に、大変悲しい知らせがございました。上田義明おじいちゃんがお亡くなりになりました。九七歳。去年の八月三十一日、九月一日、二日佐古幸嬰先生が、夏の太祭の御講演の御講師でお見え下さって居りました。その頃台風が接近致して居りましたが、私の運転で先生と父と母と四人で上田のおじいちゃんのお見舞いに参りました。その頃はともにお元気そうで「来年の東京大会へ是非とも出席致したい」とおっしゃっていらっしゃいました。私も握手をして頂き「早く元気になられて下さいね。」と申しました。その時涙があふれ出て止まりませんでした。長い長い人生を歩んでこられたおじいちゃんの御冥福を心からお祈り申し上げます。

御清聴誠にありがとうございます。

私は教育勅語が大好きでございます。

来年の北海道大会へ出席出来ます様、神様へお祈り申し上げます。

・ 嘯吹八幡神社禰宜 福岡県豊前市大字山内一四三

広島は今

村田和弘

皆さんは、広島と聞いて一番に何を思いつけますか？。

色々な事が考えつくと思います。例えば世界初の原子力爆弾・日本三景の一つ安芸の宮島・プロ野球の広島東洋カープ・今、人気ナンバー1のサッカー、サンフレッチェ広島・そして今年十月から開催されるアジア大会・又、食べ物で言う、なんと言っても広島のカキ・お好み焼・もみじ饅頭など色々な物が浮かんでくると思いますが、皆様方は何を想像されましたか？ たぶん、原子力爆弾を想像されたと思います。ちょうど、二週間位前

に、車の中でラジオを聞いていますと、「戦争を体験している人は広島と聞くと一番に原爆の事が、時期も時期ですから浮かんでくるらしいのです。」と言っておりました。又、今頃の小・中学生に聞くと、サッカーのサンフレッチェが一番浮かんでくるということです。余談になりますが、カキ・お好み焼・もみじ饅頭とか食べ物进行い付く人は大半が女性で食欲旺盛の方だそうです。

私は、今こうして、五体満足に演台に立って話をしてますが、私も被爆二世の一人です。私の父（和之、現長束神社宮司）があゝの原爆ドームから、直線で約四キロメートルの場所て被爆、体の左側が放射能を浴び現在でも、年二回の原爆検診をうけております。又、三年前に亡くなり、今は慰霊碑に名前がぎざまれました私の祖父は、爆心地から、直線で約一キロメートルの所で被爆、一瞬のうちに約二十万人の尊い生命が失われた中で、奇跡的に助かり、九死に一生を得た一人てありました。しかし、ただ事ではすみません。放射能を背中から浴びたので、背中から、腕・足までケロイドだらけでした。

人間だけではありません。広島町の全体が一瞬の内に地獄となつてしまいました。当時、広島町のは、これから先約五十年間は草木は生えないと言われておりましたが、今では立派に草木が生い繁り、私の奉仕神社、長束神社も青々しく樹木が生い繁り、セミの声が一

段と大きく聞こえる、「鎮守の森」となっております。

先ほどの話ではないですが、今頃の小・中学生の間では、サッカーのサンフレッチェが一番に浮かんで来ると、ラジオで言っていたと言いましたが、実際、私も、被爆地広島というより、ほかの広島を考えてしまいます。テレビを付けて見て見ると、おたふくソースのコマーシャル、あるいは、広島東洋カープの選手がラーメンのコマーシャル、一日一回は何か広島のパール・コマーシャルが流れています。こんなことでは、被爆地広島と言うイメージが今の若い人達には考えられなくなってしまうと思います。これは私もそうでしたが、小・中学校の遠足では、原爆ドームには行きません。はずかしながら、私は原爆ドームはよく見るのですが、原爆記念館は、私が小学校低学年の時一度、親に連れられて行ってもらっただけです。

時々、原爆ドーム付近を車で通ってみますと、観光バスが、何十台と駐車しており、どういふ関係のバスかと、プラカードを見て見ると、県外の修学旅行生だということがわかります。又、夜は若い男女のカップルのデートコースで、昔のおもかげを一つも感じる事が出来ません。

時代の進歩は早いもので、広島も百万都市の一つ、高速道路は完備され、この八月から

は、モノレールが開通し、本当に昔のおもかげは無くなって行こうとしております。そうした中で、昔の事を思い出すのは、昭和二十年八月六日の午前八時十五分、原爆投下の日です。この日だけは、朝から夜のニュース番組は、いやでも被爆地広島のことを放送しています。八時十五分から一分間は、朝の通勤ラッシュ途中、バスの中で、あるいは市内電車の中の人、広島の中の人達が無言とし、一瞬の内に亡くなった約二十万人の人達の冥福を祈ります。

しかし私は、一抹の不安を感じます。なぜならば、被爆体験者が減少し、真実が次第にうすれていくのではないかと心配しております。細川前首相の侵略戦争発言、又、アメリカ軍が投下し、犯した原爆でありながら、慰霊碑には、

安らかに眠って下さい

過ちは

繰返しませぬから

と、記されているのです。

私も被爆二世として、又、これからの世代を背負って行く一人とし、説き明かさないといけないと痛感している今日この頃です。

国旗掲揚と国歌斉唱について

谷^{たに}田^だ吉^{よし}暢^{のぶ}

今日、国を愛するということが、アメリカや韓国、北朝鮮、中国、世界各国で当然の教育とされています。しかし、現在のわが国で、愛国心は軍国主義に通じるという大衆操作が一部で行われているようです。一部で国旗と国歌を否定する人々がいる現実を前に、その根底には、日本人に愛国心を持たせないようにしている意図が見えているような気がします。

彼らは、軍国主義や悲惨な戦争を思い出させ、戦争美化の産物である日の丸のもとに、多くの日本人が戦死したといいます。もちろん英霊が、日の丸を戦争美化の産物と憎んで

いるはずがありません。譲ることはできないことですが、百歩いや万歩譲って、彼らの論理に従えば、戦争を経験した国家はその都度国旗や国歌を変えなければなりません。時代の流れの一部分の個人的な記憶と感情で、国旗と国歌を否定することは許されません。どうやらこうした人々は、東京裁判史観、南京大虐殺、朝鮮人慰安婦、侵略戦争発言などと、国旗や国歌を否定する人々は、すべて密接に繋がっているようです。東京裁判は日本人に公平な弁護人もつけずに戦勝国の一方的な論理で裁いた、ミセシメであったことは、皆さんご承知のとおりです。ここからありもしない南京大虐殺がでっちあげられ、この流れにそって、一部ではありますが、国民が自らの国に屈辱的な歴史観を持つようになってきたような気が致します。

日の丸を掲げ、君が代を歌い、私たちは日本人として心を結び、天皇陛下の弥栄と日本国民の永遠の繁栄を願ってまいりました。

国旗や国歌を愛するということが、愛国心を育むのに最も象徴的なわかりやすいものなのです。したがって、国旗や国歌を否定するということは、日本民族の誇りを捨てることではないでしょうか。こう申し上げると、最近では危険な民族主義者とレッテルが貼られるようです。しかし、自国の歴史に誇りを持って団結することができないならば、国家は崩壊

してしまいます。そして、日本というこの国家を象徴していらっしゃるのが天皇陛下です。

日の丸は、聖徳太子がわが国を「日出づる国」と認識したことに始まり、江戸初期の朱印船にも使用されました。幕末には白地に日の丸の旗が定められ、明治三年太政官布告により現在の日の丸になりました。日の丸は照り輝く太陽を意味し、万物を分け隔てなく等しく育む天照大神様です。庶民的にいえば、お天道様です。私達の祖先はお天道様を拝み、お天道様に誓ってまいりました。日の丸の中心となる丸い赤は、円満な心と国民の団結を表し、赤は誠意と勇氣、生地（生地）の白は清浄と純潔を意味し、日本人の歴史的な国民性をそのまま表現しているのが日の丸でありましょう。君が代は、古今和歌集の詠み人知らずの歌に源流があり、和漢朗詠集には現在の歌詞がそのまま納められています。江戸時代になると、もっと庶民的な盆踊歌、謡曲、浄瑠璃、浮世草子にあり、仏事や神事の宴席で私たちが日本人に愛されて、歌い継がれてきました。心ない人は、「君が代とは、天皇陛下が日本国民を支配する世の中を永遠に称えた歌である。主権在民を否定した歌を国歌とするとは、わが国の大きな恥である。」といえます。こうした人々は、日本国憲法を最も正しいものとして、靖國神社や護國神社に関する訴訟では憲法違反と騒ぎ立てています。しかし、彼らの大事にしている日本国憲法には、天皇陛下はわが国の象徴とされているのです。彼らは

一方で憲法を守れといい、舌の渴かないうちに日本国憲法を否定しています。日本国憲法は、マッカーサーの押しつけ憲法であり、前文にも種々論議がありますが、とりあえず、靖國や護國神社の訴訟する人々の論法によっても、君が代こそは憲法第一条の精神を称えた素晴らしい国歌ではないのでしょうか。どこに、君が代を国歌とすることに問題があるのでしょうか。

日の丸や君が代の成立は、極めて日本人の庶民的な生活を礎としたものでありました。岐阜県内の青年神職が中心となり活動している私たち神道青年会では、重点活動として主な祝祭日には国旗掲揚の街頭広報活動を長年行ってまいりました。

昨年、の神社本庁の評議会では、国旗「日の丸」、国歌「君が代」の法制化運動の推進が議決されています。日の丸や君が代が、国旗、国歌であることは誰にも否定できない事実です。しかし、法制されないのを根拠にこれを否定しようとする人々がいます。今や、国旗「日の丸」、国歌「君が代」の法制化は一日もはやく望まれるものであります。

神社と森

飯田博信

福岡市南区に鎮座しておられます熊野道祖神社の飯田でございます。第九回神道講演全国研修大会に初めて参加させて頂き、諸先輩の講話を拝聴し大変参考になりました。

日本人の古来の神は自然そのものであった。自然の森・水・岩など神であり、神のよりしろであることもあった。今でこそ神は社に鎮座するが、もっと古い時代は社などはない。わが国の神社は鎮座・鎮護・鎮守など、神の心を鎮める神域であり、神域は気候温暖で原生に近い深い森におおわれて、多くの樹木が生茂り神守の森があり、その中で神社の祭祀が継承され、多くの人々が集まり、魂のふるさとと同時に神宿る森として、心の拠所、災害時に対して避難場所としての機能も果たすと同時に、文化の中心とし、祭祀の広場と成り、祈りの場所として地域社会の最も重要な生存の基盤であった。しかし急速な都市化、自然の開発によって鎮守の森も自然に減少に向っております。

昭和十五年に父が着任した当時は、本殿だけで平家建、仮の祈願所だけで、其の後拝殿等建て、その間に神社に樹木が必要に感じ、林業試験場に足を運び、楠・槇等の苗木を購入し、参道の両側亦境内地植樹、崇敬者等よりの献木に依り、神社の樹木等も四十有余年の歳月を経て、鬱蒼とした神社の森が出来たのですが、境内地全面変更に伴い、伐採・仮植の止むなきに到った分けですが、何回も場所を替えたので殆どの樹木は枯れてしまったのです。

而しもう一度以前に繁った森を再生したいと思い、第一に樹木の生長に適した土壌作りが大事と考え、油粕骨粉等を施した。春秋の時季とも成りますと、落葉が多くなり、境内地の清掃に時間がかかりますが、焼却せずに木の回りに集めて置き、それが自然に腐敗し肥料と成り、土の中で落葉を食べるカビ・昆虫など、亦カビやバクテリア等に分解され、適当な水分が蒸発し、落葉の累積で養分を補給することによって、生きた土として植物を育てる機能を発揮するのです。境内樹木もスギ・カシ・楠・サザンカ・桜・ツツジ等を植え、神社の森を守る事が神職の使命と考え、万難を排して森の育成に努力したいと思う次第です。当社周辺も交通量も多く、道路もアスファルトに囲まれ、排気ガスも多く、高層建物等に依り水脈が寸断される状態になり、排気ガスに強い樹木等を植えて、みどりの確保につ

とめておる次第です。樹木の維持管理に資金もかかりますが、当社としても年二回の消毒薬剤散布、手入等をしております。

宅地化造成に依る森の破壊、日本人の主食である稲田等、農業後継者難等、色々な開発によって失われております。神社の森も保水力の大事な場所ではないかと思う次第です。

参道や社殿の周辺は、尊厳でかつ清浄な雰囲気を保ち、適当な木陰と、それに四季折りの花の咲く樹木を植え、崇敬者の参拝・祈り・憩いの場と集ってくれるような森へと仕上げたいと思います。

神に参拝をし神前に拍手を打つことは、神への感謝の念が外部に現れた形であり、神の鎮まり給う社は、また我ら庶民の安らぎの社であり、神社が心のよりどころといわれるゆえんであるので、ここに感謝の念が湧くのは当然なことといわねばなりません。自然保護の肝心なところは、我々をまもり我々を慈んで下さる神に対する社の木の数々に感謝する心が大切ではないでしょうか。神鎮まります社の森を目指して努力を致す所存です。

千早ふる神のひらきし道をまたひらくは人の力なりけり
神に対する謙虚な気持で神明奉仕を続けたいと思います。